## SGH報告書 「はじめに」

同志社国際中学校・高等学校 校長 川井 国孝

本校が SGH に指定されて2年が過ぎようとしている。本校の SGH の取り組み は、以前から本校で行われてきた取り組みを SGH の趣旨に沿うように再構築した ものであった。1年目の反省点を修正しながら2年目の取り組みを進めており、何 とか順調に構想を進めることができている。12月には2年生の代表生徒がヨーロ ッパへのフィールドワークに行き、今年の4月からはいよいよ政策提言を目指して 学びの最終段階に入ることとなる。



本校では、前述の通り SGH の構想のようなことは、以前から授業の担当者レベルで日常的に取り組ま れていた。そのため、SGH の構想を進めることにより、学校全体に目立った変化は起こらないだろうと 予想していた。しかし、予想に反して今までにはなかった生徒の意識の変化が、少しずつではあるが起 こっている。

再生可能エネルギーについての学びを進めるところから、生徒達が自主的に自分たちの生活の中でゴ ミ問題について考えて行動する組織が、生徒会役員と有志の生徒達で組織された。これから、再生可能 社会という視点で学校のゴミ問題について、改善策を検討し、全ての生徒への啓発及び企画実践を進め てくれることと期待している。

また、海外へのフィールドワークが行われることや、本校を訪問する留学生との交流、そして国際機 関への提言をすることも想定されているので、英語力を高めたいという意欲を実際に行動に移す生徒が 増えてきた。海外経験のない生徒達については本校が課外に設置している、英語で学ぶ科目"World English"の履修者が増えている。一方海外経験のある生徒達については、哲学オリンピック、ビジネス プランコンテスト、プレゼンテーション大会、World Scholar's Cup など、色々な分野で世界大会にチャ レンジする生徒が増えてきた。これには、そういう生徒の動きを、負担が増えるにもかかわらず、しっ かりサポートしてくれる教職員の存在が不可欠なことは言うまでもない。

SGH という恵まれた環境を活用し、これからも生徒達にとって有効な学びの仕組みを、学校全体で求 めて行きたい。

# 2016年度(平成28年度)SGH報告書目次

よしめ	(C. ) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (大) (	子
「異」	文化から多様性への誘い	〔司 4
I ス	ーパーグローバルハイスクール構想調書の概要	5
Ⅱ 実	施報告	7
2	開発カリキュラム GUS=Global Understanding Skills 2015 年(第1年次)	8
	2-1 GUS-B=Global Understanding Skills Basic(第 1 年次) ······	
	2-2 GUS-I=Global Understanding Skills Basic(第 2 年次) ······	
3	研究開発の実際	
	3-1 授業 GUS-BASIC(高校 1 年生) ···································	
	3-1-1 オリエンテーション	
	3-1-2 それぞれの自分が住んでいた地域や国で問題になっていたこと	
	3-1-3 MDGs から SDGs ~ · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	
	3-1-4 SDG s から環境問題へ ······	
	3-1-5 環境問題総論 そしてエネルギー問題へ	
	3-1-6 Rio+20 地球サミットでのウルグアイ大統領(当時)のスピーチから	$\cdots 17$
	3-1-7 エネルギー問題に着目して持続可能な社会を目指すための提案をしよう	
	3-1-8 一粒のペレットから	
	3-1-9 「一粒のペレットから②」・「環境経済学」	
	3-1-10 環境経済学	
	3-1-11 ドイツでの環境産業革命	
	3-1-12 里山資本主義	26
	3-1-13 「森林先進国」オーストリアの挑戦 - パイオニア・ギュッシングを訪ねて	27
	3-1-14 フライブルク・イム・ブライスガウ ① ···································	33
	3-1-15 フライブルク・イム・ブライスガウ ② ·······	
	3-1-16 これまでの流れと課題	36
	3-1-17 ワークショップ「それぞれの過ごした地域、国でのゴミの問題について」	37
	3-1-18 ゴミ問題の解決を探るロジカルツリーを作ってみよう	38
	3-1-19 ロジカルツリーをもとに解決策を探る	38
	3-1-20 プレゼンテーションに向けて	39
	3-1-21 ゴミ問題各クラス代表プレゼンテーション	39
	3-2 授業 GUS- I (高校 2 年生)	41
	3-2-1 「持続可能な社会を担うグローバル人材」のイメージ	41
	3-2-2 Rio+20 地球サミットでのウルグアイ大統領(当時)のスピーチ	42
	3-2-3 課題について提言のシュミレーションをしてみる	

3-2-4 できること・すべきこと	43
3-2-5 ユニバーサルデザインから	44
3-2-6 ドイツの現状	45
3-2-7 「危機」をキー・ワードに考える	46
3-2-8 ドイツ ヴォーバンに暮らす	47
3-2-9 ドイツ・オーストリア フィールドワーク報告	
3-3 講演 GUS-Basic、GUS- I ·····	49
3-3-1 講演 GUS-Basic (高校 1 年生)	
「開発途上国のジレンマ:ミャンマーを事例として」	
3-3-2 講演 GUS- I (高校 2 年生)	
3-3-2-1 グローバルリーダー論 1	
3-3-2-2 グローバルリーダー論 2	
3-3-2-3 グローバルリーダー論 3	
3-3-2-4 世界をフィールドとする学生活動	
3-3-2-5 世界をフィールドとする学生活動 同志社大学サー	クル国際居住研究会 63
3-3-2-6 活動を通じて出会い気付くこと、	
想像力を働かせることの重要性を学ぶ	
3-3-2-7 外交官家族 経験と視点	
3-3-2-8 海外で活動するということ「北欧の生活を通じて」	
3-3-2-9 「グローバル商品」	
3-3-2-10 持続可能な社会に向けて	
3-4 フィールド・ワーク	
3-4-1 フィールド・ワーク GUS-BASIC (高校 1 年生)	
3-4-1-1 行程表	
3-4-1-2 バイオマスツアー真庭	
3-4-2 フィールド・ワーク GUS-BASIC (高校 1 年生)	
3-4-2-1 行程表	
3-4-2-2 東京フィールドワーク 大使館・国際機関訪問	93
3-4-3 フィールド・ワーク GUS-I (高校 2 年生)	
3-4-3-1 行程表	
3-4-3-2 環境先進国ドイツ・オーストリア	
3-5 その他の取り組み GUS-I (高校 2 年生) Go Global Japan Expo	
3-6 その他の取り組み 2016 年度 SGH 活動報告会開催のご報告	100
資料	11 8
4-1 新聞記事、広報誌掲載記事       4-2 運営指導委員会記録	
4-3 調査 (Fragebogen) と自己評価 (Self-Evaluation)         4-3-1 GUS-B 自己評価ルーブリック基準表	
4-3-1 GUS-B 自己評価ルーノリック基準表	
4-3-3 GUS-I SGH アンケート 1	
4-3-4 GUS 表現能力と言語能力 調査	
4-3-4 GUS 表現能力と言語能力 調査	
	104

## 「異」文化から多様性への誘い

SGH研究開発実行委員会委員長 山本 真司

「持続可能な社会を担うグローバル人材育成プログラム ~環境先進国に学び世界に提言~」 私たちは壮大な切り口で SGH 研究開発に取り組み始めました。無限に広がる地球規模の課題からこのテーマを選んだのは、「環境」が包括的な概念であり、多様なサイズと方法で取り組むことができると考えたからです。私個人としては学生時代から「水」と「森」に気ままな旅やボランティアの形で関わりを持ってきました。例えば、ネパールでは現地 NPO や政府関係者と植林事業を通して循環型コミュニティー形成の一端に触れました。フィリピンでは水道敷設作業に汗を流し、インドの井戸募金、国境のない医師団への寄付など、ときどきに興味を持ち、できることを体験してきました。このような経験を踏まえて、「持続可能な社会」を共に担っていく人の育成が教育機関の大切な使命のひとつだと感じるのです。また、その経験と人脈を背景に「国際理解」と名付けた科目を開講してきました。そこでは「国際」というイメージを超えた課題選択、たとえば、「しょう害」をもつ人たちを独自の文化、個性として理解すること、「異」なることとの対話を言語に頼らないコミュニケーション方法を(用いて)学ぶ、「学校」「教室」から眺める景色ではないクラス、学校やクラスを全体から眺める視野の育成を試み、学校をホリスティックに発想し直そうとしてきました。

さて、わたしたちは「環境問題」を専門に教え、環境問題エキスパートを育成しようとしているのではありません。「環境問題」という課題を通してグローンバルイシューに気付き、その課題へのアプローチ、課題解決への道筋を学ぶ、「学びのかたち」を創造していくことを研究開発の目的としています。わたしたち、学校で教える者がファシリテーターとして定義されるべきカリキュラムを想定しています。専門のレクチャーは校外からの講師に委ね、そこから生徒と共に PDCA サイクルを利用して、クラスを展開しています。あくまでもアクティブラーニングを意識し、単元ごとに、KJ 法などの学習手法を念頭



に置いた授業展開を心がけています。それによって、クリティカルシンキングを養い、問題解決を生徒自身の主体性で学び取っていく手助けになると確信しているからです。本校では SGH 科目に限らず、多くの科目で学習者中心型学習、プロジェクト型学習、問題解決型学習、探求学習、アクションリサーチ等 21 世紀型スキルを縦横に駆使した授業展開を実践していることを特に記しておきます。

#### T スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

#### 【別紙様式5】平成27年度スーパーグローバルハイスクール構想調書の概要

指定期間	ふりがな	<b>ぶりがな</b> どうししゃこくさいこうとうがっこう		O / I / I	مادر وزيل ها		
27~31	① 学校名		同志社国際高等学校		校	②所在都道府県	京都府
③対象学科	④対象とする生徒数			⑤学	や校全体の規模		
名	1年	2年	3年	4年	計		
普通科	270	6 0	6 0		3 9 0	平成26年度	在籍者数833名
⑥研究開発 持続可能な社会を担うグローバル人材育成プログラム							
構想名	~環境先進国に学び世界に提言						
1年生必修科目「Global Understanding Skills(B					lls (Basic) 」を	:設置し、持続可能な社会	
) ⑦研究開発	について環境先進国の実例を学習する。2年生選択科目「Global Understanding Skills I」では、資源の有効活用や循環運用を、海外実地研修で学習する。継続履修する3年						
の概要							
の帆安	生選択科目「Global Understanding Skills Ⅱ」では、現地での学習を発表し、持続可						
	能社会の実現に向けた方策を、国際機関や地域社会に提案する。						

#### (1) 目的·目標

持続可能な社会を目指す先進的事例を身近な地域に置き換え、地域の特性に根差した、持 続可能な社会をめざす実践的取組の提言を策定する。その提言を日本語と英語で作成し、日 本語版は京都府と京都市に、英語版は国連環境計画(UNEP)と経済協力開発機構(OECD)に 提出する。この活動を通して地球規模で進む環境問題に対する問題意識と、それに対して能 動的に働きかけることのできる実践力を兼ね備えたグローバル・リーダーの育成及び、その 育成に資する教育課程の研究開発、教材の開発を本構想の目的とする。

#### (2) 現状の分析と研究開発の仮説

39か国からの帰国生徒と国内で生まれ育った一般生徒がともに学ぶ本校では、帰国生徒 の生活経験が、社会的事象に対する幅広い視野の獲得に十分には結びつけられておらず、生 徒間での共有も必ずしも十分には行われていない。帰国生徒の個別体験を全生徒が共有する とともに、世界的課題について系統的に学ぶことで、自己の経験のみによって形成された世 界観から脱却し、より普遍的な課題の中に、自らの体験を位置づけることができるようにな る。その際、同志社大学、同志社女子大学から講師を招聘しテーマに即した講演を企画する ことで、一貫校としての連携がより組織的なものとして強化される。

また、世界的な課題を解決するための具体的方策を考察することで、現状においては教科 指導内に留まっている課題発見能力、プレゼンテーションやディスカッションの能力の育成 を、実際の政策提言の策定の作業にも拡大していくことができる。こうして策定したものを、 最終的に関係諸機関に対して提言することにより、その提言が具体的な働きかけの次元に発 展させられる。

以上の方法によって、地球規模で進む環境問題に対する問題意識と、それに対して能 動的に働きかけることのできる実践力を兼ね備えたグローバル・リーダーを育成するこ とができると考えられる。

#### (3) 成果の普及

課題研究の成果として、持続可能な社会について、地域社会や国際機関に実際に提言を 行う。同志社小学校、同志社国際学院初等部の小学生を対象に環境教育を行うことで持続 可能な社会を維持する実践を取り入れる。さらに、生徒の作成したレポートや研究論文を 学校ホームページ上で発信し、学内外での研究発表会も実施する。

#### 研 究 開 -1 発 全 ഗ 内 容

(8)

等

## (8) -2 課 題 研

#### (1) 課題研究内容

持続可能な社会に向けた政策提言のため、以下の科目を新設する。

- ア「Global Understanding Skills(Basic)」【基礎的知識の習得】
- イ「Global Understanding Skills I」 【課題解決学習、フィールドワーク】
- ウ「Global Understanding SkillsⅡ」 【課題解決学習】

ア〜ウの科目を設置し、環境先進国であるオーストリア、ドイツの事例を参考に持続可能な 社会について学び、提言できるグローバル人材育成のためのプログラムを開発する。

#### (2) 実施方法・検証評価

≪実施方法≫

#### 【1年生】

- ・帰国生徒、一般生徒の生活経験の共有のためのグループワークを実施し、グローバル な社会課題につながる経験を抽出する。
- ・大学の教員を講師として招聘し、グローバル社会や環境問題についての基礎的知識を 獲得させる。
- ・環境先進国であるオーストリア、ドイツの事例について学習する。

#### 【2年生】

- オーストリア、ドイツでのフィールドワークへの事前学習をする。
- オーストリア、ドイツでのフィールドワークを実施をする。
- フィールドワークの報告冊子、ホームページを作成する。
- 海外提携校とのディスカッションやテーマ学習を行う。
- ・政策提言の準備として関係諸機関についてリサーチし、関係諸機関との質疑を行う。 【3年生】
- ・京都府、京都市、国際機関(UNEP、OECD)に日本語、英語で政策案を立案し、政策提 言を行う。
- ・小学生への環境教育を行う。
- ・全校生徒に対して発表会を行う。

#### ≪検証評価≫

- ・レポート、報告書、政策案を担当教員と招聘した講師が評価する。
- ・政策に対する関係諸機関からのフィードバックを受ける。
- 生徒自身による相互評価を行う。
- (3) 必要となる教育課程の特例等

特になし。

#### (1) 課題研究以外の研究開発の内容・実施方法・検証評価

既存の選択科目「English Elective」として2年生に新講座「Research, Debate, and Presentation」を設置し、3年生には「Advanced Academic English」を設置する。2 年生 では、プレゼンテーション、ディベートの方法、さらに議論の質を高めるためのリサーチス キルを身につけさせる。3年生では、『Cambridge Academic English』を用いて基本的な文 献調査の方法、レポート作成方法などの基礎的なスキルを身につけさせる。

# (2)課題研究の実施以外で必要となる教育課程の特例等

## (3) グローバル・リーダー育成に関する環境整備、教育課程課外の取組内容・実施方法

Smith College、 Phillips Academy Andover、 Harvard University など提携校へのサマ ープログラムへの派遣を継続する。アメリカ、イギリス、ドイツ、フランス、台湾、大韓民 国の提携校との交換留学を継続すると同時に、課題研究でプロジェクトを立ち上げ、提携校 の高校生との意見交換のための議論の場を設定していく。

#### 9その他 特記事項

8

-3

上

記 以

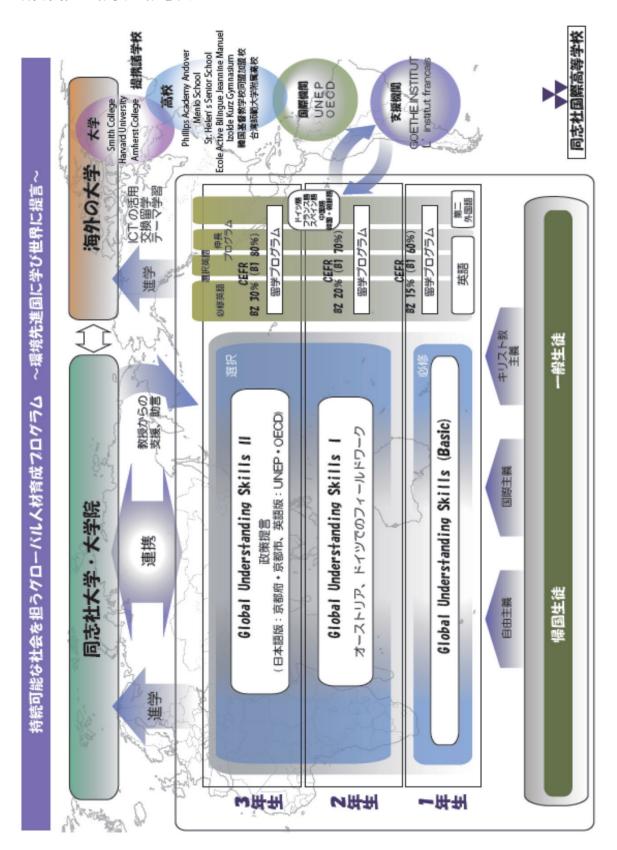
外

課外で「Global Enterprise Challenge」(アントレプレナーシップ開発センター主催)に応 募し、世界大会への出場、入賞を目指す。「Global Enterprise Challenge」は、世界中の高校 生によるビジネスプランコンテストで、取り上げられる課題はグローバルな社会課題が中心 である。平成25年度は校内予選を経た本校代表が国内1位となり世界大会に出場した。

# 究

#### 実施報告 ${\rm I\hspace{-.1em}I}$

#### 研究開発の概要 概念図 1



#### 2 開発カリキュラム

#### 2-1 GUS-B=Global Understanding Skills Basic (第1年次)

2016 年度シラバス

学 年	高校1年	必修	・選択	の別	必修
教科名	総合的な学習(SGH 科目)	単	位	数	1 単位
科目名	GUS Basic	<del>1</del> 11	M	±×.	坂下淳一・戸田光宣
講 座		担	当	者	• 佐藤靖子 • 帖佐香織

#### 科目のねらい(目標)

世界的に解決すべき問題(グローバルイシュー)を取り上げ、それらの問題が現在解決に向けて、どのように取り組まれているかを学ぶ。環境問題にスポットを当て、持続可能な社会を目指す先進的事例を、実際に国内で行われている地域へのフィールドワークを含め、学ぶ。環境問題に対する問題意識と、それに対して能動的に働きかけることのできる実践力を兼ね備えたグローバル・リーダーとなるための、基礎的な力を育成する。

#### 学習の進め方

全体に対する講義の形式とグループワークを中心としたクラス単位の授業の双方を生かした形の授業です。

#### 生徒の学習上の留意点

世界の問題を自分の問題としてとらえられる主体性が必要です。自分が関心をもった問題を中心に自らインターネットや本を使ってさらに調べて勉強したり、ニュースを見ること、そして周囲の人とぜひ意見交換をしてみてください。授業中は知的好奇心をもって、グループワークではぜひコラボレーションを大切に。この授業を通じて一人ひとりが世界や環境への関心を高め、さらにこれから勉強したいテーマを見つけてもらえればと思っています。

#### 評価方法

学年末に認定、不認定を評価します。

#### 使用教材

すべて授業中に配布します。

授業計	画	
学期	授業内容	各単元のねらい
1	グローバルな社会課題について MDG s から SDG s へ グローバル化時代における国際協力 環境問題総論	身近な経験にもとづく問題意識の共有から、グローバルな社会課題にはどのようなものがあるかを概説的に学んだ上で、グローバル化時代において私たちが世界を良くするためにできることは何かを考える機会をもつ。国連の取り組みや環境問題について、基本的な知識を得る。
2	環境経済学の基本的な考え方 政策学の基本的な考え方 京都の森林活用事例について 岡山県真庭市の取り組み(FWを含む) ドイツ・フライブルク市の取り組み オーストリア・ギュッシング村の取り組み	環境経済学や政策学の考え方を学び、環境問題を解決していくための方策について探る。国内外の実際の取り組みについて知る。
3	環境法(ヨーロッパを中心に) エネルギーシフト ヨーロッパの都市計画や政策事例について	日々の生活に直接的にかかわるエネルギーの問題を含め、より良い都市計画や政策について検討していく。

#### 2-2 GUS-I=Global Understanding Skills Basic (第2年次)

2016年度シラバス

学	年	高校2年	必修	・選択	の別	選択
教科	名	任意設置科目	単	位	数	2
科目。	名	Global Understanding Skills I	-Lm	MA	44	八十古司
講	莝	1, 2講座	担	当	者	山本真司

#### 科目のねらい(目標)

SGH 研究開発の二年次に位置付け、環境先進国の調査とフィールド・ワークへの準備を中心とする。 また、有効な発信手段とそのルートを探る。持続可能な社会を目指す先進的事例を身近な地域に置き 換え、地域の特性に根差した、持続可能な社会をめざす実践的取組の提言を策定する。この活動を通 して地球規模で進む環境問題に対する問題意識と、それに対して能動的に働きかけることのできる実 践力を兼ね備えたグローバル・リーダーの育成を目標とする。

#### 学習の進め方

リーダーシップ論とクリティカル・シンキング方法論をアクティブ・ラーニングの手法を駆使して展 開する。種々の資料と題材を提供し、そこから課題を発見する。その課題を個人作業とグループ・ワ 一クを織り交ぜて解決する方法を考えさせる。また、作業過程と結果を発信する場所と方法を独自に 考えさせて、実際に試みる。クラスから一定の生徒を選抜し、ドイツ、オーストリアでフィールド・ ワークを実施する。

#### 生徒の学習上の留意点

課題に対して積極的にコミットし、個人の努力とグループの力を引き出す工夫が求められる。所与の 方法を超えて、独創的な発想や実践を提案することを期待している。すでに獲得している教養や語学 力を一層伸長する持続的な学習が求められる。

単元ごとのレポートとインタビューによって評価する。授業用サーバを利用して、保存されたレポー トを双方向的に改善していく。

#### 使用教材

リーダーシップとクリティカル・シンキングを基礎とした教材。グローバルイシューに関連する境界 を持たない種々の媒体を利用する。

\*クリティカルシンキング Critical Thinking(CT) 批判的思考 ものごとを鵜呑みにせず,自分で 問題に適切な方法で考える手法。

\*アクティブ・ラーニング Active Learning(AL) グループ・ディスカッション、ディベート、グル ープ・ワークを含む生徒の能動的な学習方法。本講座では主に LTD(Learning Through Discussion) マイクロ・ディベート、ジグソー、Think-Pair-Share、ラウンド・ロビンなどを使用する。

授業計	授業計画					
学期	授業内容	各単元のねらい				
	グローバルイシューとは何か	グローバル・リーダーに学ぶ TEDx				
		グローバル・リーダーのイメージを獲得する				
1		グローバルイシューの抽出 Mujica スピーチ				
		仮想水、+6℃、G7環境会議コミュニケなどの				
		教材から緊急課題を抽出				
	グローバルイシューの分析と対策	EEE、BUND をはじめ、すでに一定の成果を収				
		めている先行事例を学び、フィールド・ワーク				
		の準備をする。居住地域や居住経験のある国な				
2		どの事例との比較学習を実施する。				
2		本研究開発のフィールドである Freiburg i.B				
		および Hamm/Westf (ドイツ連邦共和国)、				
		Salzburg,Güssing(オーストリア共和国)に関				
		する詳細な調べ学習を実施する。				
	学習成果のまとめ、発信する	比較学習とフィールド・ワークの成果を共有し、				
3		発見したグローバル・イシューの解決に向けた				
		学習成果をHPなどで発信する準備をする。				
		(GUS-2 に向けた準備作業)				

#### 研究開発の実際 3

#### 3-1 授業 GUS-BASIC (高校 1 年生)

#### 3-1-1 ● 2016/04/09 オリエンテーション

スーパーグローバル・ハイスクール (SGH) の GUS Basic クラスが新しい高校 1 年生を迎えてスター トしました。初回は、オリエンテーションとして、SGHとは、また本校のSGHへの取組みのテーマ が「持続可能な社会を担うグローバル人材育成プログラム~環境先進国に学び提言」ということの解 説、担当教員の紹介、1年間の授業の流れ、評価方法、取組み等について説明を受けました。グローバ ルイシューとはどんなものがあるのでしょう?それぞれの今まで、そしてこれからの経験を踏まえて 感じることを大切にしながら、新しい発見とそしてそれを実際に形にして、周りに発信していけるよ う学んでいきます。

#### 3-1-2●2016/04/16 それぞれの自分が住んでいた地域や国で問題になっていたこと

4月16日のGUS Basic の授業は、各クラス単位に別れて「それぞれの自分が住んでいた地域や国で問 題になっていたことについて」KJ 法を取り入れ、小さなこと、大きなことに分けて意見を出し合い、 その中から「global issue」と思われるものを取り出して、カテゴリー分けをしてみることに取り組み ました。また、身近な小さな問題も含めて取り上げることにより、「global issue:地球的規模での解決 が必要な問題」が何であるかを、まずは今までの知識を基に考えて見ることができました。











#### 3-1-3 2016/04/30 MDGs から SDGs へ

今日は、コミュニケーション・ホールにおいて帖佐香織教諭による「MDGs から SDGs へ」をテーマ とする講義がありました。

MDGs、つまり Millennium Development Goals(ミレニアム開発目標)では、2015 年までに達成すべ き測定可能な 8 つの目標を掲げた行程表が具体化された形で、国際社会が直面する中心的な課題に対 するグローバルな行動計画として設定されました。さらに 2015 年には SDGs、つまり Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)が合意され、MDGsが達成できなかった内容に加え、環境 問題を含む現在の課題に対する新たな内容も含み、持続可能な開発をキーワードとする 17 の目標が設 定されました。SDG s は先進国、途上国すべての国を対象とした普遍的目標となっています。

具体的に MDG s の内容と成果、SDG s の内容についての説明の後、パン国連事務総長の「すべての人 びと、場所から行動を起さなければなりません」という言葉が紹介されました。様々な課題があり、 また解決方法も 1 つではない中、今後も生徒それぞれが持続可能な社会というキーワードを頭に問題 意識を高めて行くことが望まれています。











## MILLENIUM DEVELOPMENT GOALS: MDGS ミレニアム開発目標 目標5:妊産婦の健康状態の改善 • 目標6:HIV/AIDS、マラリア、その他の疾病のまん延防止 ・目標7:環境の持続可能性の確保 目標8:開発のためのグローバル・パートナーシップの構築 この目標は全世界ではどのくらい達 成されたか。地域別ではどうか?

#### ミレニアム開発報告

~かつてない取り組みが計り知れない成果をもたらした

#### ・国連ミレニアム開発日標成果報告

目標1 極度の貧困は大幅に減少。1990年に開発途上国の約半数が

1日1.25ドル未満で生活していたがその割合は14%まで低下。

日標2 過去15年間で初等教育紬就学率が85%から91%に

目標3 過去20年間で90%以上の国で女性国会議員が増加。

目標4 世界全体の幼児死亡数が1270万人から600万人に減少。

ミレニアム開発報告 ~かつてない取り組みが計り知れない成果をもたらした

#### 国連ミレニアム開発目標成果報告

目標5 妊産婦死亡率減少。熟練医療従事者のもとでの出産は1990年の59%から71% に増加。

目標6 HIVの新たな感染者は2000年から2013年まで40%低下。

目標7 改良された飲料水源の利用者は76%から91%に改善。 目標8 先進国からの政府開発援助(ODA)は15年間で66%増加し、1352億ドルに。

インターネット普及率は15年間で6%から43%に増加。

#### 新たな開発アジェンダ(行動計画・検討課題) として・・・・

・ MDGsによる多くの成功の陰で、最も貧しい人びと、最も脆弱な人 びとが置き去りにされている。進展は一様ではなく、大きな格差が

根強く残る男女不平等

男性の4分の3が労働に従事するが女性は2分の1、所得は女性が男性より 24%少ない

極度の貧困

18位人、毎日約16000人の子どもが5歳になるまでに死亡、 8億8000万人がスラムに暮らす 最食層世帯と最富裕層世帯の間、および農村部と都市部の間の施差

### 新たな開発アジェンダとして・・・

気候変動と環境悪化がこれまでの進展を切り崩し、貧困層が最大の被害者になる。

貧困層は生計が天然資源と直接的に結びつくことが多い

紛争による難民の増加

-国にまとめると世界で24番目に大きな国となり、その半数は子ども



#### 新たな開発アジェンダとして・・・

MDGアジェンダの成功はグローバルな取り組みが有効であることを物 語っている。

新たな開発アジェンダが誰ひとり置き去りにしないためにはグローバル な取り組みしか道はない。

#### 測定されるものは、改善される。

数えていなかった人を数えることによって、手を差し伸べていなかった人 に手を差し伸べることができる。すべての人びとにとって持続可能な開 発を達成するための意思決定や進捗のモニタリングを行う上で、良質な

#### 新たな開発アジェンダとして・・・

- ・新アジェンダの中心に据えられる持続可能な開発は地球上の一人 ひとりにとって現実のものにならなければならない。
- ・新しい行動計画、SDGsはどのようなものに なったでしょうか?
- https://youtu.be/dga-EUNKT3E

#### USTAINABLE DEVELOPMENT GOALS (SDGS) 持続可能な開発目標

2015年9月25日~27日、ニューヨークで決定

17の目標と169のターゲットを設定する。

MDGsを基にして、MDGsが達成できなかったことを目指す。

持続可能な開発の3つの側面(経済、社会、環境)を調和させるもの である。

先進国、途上国すべての国を対象とした普遍的目標である。

#### USTAINABLE DEVELOPMENT GOALS (SDGS)

持続可能な開発目標

目標01 貧困

・目標02 飢餓と持続可能な農業

目標03 健康と福祉

・目標04 教育と生涯学習 目標05 ジェンダーと平等

目標06 水と衛生の利用可能性、持続可能な管理

目標07 持続可能なエネルギーへのアクセス確保目標08 持続可能な経済成長と人間らしい雇用

・目標09 インフラ、持続可能な産業化、イノベーション

・目標10 国内、国家間不平等の是正 ・目標11 持続可能な都市と人間居住

日標12 持続可能な生産消費形態

#### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS(SDGS) 持続可能な開発目標

目標13 気候変動とその影響を軽減するための緊急対策

目標14 海洋、海洋資源の持続可能な利用
 目標15 陸域の生態系保護、森林経営、砂漠化への対処

目標16 (持續可能な開発のための)司法へのアクセス、説明責任
 目標17 (持續可能な開発のための)グローバル・パートナーシップ

・「国連に加盟するすべての国は、全会一致で採択した アジェンタをもとに、2015年から2030年までに賃用や 朝銀 エネルギー、気候変動、平和的社会など、持続 可能は開発のための諸目標を達成すべいを尽くはま

# ABLE GOALS ø $\subseteq$ GOALS

#### さて、73億人の人類はどうすれば・・・

「みなさんがリードすることを求めます。すべての人びと、場所か ら行動を起こさなければなりません。気候変動はパスポートを持 ちません。あらゆる場所で発生し、すべての国に影響を及ぼしま す。すべての人びとに役割があります。私たちは変化を生み出 すことができるのです。今こそ願望から行動に移さなければなり ません。」

https://youtu.be/-WsHgNbt2Kl?list=PLNe0pDYSfDivmEEe5jMS14Ws-KnZxpS **気候変勤対策セリードする: 用品文 回道事務**額

#### さて、73億人の人類はどうすれば・・・

いろいろな課題があり、解決法も1つではあり

みんなで勉強し、思考し、議論して、豊かな世

界をつくっていければと思います☺

https://youtu.be/RpgVmvMCmp0

#### 3-1-4●2016/05/28 SDGsから環境問題へ

私たちの周りには、どれほどのグローバルイシューとされる問題があるでしょうか。今日の授業では、 以前にそれぞれが住んでいた地域や国の問題を KJ 法を用いていくつも挙げたトピックについて、グロ ーバルイシューの考え方、そして実際の開発現場での現状と困難さを学んだことを通して、振り返り ました。先進国である日本に現在住んでいるから、また開発途上国に住んでいたからと実感していた、 またはできていなかった問題等さまざまですが、改めて SDG s の 17 の目標と対比し、グローバルイ シューにあたるものはどれなのか、どれだけ理解をできているかについて話し合いました。

SDG s では、先進国も対象とした普遍的な目標を目指そうという面が意識され、そのことから環境問 題がフォーカスされています。生徒たちの話し合いの中でも、気候変動、海、陸の豊かさを守る、安 全な水という問題を挙げているケースも多く、これはまた環境問題が貧しい国の人たちの生活を守る ことにも直結している問題であることを再認識します。2030年、まさに自分たちの過ごす未来をどの ような世界にするのか、問題解決のためにどのような行動を起こすべきか、まず問題の認識を深める 授業になりました。

次の2回の授業では、「環境問題総論」として環境問題についての知識を深めていきます。









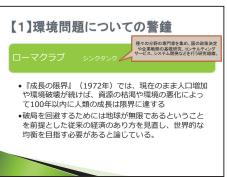
# 3-1-5●2016/06/04,11 環境問題総論 そしてエネルギー問題へ

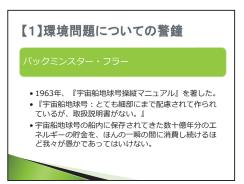
4日、11日の2回に渡り、坂下淳一教諭による「環境問題総論」について講義を受けました。 環境問題はごく最近の問題というわけではありません。シンクタンクであるローマクラブは1972年に 「成長の限界」を発表し、このままでは100年後には人類の成長は限界に達すると述べています。ま たバックミンスター・フラーは1963年の著書「宇宙船地球号操作マニュアル」で、地球を宇宙船に例 えて、「地球は実に巧妙にできているが、その操作マニュアルがない。したがって、その操作は我々に 託されている」と警告しています。また、「保存しているエネルギーを一瞬の間に消費し続けるほど我々 が愚かであってはならない」として警鐘を鳴らしていたのです。

また NHK ECO CHANNEL より、日本の60年ほど前の番組映像を紹介し、四日市ぜんそくや水俣病など、当時の公害の実態が紹介されました。この時代は経済発展が優先され、さまざまな環境問題が問題となったという状況を理解しました。2回目の講義では、環境省が環境白書で提示している9つの環境問題について、理解を深めました。これら9つの問題は独立している訳ではないこと、そして関連性がどこにあるのか、特にエネルギーとの関連性について学びました。

化石燃料を使用することが原因で引き起こされる環境問題として地球温暖化、酸性雨等が挙げられる中、先進国としての最重要課題としてエネルギーの節約、環境を悪化させない新しいエネルギーの開拓が求められています。今後は、環境問題解決に向けて、これまで学んだ基礎的な知識を土台にして発案・提言することに挑戦していきたいと考えています。





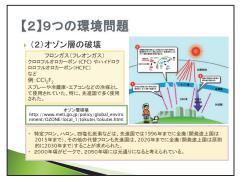










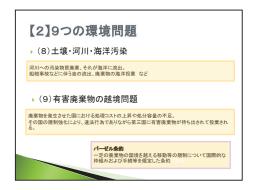


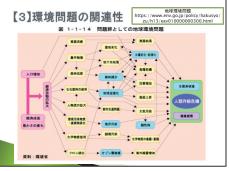












## 【4】それぞれの環境問題の特徴 ▶ ◆ほぼ対応済み (2) オゾン層の破壊 ▶ ◆化石燃料に頼っていることによるもの (1) 地球温暖化 (3)酸性雨 ◆その他 人口増加、貧困、食糧危機、先進国の大量消費などが、絡み合っている

#### 【5】環境問題とエネルギー問題

- ▶ (1) 化石燃料を使用していることが原因である 環境問題がある。
- (2) エネルギー源として化石燃料が枯渇する。
  - ⇒ 新しいエネルギー源を必要としている
- → (3) したがって、科学的、技術的な問題として、次の
  - ことは最重要課題である。
    - ◆1 エネルギーを節約すること ◆2 環境を悪化させない新しいエネルギーを
      - 開拓し、採用すること。

#### 【6】エネルギー源問題の対応策

- 化石燃料から、他のエネルギーへの変換が必要
- さまざまなものは有限であることを意識して、持続可能なシステムを構築する必要性
- ▶ ① 直接的には、運輸・交通面での変更は、現在のところ
- 大きなポイント
  - 航空機や船舶は対応していない
- ▶ ② 電気エネルギーが必要であるが、何から得るか

#### 【6】エネルギー源問題の対応策

② 電気エネルギーが必要であるが、何から得るか

#### 原子力

反応をコントロールできていないため、安全性に問題がある

#### 再生可能エネルギー

- ■太陽光 エネルギー密度が小さい。昼夜や天候に左右される。
- ■風力、地熱 エリアが限定される。
  ■水力 初期投資が大きく、エリアが限定される。
  ■バイオマス 持続可能な循環型。エリアの限定もない。













#### 【8】バイオマスについて

- (1) 生物由来の有機性資源のうち、化石燃料を除いたもの
- もともとは、生物 (bio) の量 (mass) のこと。 今日では、再生可能な、生物由来の有機性エネルギーや資 源(化石燃料は除く)をいうことが多い。
- 基本的には草食動物の排泄物を含め1年から数十年で再生
- 産できる植物体を起源とするものをいう。

  - ・間伐材などの利用されていないもの・食品廃棄物など・イネわら、トウモロコシなどの資源作物 など

#### 【8】バイオマスについて

- 「カーボンニュートラル」である
- 排出される二酸化炭素と吸収される二酸化炭素が同じ量
- である、という概念。
- 植物をエネルギーとして利用する際に排出される二酸化炭素と、その植物が生長する過程において(光合成によっ て) 吸収された二酸化炭素が同じ量であること。

石油などのいわゆる化石燃料に含まれる炭素も、かつての大気中の二酸 化炭素が固定されたものであるが、それらが生産されたのは数億年も昔の ことであり、現在、それらを使用することは大気中の二酸化炭素を増加させ

ている。 したがって、化石燃料についてはカーボンニュートラルであるとは言わない。



#### 【8】バイオマスについて

- (2) バイオマスの利用の種類
- ① 熱化学的変換
- 固形化したペレットなどを燃焼させ、熱や発電して利用
  - ・バイオディーゼル燃料 油脂を燃料として利用
  - ② 生物化学的变换
- ・メタン発酵
  - バイオマスを微生物で分解させてメタンガスを得る。
- ・アルコール発酵
  - 糖に酵母を加えてエタノールを得る。

## 【9】我々が着目するテーマ ■ バイオマスを利用して、新しいエネルギー源とすること。 ■ エネルギー問題、エネルギー源の問題を社会に組み込む。 例① ドイツのフライブルグ 環境政策がしっかりとし 廃棄物・リサイクと 都市計画・景観政 例② オーストリアのギュッ: 豊富な森林資源を利用し を行ったモデル地域として知られ これらの試みや効果を調査することにより、我々の地域での可能性を考え、地域や世界に提言をしていこう!!!

#### 3-1-6●2016/06/18 Rio+20 地球サミットでのウルグアイ大統領(当時)のスピーチから

「日本人は本当に幸せですか?私はそれが知りたいのです。」先日、ウルグアイのホセ ムヒカ氏、元 ウルグアイ大統領が来日しました。 ムヒカ氏は 2012 年ブラジルで行われた Rio+20 地球サミット (国 連持続可能な開発会議)でのスピーチが世界中の人びとの心に響き大きな反響を呼び、ノーベル平和 賞の候補にも選ばれた人物です。そのスピーチでは何が語られたのでしょう。授業では今までの環境 問題について学んだことを踏まえて、印象に残った言葉から共感できる部分、出来ない部分を取り上 げ、またその後は具体的にそこからわかるやるべきことと問題点に及ぶまでをグループで話し合い、 意見を活発に出し合いました。

ムヒカ元大統領は非常につつましやかな生活を送りその収入の90%を寄付していたことから、世界で いちばん貧しい大統領としても知られています。

彼はこう言います、

「私は世界で一番貧しい大統領と呼ばれますが、私自身は貧しいと感じていません。かつての賢人た ちはこう言っています。貧乏な人とは、少ししかモノを持っていない人ではなく、無限の欲があり、 いくらあっても満足しない人のことです。」

「発展は幸福を阻害するものであってはいけないのです。」

「グローバリズムを私たちはコントロールできているでしょうか?逆にコントロールされてはいない でしょうか。」

「私たちが直面する巨大な困難は決して環境問題ではなく消費社会をコントロールできなくなってい る明らかに政治の問題なのです」

「我々は発展するためではなく、幸せになるためにこの地球にやってきたのです。」

「使い捨て文明を支える悪循環の中にいます」

「発展は必要最低限のもので満足するためにあるべきものなのです。」

「環境のために闘うのなら一番大切なのは人類の幸せであることを忘れてはいけません。」

この他にも、これからの環境問題を考えるヒントとなる印象に残った言葉がいくつもありました。







#### 3-1-7 ● 2016/07/02 エネルギー問題に着目して持続可能な社会を目指すための提案をしよう

先週、Rio+20 地球サミットでのウルグアイ大統領のムヒカ氏の数々のメッセージから、共感できる、 できない点について共有しました。今日の授業は、その発言を元に、持続可能な社会を維持していく ために我々は一体何ができるかを話し合うグループワークを行いました。

ムヒカ氏も語っていました、「石器時代に戻れと言っているのではないのです。」と。 石器時代に戻らず、我々の満足感を満たしながら、持続可能な社会を維持するためにはどのような工 夫が必要でしょうか。枯渇しつつある化石燃料に頼っている現代社会において、以前から問題に取り 上げているエネルギーに着目し具体的に下の4つに区分して考えました。

- ① 身近な生活(個人や家族、学校のレベル)
- ② 市や都道府県のレベル
- ③ 国のレベル
- ④ 地球全体

無理だと思うことも思い切って意見を出し合うことで、静かになることなく活発な意見が飛び交って いました。例えば①では身近な節電の工夫、②ではエコ活動の推進のための啓蒙活動、③ではリサイ クルやごみ収集等の公共施設の充実、新しい政策の提案、④では国際協力、開発途上国も一緒に考え る等といった案が次々に出され、以前から使用している各グループの用紙にさらに加えられていきま した。

夏休みは、ニュースや新聞、書籍を通して、さらに意識を高めて欲しいと考えています。













#### 3-1-8●2016/09/03 一粒のペレットから

いよいよ GUS Basic の 2 学期の学びがスタートしました。1 学期には、何も情報や知識のまだない状 態でそれぞれが地球規模で解決しなければならない問題について考え、問題解決のためのアイディア をとにかく多く出し合ってきました。

今日は、すでに実践にうつされている身近な地域の取り組みについて、実際に現地に赴きわかったこ とを交えた佐藤教諭の講義を通して知ることになりました。特産品の北山スギに代表される木質資源 を活かして、地域活性化に取り組む地元京都のペレット工場「森の力京都株式会社」、そして「バイオ マス産業杜市」をめざすまちぐるみの取り組みが地域活性化のモデルとなりつつある岡山県真庭市が 取り上げられました。「木質ペレット」とは製材過程で発生する廃材など木材のみを原料とする燃料で すが、この小さな粒が林業の活性化、そして地域の活性化、さらには社会全体の、持続可能なエネル ギー循環のしくみにつながると期待されています。この取り組みは、日本の豊かな森林資源の価値を 見直し活用していこうとする取り組みといえます。ともに木質ペレットを製造している2つの地域で すが、取り組むことになった出発点も、また現状にも大きな違いがあります。双方の取り組みを比較 検討し、多様な視点から、それぞれの地域にあった理想の形を模索していきたいと思います。



GUS(Basic) 2016.9.3

佐藤靖子













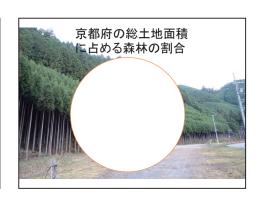


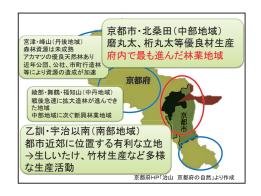


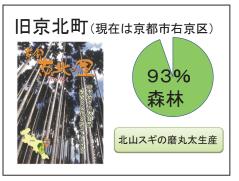




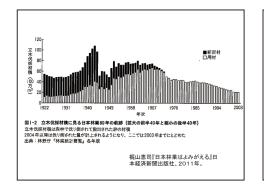


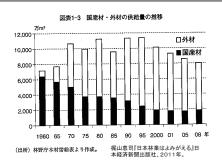


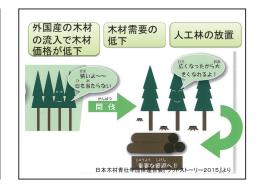




















#### 3-1-9●2016/09/10 「一粒のペレットから②」・「環境経済学」

先週の佐藤靖子教諭による「一粒のペレットから」の講義の続きです。再生エネルギーとして使用さ れるペレットの生産地である京都府旧京北町、そして岡山県真庭市、今日はその 2 つの共通点や相違 点から学びます。佐藤教諭が実際に旧京北町から持ち帰ったペレットを全員が触り、匂い、その一粒 に詰まる思い、可能性について考え始めることから授業がスタートしました。ペレットは木のとても いい香りがします。

旧京北町も真庭市も共に山林面積が80%以上という自然に恵まれた特性がある一方、高齢化、人口の 流出、産業の空洞化といった共通の問題を抱えています。旧京北町は林業の活性化によって、若者が 自分の生まれ育った町で仕事も得て生きていけるよう、真庭市は木材の優良企業が立地する強みを生 かし、市全体を「バイオマスタウン」としてブランド化し、人口流出を防ごうとしています。いずれ も、豊かな森林資源を生かして、「エネルギーの地産地消」を実現させることにより、地域の活性化を 図ろうとしている点は共通です。それぞれのペレットには、地球全体の温暖化や資源の枯渇といった 決して壮大なグローバルイシューの解決のための思いではなく、あくまでそれぞれの地域問題解決の ための思いが詰まっていました。ただ自分の地域を活性化させたいという行動が、結局はグローバル イシューの解決にも繋がっているということがわかります。

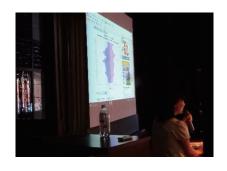
最後に、「実際に真庭市を訪れ、問題解決のために行動している人たちを訪ねてみませんかとフィール ド・ワークの告知がありました。改めて詳細についてはアナウンスがあります。

引き続き、帖佐香織教諭による「環境経済学」の授業が始まりました。

「ペレットを燃料とするペレットストーブが、市場で20万円(ただし手動)と45万円(自動)で売 っていたらあなたはどちらを買いますか? |

「環境にいい、豊かな生活、公共政策で40台に限り補助金も出る、さあ購入してみようかなと思った ところ、ネットではエアコンが3万円台でした。さてどうしますか?」

という問いかけでみんな困ってしまいました。やはりエアコンを買うと即答する人もいました。今日 は、なぜ環境問題に経済学なのかという導入の部分です。社会の構造を知り、その中でどうすれば人 びとが環境にいい行動をとるのか、環境問題を経済や政策の観点からさらに次回の授業で考えていき ます。









一粒のペレットから②

GUS(Basic) 2016.9.10 佐藤靖子

# 久保さんの思いの詰まったペレット



## 真庭市と旧京北町の共通点

高齢化·人口減少

山林面積が市の 面積の80%以上

産業の空洞化

林業の衰退

働き手世代が都 市部へ流出

人工林の荒廃

## 真庭市と旧京北町の相違点

#### 旧京北町の場合 <u>真庭市の場合</u>

高速道路開通による人材 流出への危機感

地域の若者が自主的に 始めた「21世紀の真庭

塾」からスタート 優良企業が立地するとい う強みを生かし、市全体を

その歯車のひとつとして の木質ペレット事業

林業再生が事業の最大 の動機

市役所が事業者に企画 をもちかけたことがきっ かけ 問題意識に共鳴した林

業の若手有志で事業を 立ち上げ

まずは木質ペレット事業

### 真庭市の場合

#### 銘建工業

集成材製造過程で できた端材を利用

成分均一 乾燥の必要なし

原料コスト なし

## 旧京北町の場合 京都を代表する

林業地域

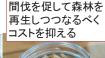
間伐を促す必要あり 間伐材の買い取りが 不可欠

原料コストがかかる

樹皮をはがす、不純物を分ける、乾燥させ るなどのたくさんの工程が必要

# 真庭市の場合

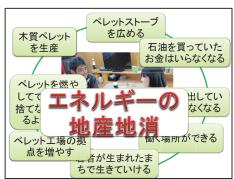
銘建工業の端材を 利用(ほぼ外材)

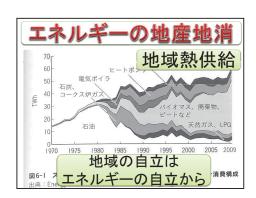


旧京北町の場合





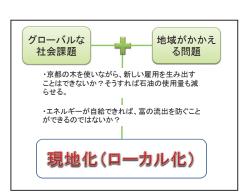






## グローバル・地域がかか な社会課題 える問題

- ·こんなに暑かった? (異常気象の連続)
- 石油を燃やし続け れば、数十年でなくな る(化石燃料の枯渇)
- 仕事がない!
- 若い人がいない
- 木は山にたくさん あるけど、製材業で は食べていけない
- ・山は荒れ放題









#### 真庭のバイオマスツアーに 参加しませんか!?

#### 11月13日(日)・14日(月)

- 真庭の林業を見学
- ・木質バイオマスの供給拠点
- 注 これは一例。今年 のツアーコースは 未定です
- 国指定重要文化財の尋常小学校
- ・バイオディーゼル事業 廃油の再利用
- ・のれんの町 城下町勝山の町並み散策



#### 3-1-10●2016/10/08 環境経済学

9月10日の授業に続き帖佐教諭による環境経済学、今回はその後半の講義です。

「前回ペレットストーブの話をしましたが、誰かペレットストーブを買った人いますか?」 もちろん手は挙がりません。雰囲気が良くしかも環境にもよいとはわかっていても、便利で安価な扱いやすいエアコンを買う人がほとんどです。せっかく環境によいものがあっても、人々がそれを利用しなければ環境の改善にはなりません。どのようにすればそれを使いたいと思うか、「ペレットストーブの導入問題」をきっかけとして、人々の環境に配慮した行動を誘引するためにはどうしたらよいかを環境経済学という観点から考えました。

18世紀にイギリスで起きた産業革命から A・スミスによる古典派の経済学が誕生し、時代の流れと共に様々な思想、考えが生まれてきました。いずれ世の中はグローバル化し、人、モノ、カネが国境を越えて移動するようになると、社会=国家という考え方は通用しなくなり問題を共有することになります。需要と供給に基づく価格決定の仕組みで成り立っている市場メカニズムですが、本来トレードオフの関係にある「生活の便利は豊かさ」と「環境の保全」をバランスさせたい環境経済学はその市場の外部にあるといえます。環境経済学では社会全体で望ましい汚染水準にするための検討をします。

規制をすることで、経済活動の妨げにならずに環境を保全することは困難です。生活の便宜さを捨てて原始時代に戻ることは不可能です。そこで、二酸化炭素の排出量削減に対する環境税、ゴミの削減に対する重量有料制、また都市部の車両の乗り入れの有料化の導入など、減らすというインセンティブが働くような政策が取り入れられています。問題は、例えば価格弾力性の低い炭素について、炭素税のない国に企業が拠点を移してしまうことで起こる産業の空洞化です。

1997 年温室効果ガスの削減のための削減目標や措置について話し合われた京都会議では、「排出する権利」という商品を市場で売買する排出量取引制度についても検討され導入されることが決まりました。環境利用権を設定して当事者間で交渉し環境問題の解決を目指します。各国は排出枠が決められている先進国間で排出枠の取引、共同で排出削減のためのプロジェクトの立ち上げ、途上国も巻き込んだ資金や技術面の協力等で、一緒にそして世界全体での温室効果ガスの削減吸収に取り組みます。実際の日本での対応も、排出枠を他国から購入し足りない分に関しては化石燃料の使用を削減、抑制するというものです。ただ適切な税額の算出や運営面で困難にも直面しています。

最後に帖佐教諭より、2人の言葉が紹介されました。

「ミネルバの梟は黄昏時に飛び立つ」 - G・ヘーゲル

「勤勉だけが取り柄ならアリと変わるところがない。なんのためにせっせと働くかが重要だ」 - ヘンリー・デイヴィット・ソロー

暗い時代こそ知恵をみんなで集める必要があります。そして最終的には世界をよくするために皆が勤勉に働いてくれたらいいと願っています。解決方法は 1 つではなく、これからさらに深刻化してゆく

環境問題にどのように取り組むかを、いろいろな経験から学び考え議論し、豊かな社会を作りましょ う!



#### 3-1-11 ■2016/10/15 ドイツでの環境産業革命

今日の授業はホールにて、25年前に始まったドイツでの環境問題に対する政策と取り組みについて視 聴しました。環境経済学から 1 つの政策が実際にどのように社会に取り組まれ、どのような工夫がさ れているのかについて学びます。

ドイツでは経済活動の中で出る廃棄物を減らすという目的から、当時排出ゴミの50%をも占めていた 包装容器に注目し、1991年に企業に対して自ら包装廃棄物の回収と再利用を義務化するという包装廃 棄物規制令を執行しました。そこで商品を製造する企業は、包装材を回収するデュアルシステム・ド イチュラント社(DSD社)などに包装材の回収・再利用の費用を支払うことにより、グリューネプン クト(共通のリサイクルマーク)の使用の許可を得て、その商品が無料で回収された後に紙、ガラス、 プラスチックやブリキ、アルミなどに分別され企業に戻されるという、各社共通で回収、再利用する という確実で混乱のない仕組みを作り上げました。包装材の性質や大きさによってマークの使用料も 異なります。一番再利用が難しいプラスチックの容器を使う企業は、容器をできれば紙やガラスなど リサイクルしやすいものへの変更、またはなるべく小さくして中身の商品を濃縮する開発を進めまし た。ビンは、各社でデザインを共通にすることで、回収したものを仕分けすることなくリサイクルを 容易にしています。そして家庭では品質が良くしかも安い、また無料で回収されるグリューネプンク トマークの付いた商品を買うようになりました。

ドイツ国民は環境問題に対する意識も高く、これは教育現場での小さい頃からの意識改革があり、当 たり前のことを次の世代につないで来た結果です。ある幼稚園での、食後に自分達でゴミを分別しゴ ミ捨て場まで持って行く子ども達の様子が最後に紹介されました。

ドイツでは当初 2 年間で 1 割のゴミの削減を実現させ、現在も改良が続けられています。この環境産業革命と言ってもいい社会を変える政策は大量生産大量消費社会への別れを告げるものであり、環境を重要な基点として、環境を守ることを中心においた経済活動となっています。



#### 3-1-12●2016/10/22 里山資本主義

今日は、ホールにて里山資本主義についてのVTRを視聴しました。里山資本主義をまさに実践し、マネー資本主義そしてグローバル経済の対極を歩むオーストリアのギュッシングについて学びます。

オーストリアのギュッシングはハンガリーと国境を接する緑豊かな町です。冷戦の終結、EU 加盟、そしてユーロ通貨の導入で、自分達の農作物が流通することを期待していましたが、全く逆のことが起こります。安価な農産物が流入、住民の 7 割もが外に出稼ぎに行くようになりました。このことがきっかけで街の財政が見直され、毎年 6 億円ものエネルギー輸入費がただ消えていくことに疑問を抱きます。

「目の前で利用されない木材が何千トンも森で朽ちていくのに、なぜ遠い場所からエネルギーを船や タンクローリーで谣谣運んでこなければいけないのか。」

そしてギュッシングでは、目の前の価値を見直し木材を利用して発電する技術の開発を進め、新たなエネルギーシステムの構築に繋げて来ました。今では発電の際に出る熱も管で送られ徹底的に利用、このシステムで地区全体の電力をまかないます。オーストリアの国営学校では、短期の利益を追及するのではなく持続可能な豊かさを守ることを若者に教えています。そして北海道と同じ面積ながら、1年間の日本全体での伐採量を超える木が伐採されますが、雇用の需要も生まれ、資源を有効に活用し宝である山も若返り豊かになっています。

「世界経済が一握りの人たちによって操られているのは良くない。エネルギーという非常に大切な分野で自分達が主導権を握ったことは大きいです。」ギュッシング市長のお話が印象的です。

こうした今までの量の拡大を突き進めて来たマネー資本主義の経済が成熟し、次の一歩先の経済への 転換期に来ていると言います。地域ごとの豊かさやローカルな風土の多様性に人々の関心が向き、そ れが環境問題の解決に繋がっていこうとしています。こういったモデルケースを学び、取り入れよう と、日本の里山でも取り組みが始まったところです。

今日の授業でアナウンスされた通り、この里山資本主義の日本での取り組みのモデルとなっている真

庭市を訪ねる「バイオマスタウン真庭」、そしてオーストリア大使館、ドイツ大使館を公式訪問する「東 京フィールド・ワーク」の募集を開始しました。



#### 3-1-13●2016/10/29 「森林先進国」オーストリアの挑戦 - パイオニア・ギュッシングを訪ねて -

佐藤靖子教諭が森林先進国であるオーストリアのギュッシングを今年の 3 月に訪ねて来られました。 まだ雪の残る道をウィーンから車で 3 時間、そこはハンガリーと国境を接するかつて過疎で人口が都 会に流出した小さな村です。日本のバイオマスタウン真庭のモデルともなったこの村のお話を聞きま した。

ギュッシングは、主な産業や工業がなく、また鉄道や高速道路も通っていない小規模な農業を営むだ けのいわば取り残された村でした。人口の70%もが域外へ出稼ぎに行かざるを得なかったその村が、 今はエコエネルギーランドと呼ばれエネルギーの60%を次世代型エネルギーによって生み出し、そし て再生可能エネルギー媒体を用いた価値創造によって、企業の流入、雇用の創出などが進み、この 20 年で税収は3倍にもなりました。現在は、様々な生物由来の資源を気化、ガス化するというさらに進 んだ取り組みに力が注がれ、いずれは100%のエネルギー供給を目指しています。

バイオガスで走る車でギュッシングの中を走り様々な施設を見学されて、生物由来の資源の集積所や 地域熱施設も大変効率的にオートメーション化、全て無駄なく活用されて各家庭での使用状況さえも 一括で管理されている合理性に感心されたそうです。個々ではなく地域全体を暖める暖房設備、温水 が各家庭へ水道管で流れているなど、インフラの一環として整備されていることが大きな特徴です。

旧京北町ではペレットを作っていたのに、ギュッシングではペレットは?改めてどうして日本の村は ギュッシングのようにならないのでしょうか。佐藤教諭達が視察をされていた時期は「3月11日」と も重なっていました。ドイツでは反原発のデモにも合ったそうです。またオーストリアは「脱・原発 国家」として、憲法の中で完全に原子力の生産も保有も実験も使用も、しかも早い段階からそれらを 禁止している珍しい国でもあります。日本よりもエネルギー問題が自分たちの安全保障を脅かす問題 だという意識がずっと高いことを感じます。それと比べて日本は大量生産大量消費というアメリカ式 の豊かさを追い求めてきたのではないか?その常識は正しいのか?技術面も重要ですが、まずは意識 や価値観を学び、そこから日本がエネルギー対策をどのように日本にあったものとして受け入れてい くかを検討することが大切ではないでしょうか、佐藤教諭は最後に疑問を投げかけられました。



















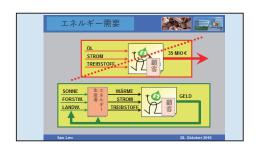


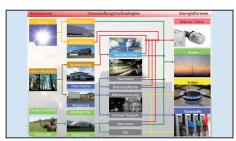






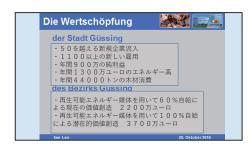


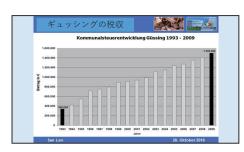


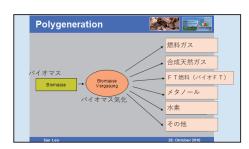


















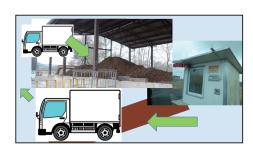
























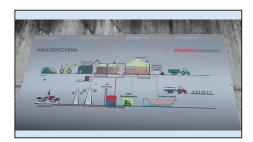




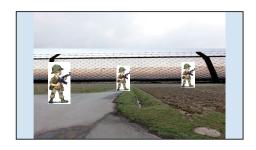














#### 「ギュッシングモデル」は夢の万能薬か?

2015年1年で350組も日本からの視察を受け

入れた。 「一体何が起きたのですか?」 「今やギュッシングはオーストリア国内より日本 でのほうが有名かもしれません。」

日本じゅうにギュッシングモデルの町ができていて もおかしくないはず・・・



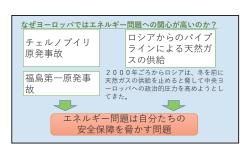
#### 「脱・原発国家」オーストリア

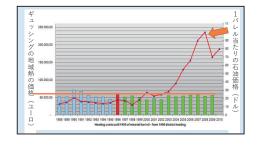
- 1999年 新憲法律「原子力から自由なオーストリア」制定
- ・核兵器の製造、保有、移送、実験、使用の禁止・原子力発電所の新規製造、既存の原発の稼働の禁止

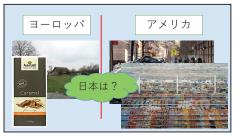
1977年 著名な地震学者が原発直下での地震発生の可能

性を指摘 1978年 国民投票で反対50.5%、賛成49.5%で 脱原発を決定

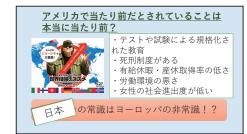
1986年 チェルノブイリ原発事故→反原発の気運がさら に上昇















#### 3-1-14 ● 2016/11/12 フライブルク・イム・ブライスガウ ①

「私と帖佐先生で、この春にフライブルクを中心にドイツ、スイス、オーストリアに調査に行って来ました。その時に見聞きしたことを中心にお話をしたいと思います。」

前回の授業では、過疎の村を復興させるという取り組みが環境の改善と繋がっているという例を学びました。今日は、坂下教諭と帖佐教諭の対談形式で、もう少し大きな街、ドイツのフライブルグ・イム・ブライスガウについての講義です。

「行く前に想像していた街とは全然違いましたね。駅を降り立った瞬間から雰囲気が良く落ち着いた、 そして安心感のある街並みに想像を裏切られました。」

人口 23 万人、近くなら寝屋川市とほぼ同等です。空港はなく、ドイツの南東の端に位置しフランスやスイスの国境が近いことから想像すると、わざわざ不便そうなその小さな街に住みたい魅力はあるのかと疑問を持ちます。実際に訪問してみると、整備された街、立派なコンサートホール、デパート、サッカースタジアム、また大学都市でもあり教育大学や音楽大学の学生や教員などが多く居住し、知的レベルのとても高い街だということがわかります。

「なぜこの街が注目されるようになったのでしょう。」

ドイツで起こった、1970年代の酸性雨によるシュバルツバルト枯死の危機、20km離れた近郊のヴィール(フランス)で計画された原子力発電所の建設に対しての反対運動が発端となり、1975年にフライブルクで設立されたBUND(ドイツ環境自然保護連盟)を中心としてシュバルツバルトを守るために、エネルギーでは脱原発・自然エネルギー推進、そして大気汚染対策として自動車依存からの脱却と公共交通・自転車利用の強化を採用したのです。

「フライブルクでの都市計画、環境対策は徹底されていましたね。」

街を散策してみると、ゾーニングが徹底され街の中心部には日中は一切車が走っていません。市街地に車の乗り入れをさせない代わりに、街にはトラムが走り、トラムに乗るためにとても使いやすく工夫された地域環境定期券(レギオカルテ)が普及し、自転車専用道路が整備され、車やタクシーの必要性を全く感じません。京都市にもノーマイカーデーなどある中、日本との違いは徹底されているか否かです。

「フライブルクに誇りが持てる、住み続けたい価値のある街になったという言葉が印象的でしたね。」

フライブルク在住 30 年の今泉みね子さんと街を散策しお話を伺う機会があり、古い街並みを愛して 100 年経ってもそこに住み続けたいという姿勢を持たれていることは素晴らしいと感じました。

この講義では、目的意識を持ち政策が徹底され、住民が誇りを持ち、住みやすさを実現している街の 様子が大変よく理解することができました。次は、ゴミ・廃棄物処理対策について講義が続きます。







#### 3-1-15 ● 2016/11/19 フライブルク・イム・ブライスガウ ②

今回の授業は前回に引き続き坂下教諭と帖佐教諭による対談形式で、ドイツのフライブルクの様子に ついて「廃棄物処理対策」そして「エネルギー対策」についてのレポートです。

復習になりますが、ドイツでは 1991 年に包装廃棄物規制令が出され、当時ゴミの半分以上になってい た包装材を減らす取り組みが行われて来ました。感心するべきは実に多方面からのアプローチでゴミ の削減に成功したことです。家庭へのゴミ箱の貸し出しはゴミ箱の大きさにより使用料金を変えるこ とで雑ゴミを減らす意識ができ、リサイクルマークの付いた商品の包装材回収無料化の仕組みでは、 生産側もよりリサイクルしやすいものへの包装材の変更や商品自体を圧縮するような技術開発に取り 組むようになりました。

「スーパーでは、ゴミ削減の工夫がされた商品が多く、買い手の意識も違いますね。楽しいですよね。」

実際にお宅にもお邪魔した今泉さんとの買い物でも、いかにゴミを減らすかを考えながらの物選びを 楽しんでされていることを感じたそうです。傷が付いたリユース容器のソフトドリンクが売られてい ることも印象的でした。

「デポジットのシステムも意外に嬉しいですよね。」

ワンウェイ容器に入った飲料に対しては、その容器の大小に関わらず最低でも 25 セントものデポジッ トがかけられています。日本円で30円くらいですので学校にもある10円のデポジットシステムと比 べても大きいことがわかります。

次はエネルギー対策についてですが、シュバルツバルトの枯死の危機、国境近くのフランスでの原子 力発電所建設計画から、いち早くフライブルクでは BUND (ドイツ環境自然保護連盟) が設立、脱原 発、自然エネルギーの推進、自動車依存からの脱却と公共交通・自転車の強化が採用されています。

「僕らの泊まったホテルは一見普通のホテルですが、全然違いました。朝食もおいしかったですね。」

朝食では、ジャム等はガラスなどの容器に入れられそれを取り分ける小皿さえも食べられる素材でで きています。食べ物は地産地消、遠くから運んできたようなものではありません。また、屋上にはエ ネルギーガーデンがありソーラーパネルが敷き詰められていて、足りない電力についても再生エネル ギーのみを提供する会社より購入するという徹底ぶりです。これだけではなく、水周りは全て節水装 置、窓は断熱、浴槽は無駄のない大きさ、公共交通機関のカードの提供、自転車の貸出し、シーツは エコ認証された有機栽培の木綿製、ベッドも圧搾板ではなく天然木材を使用しています。太陽光のな い日には、地下室にある木質ペレット給湯器がその代わりをして、年間 100 トンの木材(おがくず) を燃やしますがカーボンフリーなので二酸化炭素を増やしません。余分なエネルギーは売り、そのお 金でまた再生可能エネルギーの発電所ができます。これだけのエコ対策をしたホテルですが、そのモ ットーは「より贅沢」で評価も四つ星です。

「偶然出会った若い人が、新しく起業してエコエネルギーに取り組んでいることにも感心しました。」

フライブルクのその他の試みとして、電球型蛍光灯の各家庭への無料配布、専門家を派遣しての学校 でのエネルギー教育、地域の熱供給設備のシステム、コージェネレーションでの廃熱利用、そして風 力発電を始めとした再生可能エネルギーの開発と活用が盛んです。またヴォーバンというエリアは、 街ぐるみでエコに徹底的に取り組む先進的なエリアです。住民の社会的な結びつきも深く、通常の住 宅以上の豊かさ、美観、アイデンティティが実現されています。開発されたヘリオトロープ住宅は、 太陽の方向に回転する画期的な仕組みで必要なエネルギーをソーラーエネルギーで全てまかないます。 このような取り組みから、全体での二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量が、特別な対策を取らな かった場合に比べておよそ6割も削減されています。

「快適とエコが結びつき、人々に受け入れられ長続きするのです。さまざまな工夫の組み合わせが実 にうまく仕組まれていて、意識しなくても自然にエコの取り組みができて、そのことによって街の価 値が上がり、そしてより住みたい街になっているという好循環が素晴らしいです。」

「日本で暮らしていると、ついつい物を買い、外食をし、そういう楽しみを優先しますが、フライブ ルクの滞在では、環境によい街の仕組みから自然にエコ生活を楽しむことができるということに感激 しました。学校というコミュニティーで何かこういう取り組みができないかなと思いました。」

授業からフライブルクにより深い感心を持ちます。この街の素晴らしい環境対策の仕組みを参考に、 新しい発想と工夫でこの学校もエコ活動を通じてさらに好きな学校にできるという可能性を感じます。







#### 3-1-16●2016/11/26 これまでの流れと課題

今日は今学期最後の GUS BASIC、戸田教諭による GUS 担当教員のインタビューも交えたこれまでの 授業の振り返り、そして課題を見つける講座です。

私達の授業の始まりは Global Issue について、

「どうも地球規模で解決しないといけない問題があるようだ」

「どうもそれは1つの国では解決できない問題のようだ」

「どうも先進国が中心となり解決を目指している問題のようだ」

ということでした。国連で設定された先進国、途上国の全ての国を対象とした普遍的目標である持続 可能な開発目標(SDGS)では、17の目標が掲げられ各国での取り組みも始まっています。その中で 私達は最も身近であろう環境問題をテーマに取り上げて来ました。

科学的な視点から環境問題とエネルギー問題を、経済学的な視点から環境によい人々の行動理論を、 ミャンマーの発展途上の影にあるゴミ問題について、そして里山資本主義として岡山県真庭市、京都 旧京北町、環境先進国のオーストリアのギュッシング、ドイツのフライブルグでの実際の問題への取 り組みと課題を学んで来ました。遠くの国際社会で問題にされているマクロな問題は、実は同時に私 たちがミクロの視点から解決を探っていかなくてはいけない、探れるかもしれないという意識を持ち ました。

#### みなさんは何か環境にいいことをしていますか?

ムヒカ元ウルグアイ大統領の Rio+20 でのスピーチも取り上げましたが、そこでは大量消費社会へ疑 問が投げかけられました。大量消費社会では、エネルギーや資源を使ってものが大量生産され、人々 は新しいものを求めてどんどん使い捨てていく社会です。こうした消費活動を自然に日々促されてい る現在の社会では、買うことで欲求を満たすことができると思い込んでいます。消費することで経済 活動が回っていることも事実です。ただ常に古いものを捨て最新のものを持つ価値観とはまた違った、 環境に配慮した楽しくかつおしゃれな生活で心が満たされる価値観へと意識が少しでも変わることが 望ましいのでしょう。環境に配慮した誇れる街、地域活性、またおしゃれなエコバック等、多くのヒ ントはありました。

全てを振り返った後に、「君たちの30年後を考えよう!」と先生より提案がありました。30年前から も比べると、環境問題はボクシングのボディーブローのように少しずつ効き確実に深刻化しています。 そこで SAC (Sustainable Action Committee) のメンバーを募集し、学校でエコに配慮した活動を楽 しく広めていくことも企画されています。冬休みには、それぞれが滞在した地域別にゴミの分別につ いて関心を持ち書き留め、新学期に各自持ち寄ります。

これからの30年を考えて、今の生活の意識を高め、また気持ちも豊かに過ごすことを目指します。





# 3-1-17●2017/01/14 ワークショップ「それぞれの過ごした地域、国でのゴミの問題について」

冬休みが終わり、第1回目の GUS BASIC の授業です。冬休み前には、これまでの取り組みを振り返 り、グローバルイシューについての大きな課題から私たちの周りの身近な問題にテーマを絞って取り 組んでいます。校内でのSAC (Sustainable Action Committee) の結成もあり、そこでの活動につい てもいろいろな案が沸いてきています。

この授業では、各自持ち寄ったそれぞれが過ごした地域、国のゴミの問題について、気付いたこと、 感じたことなどを共有し考えることを目的として、KJ法を用いて各クラスで生徒達のワークショッ プを開きました。生徒達の目を通して、中国、韓国、アメリカ、ヨーロッパなど様々な国、そして地 元の京田辺、その他の地域の様々な現状が見えてきました。ゴミの分別はうまくいっているのか。ま た自分や世間は一体どうなのか。これから問題解決のための道筋を探ります。







# 3-1-18●2017/01/21 ゴミ問題の解決を探るロジカルツリーを作ってみよう

「皆さん、果たしてゴミ問題はうまくいっていますか?」

前回のワークショップの続きです。ゴミの問題は他にもどのようなものがあるか。そして解決策をグループで話し合ってみました。もちろん様々な意見が出ました。

そこで、集まったゴミ問題を整理するため、MECE(Mutually Exclusive and Collectively Exhaustive) という過不足なく情報を列挙する手法を用いて、問題点のロジカルツリーを作ってみることに挑戦しました。ロジカルツリーとは、問題点をカテゴリーのレベルを明確にする、同じレベルで比較しやすくするための分類方法です。まずは身近なもので、種類や商品名、メーカー名などばらばらに紹介された飲料を、段階ごとのヒントを得ながら各自で分類してロジカルツリーを作ってみました。大分類として飲物の種類、分類として飲物の缶なのかといった形式、メーカー、商品名というようにです。

こうして最後に、解決の方法を見つけるためゴミ問題についてのロジカルツリーを作りました。ゴミ問題という最初の大きなタイトルからどんどんカテゴリーが付け加えられて、それぞれの考えに基づいたロジカルツリーが作られていました。







# 3-1-19●2017/01/28 ロジカルツリーをもとに解決策を探る

今日も前回に引き続き CDR (大教室) で2クラスごとの合同授業です。グループワークも板についてきた様子です。それぞれのグループでは前回に引き続いてゴミ問題についてのロジカルツリーを仕上げ、そこから解決策を探る取り組みをしました。ロジカルツリーのポイントとしては、縦に並ぶゴミ問題の分類のレベルを同じにすることで、問題点のモレや重複を防ぎ、比べやすくすることです。

それぞれ各自のロジカルツリーのアイディアを持ち寄り、相談し、完成させることのできたグループでは、次に具体的な解決法をいくつか考えました。ここから、いよいよその優先度や難易度など考慮しながらさらに具体的な対策を練っていきたいと思います。







# 3-1-20●2017/02/04 プレゼンテーションに向けて

今日は、コミュニケーションセンターの開放的なスペースに場所を移し、2クラスごとの合同授業です。 前回、ゴミ問題のロジカルツリーで問題を整理し、そこから具体的な解決策を考えてみました。今日 はより具体的に、また私たちの身近な地域や学校で実行できることを、○○に問題があるから○○と いう方法で解決するというようなイメージをしてみました。案のまとまったグループでは、プレゼン テーションに向けた準備が始まりました。実際にどういったスライドを作成し伝えるか、活発に話し 合い、グループ全員で作り上げている様子が見られました。プレゼンテーションが楽しみです。







# 3-1-21●2017/02/25 ゴミ問題各クラス代表プレゼンテーション

今日は GUS BASIC 最後の授業です。先日選ばれた各クラス代表グループにより、全クラスを前にホ ールでプレゼンテーションが行われました。視聴する生徒達の手元には、「重要度は」「具体的か」「実 現可能か」「効果は高いか」を評価するシートがあります。

地域のゴミ問題について考えたグループでは、ゴミの問題が多いことや分別がわかりにくく面倒だと いうことを問題として取り上げ、スーパーでのエコバックの貸出し、ビニール袋の有料化の徹底、ゴ ミ de 競争と称する地域でのゴミ削減キャンペーン、スーパーの包装容器に対してデポジットの仕組み を取り入れる、ゴミを埋立地の有効利用に使うなど、リサイクルをする側もメリットを感じながらで きる仕組みの具体的な提案がありました。

学校でのゴミ問題について考えたグループでは、まずはゴミの出ない仕組み作りからということで、 学校で販売されているお弁当を洗って再利用できるものに変える、使用済みペットボトルのデポジッ トの仕組みをもっと周知して皆が取り組みやすいように改良する、分別の意識を高くするために教室 や廊下にも分別用の色分けされたゴミ箱を置く、Earth day にゴミを出さないキャンペーンをする、 またフリマへの参加をすることなどして地域と一緒になって取り組むなど、リサイクルを楽しく能動 的にと積極的な提案がされていました。

こうして高校一年生の GUS の学びは、まとめた提案を発表し、それについて視聴する側も一緒に考え るという形で1年間の学を終えました。1人1人が環境問題に対して行動のできるリーダーになって くれることを願っています。

























# 3-2 授業 GUS- I (高校 2 年生)

# 3-2-1 ●2016/04/12.15 「持続可能な社会を担うグローバル人材」のイメージ

4月12日と15日、52名の受講生を2講座に分けてGUS-Iが本校スーパーグローバル・ハイスク ール 2 年目となる選択科目の 1 つとしてスタートしました。初回授業では「持続可能な社会を担うグ ローバル人材」のイメージを模索しました。受講生それぞれが抱いているグローバル・リーダーのイ メージを出し合った後、TEDxSapporo と TEDxKyoto に登場した 2 人の人材が紹介されました。

**TEDx** とは TED の「よいアイデアを広めよう(Ideas Worth Spreading)」の精神に基づいて世界 各地で独自に運営されているプログラムです。TED では、世界の先頭を行く思想家や実行家たち が、自分の人生・体験についての講演を 18 分で行うことが求められます。1984 年にテクノロジ ー、エンターテイメントそしてデザインをテーマにした会議で始まって以来、現在では科学から グローバルイシューにまで世界を変えるアイデアを様々な活動で、また世界中 100 を超える言葉 で支援されるまでに至りました。

http://www.tedxkyoto.com/about-us#01



# 植松 努 カムイスペースワークス代表取締役

小さい頃からの宇宙へのあこがれを胸に、地元北海道の小さな町に戻った後「ロケットの開発」、 宇宙空間と同じ無重力状態を作り出す「微少重力の実験」、「小型の人工衛星の開発」、「アメリ カ民間宇宙開発企業との協同事業」と4つの宇宙開発を軸に研究開発を進める。主な実績とし て、人工衛星「HIT-SAT(ヒットサット)」の研究・打ち上げ、カムイロケット打ち上げ実験(到 達高度 3,500 メートル)、宇宙航空研究開発機構(JAXA)と共同での打ち上げ実験、ARC プロ ジェクトを立ち上げなどがある。2012年には、カムイロケット500pの打ち上げ実験で到達高 度 7,400 メートルを達成している。

### 松山 大耕 Buddhist Priest

「世間から一線を画し、瞑想する」という僧侶の典型的なイメージとは程遠く、精 力的に日本の禅宗の教えを世界に伝える。2008年のG8サミットシェルパ会議の主 催を皮切りに、政府観光庁「Visit Japan 大使」および「京都観光おもてなし大使」 に任命され、禅宗を代表してのヴァチカン訪問やルクセンブルクでの諸宗教間駅伝 に参加した。また、今年冬には、京都で宗教者交流駅伝を主催しただけでなく、世 界経済フォーラム (ダボス会議) にも出席し、宗教の垣根を越えた交流と活動を行 なっている。松山副住職は、日本と海外に向けて、平和構築へ向けての対話の重要 性を唱える。



松山師には副住職を務める退 蔵院で「高3宗教学Ⅱ」と「父 母の会シャローム」での講演 を毎年お願いしています

# 3-2-2●2016/04/19 Rio+20 地球サミットでのウルグアイ大統領(当時)のスピーチ

今回は「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」がテーマです。先日、来日したウルグアイのホセム ヒカ氏、元ウルグアイ大統領の 2012 年ブラジルで行われた Rio+20 地球サミット(国連持続可能な開 発会議)でのスピーチがこう呼ばれ、そのスピーチは世界中に大きな反響を呼びました。授業ではそ の内容に加えて、そのスピーチにはどのような特徴があり、またなぜ人びとの心に響いたのかについ て意見を出し合いました。それぞれのグループでは、独自の着眼点や視点、構成、人格やジェスチャ 一、また話し方など様々な点に注目していました。

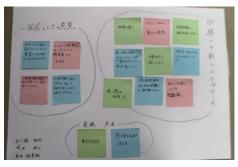
ムヒカ元大統領は非常につつましやかな生活を送りその収入の90%を寄付していたことから、世界で いちばん貧しい大統領としても知られています。彼はこう言います、

「私は世界で一番貧しい大統領と呼ばれますが、私自身は貧しいと感じていません。貧乏な人とは、 少ししかモノを持っていない人ではなく、無限の欲があり、いくらあっても満足しない人のことです。」 「発展は幸福を阻害するものであってはいけないのです。」









# 3-2-3 ● 2016/06/03 課題について提言のシュミレーションをしてみる

今日は、3人ずつ9つのグループに分かれて、そしてそれぞれに与えられた課題について、解決法、問 題点等を話し合い、それをどこにどういう方法で提言すればいいのかということをシュミレーション してみました。

どの課題にも解決するためには問題点が出てきます。その上でその課題を解決する必要性をまとめて、 どこに、そしてどうすれば提言できるかを考えてみます。途中、各グループがそれぞれの課題につい て、そして解決すべきだと思う点について発表した後、協力できる課題同士のグループは一緒になり、 コミュニケーションセンターにてそれぞれが思い思いのツールを使って解決の一歩に向けたリサーチ を始めました。

各グループに与えられた課題は、身近なことでは太陽光パネルの普及、計画停電、街の樹木化、廃棄 食品の課税、実際に住んでいる街のこととしても、奈良中心地車両乗り入れ禁止、大阪屋外路面前面 禁煙、京都市路面電車の復活、国際機関の課題としては UNEP、WFP へのコンタクトがありました。









# 3-2-4 2016/06/07 できること・すべきこと

今日の授業では、環境問題への取組みが実際にさまざまな機関でどのようなことが行われているかを 調べた結果をもとに、それぞれのグループで今できること、すべきことについてまとめ、具体的に工 夫された取組みの紹介も含めて発表し、共有することができました。

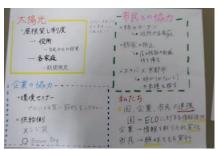
あるグループでは、取り組むためには国と企業と国民の横だけでなく縦の連携が大切だということ、 また別のグループではとにかく参加しやすく、そして機会が多くその周知がまた大切だということ、 他にも今現在既にある自治体等での環境問題への取り組みは実績もありすぐにでも全国に広めること が可能だと、さまざまな気付きがありました。

近い将来に枯渇する地球のエネルギーの問題に対して、すぐにでも自分たちの身の回りからできるこ とがあるという意見が多く聞かれました。また教育によって知ることが大切だという意見もありまし













#### 3-2-5 2016/06/21 ユニバーサルデザインから

今日は前回の授業の流れより、ユニバーサルデザインについて知り、また学ぶ機会となりました。ユ ニバーサルデザインとは、バリアフリーが試行錯誤された後に障がい者そしてそうでない人と区別の ない、誰でもが理解でき使えるサインやモノ作り、そして社会を作るべきではないかという疑問から 誕生しました。そして東京オリンピックを機に日本で最初に、文章で表現する代わりに視覚的な図で 表現することで言語に制約されずに内容の伝達を直感的に行う目的でユニバーサルデザインであるピ クトグラム、ピクトグラフが考案されたことを知りました。こういった発想と工夫に私たちが目指す グローバリズムのヒントがあるようです。

授業の後半は、銃社会のアメリカで意見の分かれる銃規制についてビデオを視聴しました。銃による 犯罪が増え規制を求める声がある一方で、銃の所有は建国以来アメリカ人の Right (権利) だとされ、 自分、家族を守るものだという根強い主張があります。登場した人の「銃をもった悪人に立ち向かえ るのは、銃を持った善人だけだ」という言葉が印象的でした。この問題に宗教者として立ち向かう牧 師さんが紹介されていました。銃の存在が元より身近にはない日本人とは全く違う価値観が根付いて いることを知り、違う価値観を持った人が集まる中でのグローバル化とは、その難しさを考えさせら れます。

今日は国際中高の日本文化の日でもありました。浴衣姿で授業を受けながら、日本人としてこそ世界 に発信できることはないかと改めて考えさせられます。







### 3-2-6 2016/09/02 ドイツの現状

2 学期の GUS I の学びがスタートしました。山本教諭より、今学期に予定されているドイツ、オース トリアへのフィールド・ワーク下見の報告がありました。次に、ドイツについて、ヨーロッパ最強の リーダーといわれてきた一方で、現在直面している国民の生活の変化についての報道番組を観ました。 フォルクスワーゲンが犯した問題で揺れる街、順調な成長を遂げ続ける「ミーレ」の受け継がれる伝 統、そして難民問題ではシリアからドイツに逃れてきたある青年の5年間の生活と気持ちの変化につ いて触れています。

特にドイツは難民に手厚くする一方複雑な問題を抱えていますが、伊勢志摩サミットでのメルケル首 相のインタビューで、難民向けの就職プログラムを実施し、彼らを労働力とその消費といった、経済 的なメリットを期待しているとの前向きなコメントが印象的でした。









# 3-2-7●2016/09/09 「危機」をキー・ワードに考える

今日の授業は、コミュニケーション・センターに場所を変え各 3 名の小グループに分かれて行われました。下の 9 つのトピックが各グループに割り当てられ、限られた時間の中でそれぞれが調べたことを共有しまとめることが目的です。ネットの情報の整理には工夫が必要なことからも、それぞれが熱心に協力しながら取り組んでいました。今後、クラス全体で発表し共有する予定です。

「環境危機時計 The Environmental Doomsday Clock」

「世界終末時計 Doomsday Clock」

「世界の食糧問題」「世界食糧デー」世界環境の日」

「WWF 地球温暖化が進むとどうなる?」

「JCCCA 全国地球温暖化防止活動推進センター」

[UNEP United Nations Environment Program]

「危機にさらされている世界遺産 World Heritage in Danger」

「世界金融危機 Global Financial Crisis」

「欧州債務危機 European Debt Crisis」







# 3-2-8●2016/11/22 ドイツ ヴォーバンに暮らす

ドイツ南西部のフライブルク市、エネルギー節約型家屋の追求など、持続可能な街造りに取り組むヴ オーバン地区について紹介した VTR を山本教諭の解説を交えながら視聴しました。

# 【ヴォーバンの建築グループ】

ヴォーバンでは地区は、そこの未来の住人たちが集まり建築グループを組み、共同で土地を買い、 そして自分達が住みたい住宅を専門家も交えて話し合い、それぞれの理想のコーポラティブ住宅そ して居住区を造っています。このグループはドイツ全土で活動する BUND (ドイツ環境自然保護連 盟)の1つで、エネルギー効率のいい環境に配慮したパッシブハウス(規定された性能認定基準を 満たす省エネルギー住宅)だということが大きなコンセプトになっています。

# 【クレーハウスでの日常】

クレーハウスとはヴォーバン地区に 60 あるうちの 1 つの建築グループが造った共同住居で、70 人 あまりの入居者がいます。入居前の計画段階から、そして共有の施設の維持のために住みながらも 様々な話し合いが頻繁に積み重ねられます。この人々の密な関係の共同生活から、お互いに依存し 協力をし合って生活が成り立っています。そもそも同じコンセプトを持った人たちが集まり、話し 合って造ったコミュニティーなので人間関係も良好だといいます。VTR からは道路上で子ども達が 車の心配なしに自由に遊んでいる様子や、入居者たちの共同の庭作業、パーティーの様子など活気 ある人々の様子が伝わって来ました。

VTR を見終わり、ここが環境に配慮した理想郷だと感じる一方で、やはり隣人との密な人間関係の生 活、また徹底的なエコロジカルな生活には現代社会を生きる私達には不便や弊害はないのか問題点を 探る必要もありそうです。日本でも実際にこういった共同体を作る動きがあります。現在はそれが薄 れてきているとも言われますが、日本にはもともとご近所付き合いといった助け合いの文化もありま した。私たちが快適で、そして環境に配慮したコミュニティーとは、この VTR の人々の取り組みを知 ることで改めて考えてみたいと思います。

また 12 月のドイツも含むフィールド・ワークでこのヴォーバン地区があるフライブルクを訪ねます。 フライブルクはこのヴォーバン地区の取り組み以外に、自然エネルギーの推進、自動車依存からの脱 却やリサイクルなど様々な工夫を組み合わせ持続可能な社会のための取り組みが行われている街です。 実際に訪れて学びを深めます。

# 3-2-9●2017/02/03,7 ドイツ・オーストリア フィールドワーク報告

それぞれのGUSIクラスで、12月にドイツ・オーストリアへのフィールドワークに参加した生徒達に よる報告会が行われました。5グループに別れそれぞれのテーマに沿って学んだことを共有しました。

# グループ(1)

「ドイツ・オーストリア フィールドワークの概説」・・・研修内容の全体像

「都市計画と住宅」・・・ドイツでの都市計画を紹介、日本と比較

グループ③

「森林との共存と伝統文化」・・・日本の真庭モデルとドイツのモデル

グループ④

「エネルギー政策」・・・ドイツのエネルギー政策を風力、バイオマス、太陽光を中心に紹介 グループ(5)

「問題解決への道」・・・マイクロプラスチックなどによる環境汚染の現状、解決策

スライドにおいても従来使っていたものとは違った新しい手法を取り入れ、伝える工夫をしました。 今日は改めてクラスで質問やアドバイスを受け、これから更に改善をし、今年度の SGH 活動報告会で 外部の方の前でも報告をする予定です。



















# 3-3 講演 GUS-Basic、GUS-I

# 3-3-1 ● 2016/05/14 講演 GUS-Basic (高校 1 年生)

「開発途上国のジレンマ:ミャンマーを事例として」 岡本 由美子 先生

本日は、同志社大学政策学部より国際経済、国際開発をご専門に研究をされている岡本由美子教授を お招きし、「開発途上国のジレンマ:ミャンマーを事例として」と題して講演をしていただきました。

「さて持続可能な開発目標はいくつあるか知っていますか」という問いかけで講演は始まりました。 先生は、多岐に渡り世界の開発現場の状況を周知されています。お話では、これまでも環境と開発は バランスを取らなくてはいけないとしながらも、やはり現状はそれぞれが別の取組みとなっていたも のが、昨年国際社会で初めて持続可能な開発目標(SDGs)の採択でついに一本化されたことについ て伺いました。驚きともいえる歴史的な大きな変化を遂げています。そしてまた実例として、現在は 東南アジアの最貧国となったミャンマーが、急速な開発発展と、実務のノウハウが追いつかない環境 問題との間で抱えるジレンマ、ゴミ問題、貧富の格差の拡大についてご説明いただきました。まだま だ困難があること、その現状を知る機会となりました。授業ではこれから発展しようとする国、地域 の問題についても考えて行きます。

最後に岡本先生は、皆さんの中で 1 人でもこういう分野に関わろうと思っていただけたら嬉しいです と話されました。

# 【岡本 由美子 同志社大学政策学部教授】

東京外国語大学、オハイオ大学大学院経済研究科(修士課程)、ハワイ大学大学院経済研究科(博士 課程)で学ぶ。過去には開発コンサルタントとしてODA関係の仕事に従事、またアジア経済研究 所で途上国経済の研究に従事するなど、開発の現場に触れてきた。1995年より、神戸大学、ブラン ダイス大学 (アメリカ合衆国マサチューセッツ州)、名古屋大学の大学院で国際経済・国際開発関係 の研究・教育に従事。同志社大学では2004年より教鞭を取る。専門分野は、国際経済、国際開発。 HP: http://www1.doshisha.ac.jp/~yokamoto/





# 開発途上国のジレンマ: ミャンマーを事例として

平成28年5月14日(土) 同志社大学政策学部岡本由美子 於:同志社国際高校

# アウトライン

- 1. 持続可能な開発目標とは何か?
- 2. 歴史的な経緯を見て見ると?
- 3. 世界の貧困問題とミャンマー
- 4. ミャンマーが抱えるジレンマ
- 5. 先進国の責任は重い
- 6. 多様化する国際協力分野のキャリア

1. 持続可能な開発目標(SDGs) とは何か?

SUSTAINABLE GOALS











# GOALS

#### 2. 歴史的な経緯を見て見ると?(1) (環境と開発に関する略年表)(小島2015)

	開発	環境
1972年		国連人間環境会議
1984年		環境と開発に関する世界委員会(ブルントラント委 員会)発足
1987年		ブルントラント委員会 Our Common Futureをまとめる
1992年	世界銀行「世界開発報告 環境と開発』	国連環境開発会議(地球サミット/リオ・サミット) アジェンダ21採択
1995年		CSD(国連持続可能な開発委員会)「CSD指標に する行動計画」採択
1996年	DAC(OECD) Shaping the 21st Centuryをまとめる	CSD指標報告書(United Nations 1996)
2000年	国連ミレニアム開発目標(MDGs)の採択	
2002年		持続可能な開発に関する世界首脳会議(ジョハネ スパーグ・サミット)
2012年		国連持続可能な開発会議(リオ+20)
2015年	持続可能な開発目標(SDGs)の採択	

# 2. 歴史的な経緯を見て見ると?(2) (山形2015)

貧困削減・ 社会開発		持続可能性(環境)
目的	目的連成のための手段	
貧困 (1)	食糧 (2)	持続可能な消費と生産(12)
保健 (3)	エネルギー (7)	気候変動 (13)
教育 (4)	成長と雇用(8)	海洋保全と利用 (14)
ジェンダー (5)	インフラ (9)	陸上生態系保全(15)
水とトイレ (6)	先進国の責任 (17)	
不平等 (10)		
都市と住民 (11)		
法の支配(16)		

# 3. 世界の貧困問題とミャンマー

### 世界の貧困問題とは?

世界銀行の絶対的貧困 の定義は?

「1日1人あたり1.25ドル以下 で生活を余儀なくされてい

現在の世界人口70億人の 中で、どれほどの人がそれ にあてはまるか?

# ミャンマーの位置付け(岡本2013 年)

- ・ 東南アジア(ASEAN諸国連 合)では最貧国。
- 2010年ぐらいまでは、絶対 的貧困者数が人口の4分の 1を占めていた。
- ・ ただし、現在は、高度経済 成長時代に入りつつある

#### 4 ミャンマーが抱えるジレンマ

- 4.1 開発と環境は両立できるのか?
- 4.2 貧富の格差の拡大

#### 5. 先進国の責任は重い

- ①キャパシティ・ビルディング(人材育成)
- ・国の運営
- ・環境行政(マネジメント)
- 法の支配の確立
- ②そのための資金協力

# 国際協力の重要性大

# 6 多様化する国際協力分野のキャリア

以前 公的機関

①国際機関

②国の省庁、JICA, etc.

民間企業

③開発コンサルタント (理系中心)

現在(新しい公共性の概念)

政治家 公的機関

①国際機関、②国の機関、③

民間セクター ①開発コンサル(理系・文系)

2NGO · NPO

③社会起業家

④民間企業

#### 参考文献

岡本由美子(2013)「ミャンマーのゆくえー途上国 のグローバリゼーションの光と影」(同志社大学 政策学部10周年記念出版編集委員会(2014年)

小島道一(2015)「持続可能な開発の淵源と展望」 『アジ研ワールド・トレンド』2015年2月号。

山形辰史(2015)「MDGsを超えてSDGsへ-国際開発の行方」『アジ研ワールド・トレンド』2015年2月号。

# 3-3-2 講演 GUS-I (高校 2 年生)

# 3-3-2-1●2016/10/04 グローバルリーダー論1 国際企業コンサルタント 中野 高明 氏

中野氏は同志社英文科のご卒業で今年 77 歳、喜寿を迎えられます。「この歳になってこのような場で話すことがとても不思議なんですよ」と穏やかな口調でお話は始まりましたが、その歩んでこられた道のりは波乱万丈、また大変力強く、クラスの誰もがすぐに同志社の大先輩のお話に引き込まれました。

# "A rolling stone gathers no moss" ~新しい挑戦の繰り返し~

この言葉は、動き続けることをよいと捉えるアメリカではよい表現として、しかし歴史を重んじる イギリスや日本といった国では落ち着きがない悪い例えとして理解されるそうです。中野氏はアメ リカでは 25 年間そして日本でも多様な経験をされ、引っ越された回数は通算 25 回にもなります。 まさに転がる石のように様々な場面で、常に弛まぬ努力と挑戦する勇気を持って人生を歩まれて来 られました。

#### 「普段から相談できる人を絶えず意識して持っておくことは大切です」

少年期、佐世保でアメリカ軍の激しい勢いの焼夷弾はご実家も含めて全てを焼け尽くしたそうです。その後出征されていたお父様と後に同志社大学の教授となるオーティス・ケリー先生の出会いがあり、一度は家計を助けるために大学進学を諦め就職されていた中野氏も再度大学を目指すことを決意、大変な努力の末見事同志社大学英文科に入学を果たされます。その際に相談に乗り、受験勉強のため聴講生として高校に通わせてくれた恩師の後押しが本当に有難かったそうです。卒業をまだ先に控えた4年生の時に就職の難しかったパンナムで旅客業務の職に就かれ、東京と京都を何度も往復して仕事と学業の両立をし、そのつどの困難も周りのサポートを受けて乗り越えられました。その後お仕事は順調でしたが、アメリカの Colby College への留学の話があり、もっと英語を学びたい、知りたいというお気持ちから退職を決意されアメリカへ渡られることになりました。

### 「海外に行くときは日本人としてやはり日本の歴史や文化を知っておくべきです」

Colby College では日本語会話の TA のお仕事もされながら、授業の質、量ともに圧倒されながらも寝る時間も惜しんで必死で勉強をされました。また留学中は日本の宗教のこと、文化のこと、歴史のこと、いろいろな質問を受けたそうですが、英語力の不足以上に知識がないために答えられず日本人としてもっと知っておくべきだったと強く後悔されたそうです。アメリカでの黒人差別など日本ではない問題にも直面、様々な問題も常に自分なりに理解しておくことも大切だとおっしゃいます。

#### 「勇気を持って前に踏み出そう」

Colby College 卒業後も、日本領事館への就職、米国三菱商事(MIC)への転職、10 年後には日本人初の NY 州政府への就職、再び民間企業 TIE への転職で実業界へ戻るも業績の悪化で 52 歳にしての

アメリカでの失業、そこから Cannondale USA への再就職で日本でのマーケティングを任され 25 年ぶりの日本での生活をスタートするも販売方法等の方向性の違いから社長職の解任、そして悔しい気持ちもありながらここでもチャレンジし遂にご自身で起業されます。それが国際企業コンサルタントのお仕事です。いくつもの外資系企業の日本での立ち上げをサポートされて来ました。

最後に、人とモノとお金には国境はありません。どこにいてもいつも勇気を持って前に踏み出せる人になって欲しいと話してくださいました。人生にはいろいろなチャンスが用意されていて、それに挑戦していくことを実践されてこられたお話に大変勇気をいただきました。



# 3-3-2-2●2016/10/21 グローバルリーダー論 2 同志社大学学生 OECD 東北スクール 釣巻 洋子 氏

グローバルリーダー論 2 のゲストスピーカーは、一昨年に同志社国際高等学校を卒業され現在は同志 社大学生命医科学部で学ばれている先輩、釣巻洋子さんです。

釣巻さんはとても軽快な口調で、ユーモアたっぷりに自己紹介を始められました。

「高校はネットで決めて、大学はフィーリングで決めました。」

「先生、私高校辞めます。」

「あることがきっかけで学校生活が変わりました。恋です。」

こう言いながらも、釣巻さん流の、周りに流されず、自分の目で見て、明確な理由を持って決断する、そして自分なりの「正義」を持ち行動をして周りも巻き込んでいくというスタイルをお持ちです。高校在学中には、生徒会長として活躍されながら、OECD 東北スクールで 100 人の東北の被災地の学生と一緒にパリで「東北復幸祭〈環 WA〉in Paris -子どもたちが見つめた 死・再生・未来・」をプロジェクトリーダーとして盛り上げました。数々の要人とも会われ OECD の国際会議に出席、大役を勤められました。Global Enterprise Challenge では日本代表になりドイツでの世界大会へ、また他にも高校生

ビジネスプランコンテストでは自分達で結成した「NINJA」のチーム名で参加、優秀賞を獲得されま した。

身近でありながら、大変な行動力をお持ちの釣巻さんとグローバルリーダーとはについて一緒に考え る貴重な時間となりました。釣巻さんのお話からグローバルリーダーとは、

「勝てない勝負はしない」・・・逃げてはダメ、自分の特性を見つけそれを活かせる場で勝負する。 「仕事の先には人がいる」・・・関わっている人に恥ずかしいことはしない、丁寧に。

「どの考え方にも対極がある」・・・画一的に物事を見ず多角的にみる。

このようなことから、自分に合ったフィールドで、多様性をいかに受け入れ、そして反対の意見さえ もまとめられるような人を想像します。視野を広く持ち正しさを見つけていく、そして「視点を変え れば世界も変わる」ことを釣巻さんの実感として伝えていただきました。

最後に、「正義は決められるのか」をとてもわかりやすい心理学の例を挙げて紹介していただく中で、 リーダーなら正義は決められるのかという疑問を投げかけられました。様々な解決困難な問題に直面 していく中で、小さなことであっても共に考え行動することが大切だと教えていただきました。







「正しい」「正しくない」と 判断できない問題

「情報化社会」では ますます増える

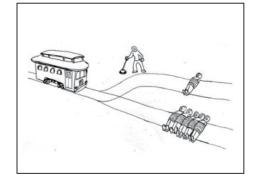


グローバルリーダーは それに対応する必要性 『「正義」は決められるのか?』



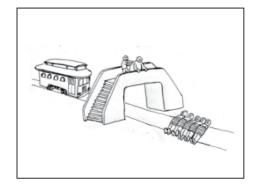
トーマス・カスカート 著 かんき出版

ある日 こんな事件が起きた...



①「数」で決めていいか

1人の犠牲で 5人が助かった



こちらも1人の犠牲で 5人が助かった

それなら...



功利主義

「最大多数の最大幸福」

ジェレミ・ベンサム



**/**「結果主義」

みんなが幸せなら犠牲も許される?

義務論

「人には権利があり、我々 にはそれを尊重する義務 がある」

イマヌエル・カント



「救われる権利」

命を他人に奪われない権利もある

②「手段」で決めていいか

その行動は

- ①道徳的に良いことか 少なくとも中立
- ②積極的に悪い結果を選んで いない。もし悪い結果を起こさずに よい結果が得られるなら そちらを選ぶべき。

③よい結果はよい行動によって 引き起こされなければならない。 悪い結果を手段として用いては いけない。

④よい結果は悪い結果を相殺 するだけの効果を持たなければ ならない。

# 二重結果の原則

「ひとつの行動には2つの 結果がある」 トマス・アクィナス

よい行動が悪い結果を招き 悪い行動が良い結果を招くことも ちょっと息抜き

f MRI

認知より 感情



思考でなく感覚?

なぜ「殺人」に反応するか?



③「対象者」で決めていいか

- ・もし身内だったら?
- ・親の遺産で暮らす大金持ち だったら?
- ・昼も夜もパートを掛け持ちして 子供を育てていたら?

利他主義

「自分がしてほしいことを 相手にもする」

ピーター・シンガー

「自己犠牲・黄金律」

いつ何時も守らなければいけない?

無罪

「オパマ・ケア」

少数の人が数日間生きるための10億ドル 国民の予防医療のための10億ドル

リソースはいつでも有限

保健政策 アナリスト

# 「アルカイダの攻撃」

国を守るための行動が結果として 死を招いただけ

誰も犠牲にしない方法が あったらそれを選んだはず



陸軍大尉

「日本の原爆」

多くの犠牲がでても、功利主義から 見れば正しい行為

感情に流されて理性を 見失ってはならない



有罪

「具体的な情報抜きには 判断できない」

助かった人のなかに重大犯罪人がいたら? 亡くなった人が優秀な研究者だったら?

事件をどんなストーリー としてとらえているか?



小説家

「被害者の権利を奪ったなら 有 罪」

被害者の家族にしてみればスイッチをおされても突き落とされても同じこと

どんな目的のためであれ 他人の命を奪っては いけない



弁護士

悪いとしか言えない 理由はないけれど



飲食店員

どう決断するも自由

ただ、 決断の理由は明確に 持っておこう



■ 自分の「正義」を持つ

# 3-3-2-3●2016/11/11 グローバルリーダー論3 毎日新聞社前テヘラン特派員 鵜塚 健 氏

「皆さんにとって中東イスラムのイメージというのはどんなものですか?」

鵜塚氏は、中東情勢が本格的に悪化する直前(2009年~2013年)、毎日新聞社の特派員として、イラ ンの首都テヘランで取材活動をされました。今日は、鵜塚氏が実際に見た貴重な中東の状況について お話を伺い考えます。

### 【中東のイメージから】

砂漠、古い、遅れている、戦争を繰り返している、というようなイメージがありますが、世界 4 大 文明のうちの 2 つの文明であるエジプト文明、メソポタミア文明はここで栄え、実は高度な文明が 遥か 2500 年も前から続いている大変文化的な地域でもあります。またドバイ、サウジアラビア、ク エート、カタールやバーレーンなど油田を持ち、突出して豊かな国は GDP が日本の何十倍もありま す。これらの国はサッカーなどでも有名です。また油田を持たないイエメン、アフガニスタン、エ ジプトはとても貧しい国々です。そして中東には、欧米の文化や価値観を全く受け入れず古くから のしきたりを重んじるサウジアラビア等の宗教的な国々と、どんどん欧米化しているトルコやレバ ノンのような世俗的な国々にも分かれています。

#### 【シリアで何が起きているか】

もともとシリアは豊かな国でした。アサド大統領の独裁政治に不満をもった主に農村部の国民が 2011年のアラブの春をきっかけに起したデモが内戦に発展、そこに周辺国が宗派の争いから、イス ラム国は建国の目的で参戦、そこへ人道的な目的と周辺国の援護にあたるとしてロシアやアメリカ、 イギリス等が加わり内戦は複雑化、激化する一方です。死者30万人、そのうち民間人は8万人と深 刻な状況です。現在も空爆が続きなんと国民の半数もが国内外に逃れ難民となっています。シリア からの難民の受け入れ先は、ドイツが 100 万人と一番多く、日本はまだ 3 人のみです。日本の難民 受け入れに対しては、その厳しい認定基準に国際社会から批判もあります。そこには、難民の受け 皿が充分なく治安が悪化するのでは、日本独自の文化との違いを共有できるのか、そしてテロリス トが紛れて入国するのではと多くの懸念があり慎重にならざるを得ません。今後は留学生 150 人の 受け入れが決まっています。

#### 【中東の大国イランで暮らして】

鵜塚氏が 3 年半過ごされたイランとは、サウジアラビア、イラクに挟まれながらも治安がよく、シ ルクロードの中間地点でペルシャ文明が栄えた歴史を国民は誇りにしています。面積は日本の 4.5 倍、人口は8000万人と大国です。広い国土のため気候もバラエティーに富み、冬にはスキーもでき、 食べ物は豊富で安価な野菜、果物に恵まれています。イスラム教のしきたりを重んじ女性は全てへ ジャブの着用が義務付けられ飲酒も禁止です。教育は高校まで男女別に学びますが特に女性の教育 水準は高いそうで、社会進出も増えています。イスラム教の教えに忠実に冨は分配され福利厚生は 充実、医療、教育はほぼ無料、そしてお金持ちはいても特に困窮する貧しい人々がいないのが特徴 です。人々はあくせくせず大らかでのんびりとし、家族をとても大切にしていることが印象深かっ

たそうです。鵜塚さんのお話からは、不安定なイメージばかりのある中東とは違った、とても温か く信仰深い、そしてまた女性が活躍する豊かなイランの様子が伝わってきました。

# 【これから私たちにできること】

中東地域は、石油の 8 割の輸入元であり、またイスラム教はインドネシアなどアジアでも信仰する 人口の多い宗教であることから、日本にとっても大変関わりの深い地域だと言えます。多様な違う 文化、民族にぜひ関心を持ってくださいと最後にメッセージをいただきました。

# 鵜塚 健氏 について

1993年 京都大学経済学部卒、毎日新聞社入社

大津支局、大阪本社社会部、外信部、政治部(外務省担当)などを経て2000年10月から2013年3 月までテヘラン特派員

現在は、大阪本社地方部副部長

著書「イランの野望~浮上するシーア派大国」(集英社)





# 中東、イスラムの人々とくらし 毎日新聞前テヘラン特派員・鵜塚健



# 中東地域、イスラムを知る

- ■1, 中東、イスラムのイメージって?
- ■2, シリアで何が起きているか、難民問題
- ■3, 中東の大国イランで暮らして
- ■4, 私たちに何ができるか

# 1, 中東、イスラムのイメージって?



危ないところばかり? (レバノン、シリア)





難民、貧困ばかり? (シリア難民)





世界最古の文明も (エジプト)



一部には突出した富裕国 (アラブ首長国連邦ドバイ)





世俗的、欧米的な国も (トルコ、レバノン)





#### 中東って=まとめ

# ■宗教色の濃さ

宗教色が強い国=サウジアラビア、イラン 世俗的な国=トルコ、レバノン

# ■経済的格差

富裕国=クウェート、アラブ首長国連邦、カタール、サウジアラビア、バーレーン 貧しい国=イエメン、アフガニスタン、エジプト

# 2, シリアで起きていること、難民問題

•2011年以降、混乱加速、内戦状態 ・死者30万人(うち民間人8万人)



#### かつては安定した文明国





# シリアの対立構図

・民衆抗議デモ→混乱→内戦→大国介入



# 大量の難民発生、国際問題に

•難民400万人超、国内避難民700万人超





# 深刻化する難民問題

- ・ドイツは100万人受け入れ(2015年)
- ・日本はシリア難民3人、今後留学生150人
- ・過去にはインドシナ難民受け入れも



3, 中東の大国イランで暮らして



# イラン

- ▼人口=約7800万人、面積=日本の4・5倍
- ▼民族=ペルシャ系、トルコ系、クルド系
- ▼宗教=イスラム教シーア派が大半、キリスト教、

▼示教ー



世界最古級のペルシャ文明



シルクロードの拠点で発展





首都テヘラン



イスラム教の国



アルコールは禁止、甘いもの好き





学校は男女別々



規制の中でもおしゃれ



整形大国





豊富で安価な野菜、果物、食料品



豊かな地方都市



年金、福祉、医療は充実



豊かさ享受、大半の人はのんびり



イスラム最大の価値は家族



4, 私たちに何ができるか



# 中東、イスラム教国が重要な理由

- ・イスラム教(10億人以上)、キリスト教(20億人)、仏教(3億人)/世界の人口70億人
- ・石油の8割は中東から輸入 /サウジ、アラブ首長 国連邦、イラン、イラク /ガソリン、衣服、ペットボトル
- ・戦った歴史なし/親日国多い/広島、戦後復興に敬意/欧米やロシアとは違う立場
- ・インドネシア、マレーシアなどアジアにも

違う文化、民族に関心を



終わり



# 3-3-2-4●2016/11/15 世界をフィールドとする学生活動 同志社大学 AIESEC

今日は同志社大学より AIESEC (国際経済商学学生協会) で活動されている学生さんにお越しいただき、その目的や活動内容についてお話を伺いました。AIESEC は 126 の国と地域で活動する世界最大級の学生組織で、平和で人々の可能性が最大限発揮された社会の実現を目指し、海外インターンシップ事業を運営、社会の課題を解決するための志高いリーダーを世界中に輩出してきました。

最初に「Ice breaking time!」のご提案がありました。自分の好きなことなど「私」を表現する言葉をたくさん挙げグループでシェアした後には、教室が一変に和やかな雰囲気になっていました。続いてAIESEC について、活動内容、また自らの留学やインターンシップに参加された体験談を交えてお話を伺いました。同志社のAIESEC では、環境、教育、地方創生、伝統産業の4つチームに分かれて活動をされています。今日のメンバーが所属される教育チームでは、人生の選択肢が狭まってしまうような教育の不平等のない社会を創りたいということから、子ども達の人生の選択肢を豊富にするための活動をされています。そしてメンバーのお1人、杉本さんがインターンシップ生として訪れたのは台湾、現地の公立中学校で日本のことを授業で紹介しながら異文化交流をされました。世の中をよくするには教育が大切と気付いていたものの、この経験での、生徒、先生、同僚との出会いから、言葉を超えた繋がり、また自分の好きな教えることで人の役に立ち喜んでもらえる充実感を得たそうです。子ども達にも異文化を知り英語を学びたいという意欲を持ってもらえたこと、そして教師として褒めてもらったことは大きな自信になったそうです。こうして目標を見つけたと語る杉本さんもそして台湾の生徒さん達もとても素敵な笑顔でした。

# 休み時間を挟んで Work shop が開かれました。

- ・自分の好きなこと、夢中になれること、喜んでもらえたこと、頑張れたことって何だろう。
- その好きなことで周りの人に喜んでもらうにはどうすればいいだろう。
- ・じゃあ、大学生活どう過ごしてみようか。

このことを考え共有しながら、大学生の皆さんともそれぞれのテーブルで良い交流の機会となりました。

そして最後は発表です。実は自分は人前で発表することが苦手だけれど挑戦したいとある男子生徒が発表をしました。人と話すことが好きなのでそれを活かしてカウンセラーとして人を助けたい、大学ではその勉強をしてみたいということで大きな拍手が起こりました。自分の好きなこと、好きな自分から人の役に立つ将来のことを考えてみる、そこから身近な大学で何をしようかと考えてみる貴重な時間となりました。将来のことを早くから考えて損はない、発想力を広げることが可能性を広げることになりますとも最後にお話してくださいました。







# 3-3-2-5●2016/11/25 世界をフィールドとする学生活動 同志社大学サークル国際居住研究会

今日の授業のゲストスピーカーは同志社大学から国際居住研究会の大学生6名の皆さんです。

- 世界人口の半分が貧困で苦しんできる。それを知りながら見て見ぬふりはできなかった。 ただの学生で知識もお金も無い僕らでも何かできることがあるはずだ。

そんな思いを実現してくれるのが「国際居住研究会」 -

国際居住研究会では4つの「GV」「SALT」「BANDHU」「アジア学院」に分かれて、それぞれのグループの特徴を活かしながら、世界の誰しもに可能性の開かれたフェアな社会を目指し活動されています。

BANDHU バングラディッシュの小さな村の孤児院で子ども達と交流をし、日本の里親さんに子ど

も達の笑顔を届ける支援

SALT フィリピンの抱えるゴミの問題の解決など、問題に直面するフィリピンの女性と子ども

に寄添い、望む未来を自ら叶えるための支援

GV 住居建築を通してともに汗をかき、大切な場所である住居を建てることでコミュニティ

を築く自立支援

アジア学院 栃木県にある学校で世界中から集まった仲間と「生」と「食」を真剣に学び農村リーダ

ーを育成する農業面からの支援

その中から、今日は GV(Global Village)の皆さんがお越しくださり、その実際の活動についてお話を伺いました。 GV とは、世界中にある国際 NGO 団体のハビタット・フォー・ヒューマニティーと連携して行う  $14 \sim 21$  日間の海外住居建築ボランティアです。皆さんは 2016 年にフィリピン GV に参加されました。活動の動機は、知らない世界を知りたい、役に立ちたい、仲間と何かを成し遂げたいという気持ちでした。フィリピンでは、まだあどけない笑顔の子ども達がお金を求めて路上で働き、物乞いをしていました。自分達が実際どれだけ役に立てているのかを疑問に思うこともあったそうですが、一緒に汗や涙を流し、最後に人々の笑顔に触れて、自分が助けてもらうだけの存在ではないことに気付き人を助けることの意味を知ったそうです。

最後のワークショップでは、「家」とはについて意見を共有して考えました。生徒からは、家とは「温 かくありのままで居られる場所」、「何があっても帰れる場所」、「自分のプライバシーのある場所」、ま た「価値のある資産」などと意見が出ました。同じ質問をフィリピンですると、共通するものは「安 心できる場所」、そしてほとんどの場合に家は「希望」、「夢」と答えが返ってくるそうです。メンバー の皆さんは家がただの住むための住居ではない、貧困の悪循環を打ち破るきっかけになればと強く願 って活動を続けられています。

「みんなも変われる。自分が行動を起すことの価値を知ろう。」という言葉がとても印象的でした。







同志社国際高等学校授業内プレゼン 2016年11月25日(金曜日)1・2限













#### クイズ(1)

①ボンドゥではどこの国を支援している? →バングラデシュ

②SALTではどこの国を支援している? →フィリピン

③アジア学院ではどのような分野での支援を行っている?



# VISION(理念)

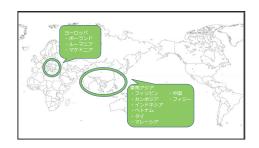
A world where everyone has a decent place to live.

誰もがきちんとした場所で暮らせる世界

# **GV**(Global Village)とは

#### ハビタットが提供する 住居建築プログラム

約7~14日間、実際にワーク(住居建築活動)を行い、 その家に住んでいる家族(ホームオーナー)と共に働く。



# GVプログラムの特徴

# [汗をかいて世界を知る]

現地で共に汗をかくことで、 暮らし/文化/笑顔/そして貧困の現実を知る

# GVプログラムの特徴

# [幸せを建てる]

家だけではなくその先の新しい生活を担う

# GVプログラムの特徴

# [GIVE&TAKE]

差し出した物以上のものを受け取って日本に帰ってくる

### GVプログラムの特徴

# [みんなで変わる]

家族:自分が助けてもらうだけの存在でないことに 気づき人を助ける事の意味を知る。

私たち:自分が行動を起こすことの価値を知る

# GVチームの役割

1.House building(建築活動)

活動先で安心して住める住居を必要とする家族のために 建築活動に参加してください。

2.Awareness raising(意識の向上)

ハビタットや活動先の貧困について話して、周囲の人の関心 と意識を高めてください。

3.Fund raising(資金を集める)

GV活動の意義を理解し、寄付を通してハビタットの活動を

支えてください。

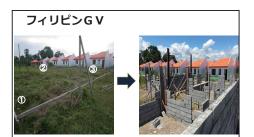


#### 国際居住研究会としてのこれまでの活動

- •世界各国で活動してきたことを紹介
- これまでのGVの派遣国などを紹介











~フィリピンGV2016の活動紹介~



クイズ②

ジョリビーという飲食店 あの世界的に有名な飲食店が唯一勝てないのが このジョリビーであると言われている その世界的に有名な飲食店とは?

ヒント① **2018年**12日 本に進出予定 皆さがもぜひ食べてみてください!! カタカナで6文学のお店

答え マクドナルド

# ワークショップ

あなたにとって

①幸せとは何ですか?

②家とは何ですか?

# GV活動とは

家を通して被支援者に様々な可能性を与えることができる活動

- ・衛生面が整うことで病気にかかりにくくなる
- ・安心した生活が送れるようになる・集中して勉強ができるようになる
- ・家族との思い出を作れる

# 3-3-2-6 2016/06/14

# 活動を通じて出会い気付くこと、想像力を働かせることの重要性を学ぶ NPO 法人そら

今日の授業は、NPO 法人そらより、地主明広さんとボランティアの学生さんにお越しいただき、普段 の活動、そして活動を通じて感じていらっしゃること、そして伝えたいことについてお話を伺いまし た。NPO 法人そらでは、乳幼児の親子が集える場所の提供と支援、発達障がいを持つ子どもたちと保 護者のための療育プログラムの実施、障がいを持つ子どもたち、それぞれにあった過ごし方のできる 場の提供、また夏・冬・春休みの間には「スクール活動」を行ない、長期休暇以外の週末にも、遠足 や地域行事への参加など、月1~2回程度の集団活動をされています。この活動は高校生・大学生など のボランティアスタッフによって企画運営されています。

ボランティアの学生スタッフは同志社大学工学部の 3 回生、活動を通して自分も成長できていること を感じると話してくださいました。活動の様子をご紹介いただきながら、子どもたちの成長がとても 嬉しいこと、子どもたちの目線に立って創意工夫することができるようになったことを具体的な例を 交えて紹介されました。そしてまた今日も障がいを持った子どもと時間を過ごされるということでお 話の後にすぐに出発されました。

次の時間は、地主さんから障がいを持つ子ども達のこと、そして社会のことをさらに詳しく伺いまし た。ここ 10 年で障がい者が過ごせる場所はすごく増えた一方で、障がい者は別の学級や学校で学び働 くようになり、一般社会との関わりは薄れています。「出会わない」「知らない」「気付かない」ことで、 私たちが障がい者に対して一方的に悪いイメージを膨らませてはいないか、そして見かけではわから ない発達障がいや知的障がいを持つ人に対して「できないことをわからず」寛容性を無くして知らず 知らずのうちに傷付けているのではないかと問いかけられました。「能力の凹凸はみんなにあり、それ が大きい人がいます。そして世の中にそのことへの理解があれば補うことができる能力もたくさんあ ります。この人はできないかも知れない、感じ方が違うかもしれないという想像力を持ってください。」 という言葉が印象的でした。障がい者が障がいを意識することなく生活することができる社会になる ためには、日常生活の中でまだまだこの想像力を働かせなくてはいけないと感じました。このことは 学んで来たグローバルイシュー、そして次に取り組むユニバーサルデザインを考えるにあたって大き なヒントでもあります。多様な想像力豊かに養うことが「共生」を目指すグローバルリーダーの資質 のひとつなのです。

















# 3-3-2-7●2016/10/28 外交官家族 経験と視点 笠井 淳 氏

今日のゲストスピーカーの笠井 淳さんは、本校の卒業生で卒業後は京都造形芸術大学文芸表現学科 で学ばれている大学生です。お父様が外交官で、ご家族でキルギスに滞在されたご経験を中心にお話 を伺いました。笠井さんは卒業後の自分を船に例えて、高校までは親や学校が碇となりますが、大学 になって碇が上げられ自由にもなる分、自分という船の舵を取ることが必要になります。だから優先 順位を考えて、できることに責任を持つことが大切ですと大学生活での経験を通して語られました。

# 【キルギスとは】

キルギス共和国、通称キルギスは、中央アジアに位置する旧ソビエト連邦の国家です。人口は 590 万人、国民の75%がイスラム教スンニ派です。国土の面積は日本の約半分でその40%を占める山々 が連なりとても美しいことから、中央アジアのスイス、神々の別荘地と言われます。また牧畜が盛 んで、羊を大切な財産としています。発展途上国であり、インフラの設備も不順分なため停電や断 水は日常茶飯事、大きな貧富の差もあります。首都はビシュケク、こちらに笠井さんは9歳から12 歳まで過ごされました。

# 【キルギス・クイズ】

楽しいクイズ形式で、キルギスの国旗、通貨、文化や歴史についてご紹介下さいました。旧ソビエ ト連邦が崩壊した1991年に独立したキルギスは、現在の第4代大統領のアタンバエフ氏に至るまで、 革命や騒乱による歴代の大統領の逃亡と亡命などを経て国が安定するまでには時間がかかりました。 キルギス人はとても日本人に似ていて、昔に肉が好きな人は残り魚が好きな人が東に渡り日本人に なったという言い伝えもあるくらいだそうです。ただ遠い国、キルギスのことは全て初めて耳にす る新鮮なもので、クイズは大変な盛り上がりでした。

# 【アラ・カチュー】

アラ・カチューとは花嫁を誘拐して結婚するというキルギスに伝わる伝統的な婚姻の形です。映像 では、ある日突然、花婿側の男達が誘拐しに来て泣き叫ぶ花嫁を運び去るという大変ショッキング なものでした。この受け継がれてきた伝統も、多様な価値観や人権の意識の高いグローバル化の中 で非難され始めているのかもしれません。その文化を知らないものが簡単に是非を決めることはで きませんが、笠井さんは伝統なら許されるのか、守る伝統とは何かということについて考えてくだ さいと問いかけます。

# [Be a Sponge]

いろいろな国での生活の経験から、日本はとても豊かな国だということを再認識されたそうです。 ただこの中にずっといては多様な価値観は理解できないことも感じ、私たちにもいろいろな経験を 通じてスポンジの様にたくさんのことを吸収してみて欲しいとお話くださいました。海の水は全部 吸い込めないから自分のキャパスティをくれぐれも考えてと優しくアドバイスもしていただきまし た。







大学に入って学んだこと

- ①「自分の意志」を持つこと
- ②自分のキャパシティーを知ること



キャパシティーを知ること

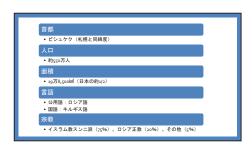
- •優先すべきことを考える
- •できるかできないか、シミュレーションしてみる
- •断ることに慣れる

キルギス共和国

キルギスってどこ?



キルギスってどんな国?



自然!山山山山

中央アジアのスイス!

神様の別荘地!























キルギスクイズ



Q2.次のうちキルギスの国花でないのは?

- •①チューリップ
- ·2ハス
- •③ワタ
- ④バラ

# Q3.キルギスの通貨は?

- ・①シマ
- •②ゴールド
- •③ベル
- ④ソム

#### Q4.キルギスの日本人人口は?

- •①約140人
- •②約320人
- •③約50人
- •④約270人

### 特別問題(5点)

- ・この楽器の名前はなんでしょう?
- ①チョンマジャ
- ・②グスリ
- •③カルボスターニ
- •④テミルコムズ

# Q5.キルギスの大統領だったのは?













### 

- 任期: 2005-2010
   『チューリップ革命』でアカエフ大統領が 国外逃亡したのち、大統領に
   2010年、反大統領デモが起こる。大規模な 武力衝突が起こり、死者は75人以上、負傷 者は1000人以上という惨事に
   キルギスを脱出しベラルーシへ亡命、辞任



- 暫定キルギス共和国大統領任期: 2010~2011

# アルマズベク・アタンバエフ

- 現大統領
- 2013年に訪日、芥川龍之介や、阿部公房 などを愛読。日本好き

# キルギスでの生活

# ビシュケク



















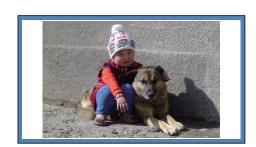
- •別名、中央アジアの真珠
- •琵琶湖の約9倍の大きさ
- •遺跡が水没している!
- •真冬でも凍らない!







# 地方と人々













































## キルギス人と日本人は似ている!?

- •遠い遠い昔、キルギス人と日本人は同じ民族、兄弟だった。
- ・そのうち肉が好きなものはキルギス人になり、魚が好きな ものは東に渡り日本人になった

- ・日本に対する関心が非常に強い! (とっても親日) ・積極的に日本語を学ぼうとする ・日本センターがあり、日本祭りなるものが開催される





### パターン①

ただのまるた、もしくは板

### 問題点

- まるただとつるつる滑る→いつ滑り 落ちるかわからない
- 木の板だと割れそう→いつ奈落へ落 ちるかわからない



### パターン②

骨組みだけつくられて諦めた橋

### 問題点

- •足を踏み外したら死
- •骨組みにぶつかって落ちても死

## キルギスは発展途上国

### 貧富の き

• 物乞いの子供、片足のない老人、赤ん坊を抱え泣く女性

# 不十分な設備

爆発する電球、停電と断水、不十分な食糧

### 合除性

- 日本人誘拐事件
- ・アラ・カチュー (誘拐婚)

# キルギス事件簿

# 停電事件

- 常時電力不足のため、いつ停電になるかわからない(日常茶飯事)
- 節電のため、政府が計画的に電気を止める 『計画停電』があった
- そのため、夏40度を越しているときや、 冬-20度以下の時に電気が止まることも
- ろうそく、発電機、ペチカ(暖炉)は必須

### 水道爆発事件

- •日本に一時帰国してからキルギス に帰ってきた
- •手を洗おうと水道をひねると......
- •ボォン!という爆音とともに水しぶ きが飛び散り水道爆発
- •真っ赤な水が

### 雷球爆発事件

- ある日電気をつけようとスイッチを押したら......
- •ボォン!という爆音とともに電球が火を噴き煙を上げながらロケットのように吹っ飛んだ

# 訪問者たち

- •ハリネズミ
- •コウモリ

# 小学生運転事件

- •ある日知り合いが家に
- •けどお母さんは助手席に.....
- •よく見ると運転していたのは小 学六年生の息子のほうだった
- しかも片腕骨折
- •家では一番の運転上手らしい

# 笠井落馬事件

•笠井が馬から落ちた

# 偽セコム事件

- •明け方の3時くらいにインターホン が鳴る
- •何かと思って外に出ると、セコムを 名乗る私服の兄ちゃん二人組が
- 危険を察知したので門を開けて欲しいと言う

# 断水

- •真夏に約一週間の断水
- •トイレもお風呂も機能しない、 おまけに停電
- •家のプールから水を汲む日々
- •なかなか直らず、調べた結果...

•お隣のおじさんが、自分の家の 水圧を上げるため、笠井家の水道 の元栓を閉めていた!

アラ・カチュー (誘拐婚)

## アラ・カチュー (誘拐婚) とは

- 男性が目当ての女性をさらい、一家総出で無理矢理説得して結婚させるという慣習
- 誘拐されると大抵男の親戚の家に監禁される→一度男の家に入ってしまうと鈍潔でないと見なされるため、家族に恥をかかせないためにもそのまま結婚を受け入れる女性が多い
- 家族や警察も「伝統だからしょうがない」とあきらめてしまう
- ・しかし、お見合い結婚を避けるため「駆け落ち」として誘拐婚を利用する ことも

•伝統だから、と言ってなんでも許されてしまう

本当に守るべき伝統とは何なのか?

キルギスを離れて わかったこと

- ・日本は本当に恵まれた豊かな国
- でもそのぬるま湯につかったままでは何もわからないまま
- ・知識、理性、体験!
  ・いろいろなことを見て、聞いて、体験することが必要

Be a スポンジ

おまけ



# 3-3-2-8●2016/01/10 海外で活動するということ「北欧の生活を通じて」 北口 陽子 氏

今日は冬休み明け、第一回目の GUS I の授業です。ゲストスピーカーとして、本校卒業生であり、本校コミュニケーションセンターに勤務されている北口陽子さんをお招きし、ご本人のチャレンジし続けている体験とその経験から学ばれたことについてお話を伺いました。本校在学中はとてもおとなしく控えめだったという北口さん、もともとアメリカからの帰国子女でもありましたが、大人になって飛び出した北欧での生活を通して、とても前向きで積極的に自分を変えることができたそうです。

北口さんは、大学卒業後に学生時代より関心のあった日本での福祉の現場で働き学びながら、福祉先進国といわれるデンマークの学校の存在を知りました。さらに学んでみたいと、最初に留学されることになったのが Nordfyns Folkhojskole という様々な国籍、年齢の人が集まる社会福祉学校でした。4年半の間に福祉について学び、多様な副教科では新しいことへの挑戦をいくつもされました。様々な環境の人との共同生活で価値観を認め合うことの難しさと大切さを学び、自分の思いを伝えることができるようになりました。配慮から苦手な人や物を口にすることに抵抗を持つ日本人の北口さんでしたが、苦手なものがあるのはいけないこと?当たり前のことでは?と言われたことで、無理に合わせる必要は無いと心が開放された気持ちになったそうです。そういった違う視点から物事を捉えることで自分にも自信が持て、世界中の友達ができたことは財産だと語られました。

そこでの経験や出会いがきっかけとなり、デンマークの福祉に携わる人が受講できる U.C.Lillabaelt という現地の大学で障がい者の子どもが社会参加するための製品開発を企画提案する半年のプロジェクトに参加されました。そこからさらに Working Holiday の制度を利用して、ノルウェーでホームステイをしながら重度の障害のある子どもの施設で働きました。重度の障害のある子ども達のサポートは、ただでさえ言語が違う北口さんにとって不安がありました。ヨーロッパでは英国以外は英語が母国語ではないため、英語のできる北口さんにとっても意思疎通の難しさがありましたが、同じ目標を持つことや、相手を理解しようとする気持ち、伝えたいという気持ちが単なる語学力以上にコミュニケーションにとっては大切だと気付かれたそうです。家族のように支えてくれる存在ができ、また自分が成長することのできたノルウェーでいつか将来子どもの福祉に関わりたいと活き活きとした表情で教えてくださった北口さんはとても眩しい先輩です。

経験や実践から学んだことは自分のものになる、やってみないとわからない、行ってみないとわからない、そして意思を持ってチャレンジしていれば、また必ずサポートしてくれる人が現れる、チャレンジし続けてくださいと力強い応援のメッセージが散りばめられたお話でした。





































# 苦労したこと

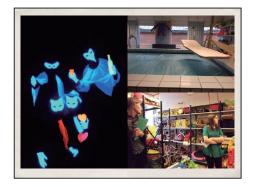
- \* バス停名が聞き取れず、どこで降りたら良いかわから なかったこと。
- \* 日本食欠乏症になったこと。
- \* 湯船に浸かりたい病になったこと。

# U.C. Lillabælt

http://international.ucl.dk

- ❖ 初めての一人暮らし
- \* Building Interfaces for Social Inclusion=B.I.S.I.
- \* 17人、11カ国
- 得たもの:かけがえのない友達、 心友、専門分野を超えて協力す るコミュニケーション力、異文





# 苦労したこと、 驚いたこと

- \* みんなにとって英語が第二外国
- \* 「当たり前」が違うということ
- \* 宗教によって食べられないもの があること









# Working Holiday

- ◆ 仕事先 :Nordfyns Folkhøjskole, Børnehusene
- \* デンマークの障害者福祉の現場を 体験
- いい人卒業!
- \* 得たもの:世界中から来ている 方々との交流・人脈、デンマー クの家族との出会い、デンマー ク語の習得、「嫌い!」という 勇気











# デンマーク語 とノルウェー語 \* ありがとう Tak Takk \* どうもありがとう Tusind tak Tusen takk Hej Hallo こんにちは \* 元気ですか? Hvordan har du det? \* おめでとう! Tillykke Gratulere \* 私の名前は陽子です。 Jeg hedder Yoko. Jeg heter Yoko.









チャレンジし続ける人生

# 3-3-2-9●2017/01/24 「グローバル商品」 佐伯 盛一 氏

今日は、最前線で活躍されるビジネスマン、佐伯盛一氏をお迎えしてレクチャーを受けました。佐伯 氏は、同志社大学を卒業後、メガネフレーム、サングラス等の製造販売、海外輸出を手がける会社に 入社され、以来 25 年以上に渡り中国と関わり商品開発などに携わって来られました。

毎日のニュースで、中国という国について報道されない日はありません。それだけ、世界にとって、 日本にとって影響を持っている国だということです。ただニュースの情報というものは非常に断片的 であり、そこから判断するのではなく、より多くから情報を集めて総合的に中国の全体像を掴んで欲 しい、とおっしゃいました。また中国はとても大きい国で、同じ国であっても北と南でもずいぶん違 います。

今では中国の経済規模は日本の 2 倍、ここ 30 年でずっと成長を続けています。日本にとっての貿易相手国としては、輸入先で第 1 位、輸出先で第 2 位と存在感は圧倒的です。ところが、データを見ると日本人と中国人の双方の好感度は高くはありません。中国の愛国主義的教育、また政府にとって都合のよくない情報の操作、監視、取締りは、中国国民の意識に影響しているといえます。まさに今朝も、やり取りを暗号化して中身を隠す VPN という通信を禁止する通達があったそうです。一党独裁の政治体制は、三権分立ではないために、時には政府の都合で不条理なこともまかり通ってしまいます。こういう中国とうまく付き合って行くのは確かに大変なことです。

佐伯さんの会社で作られたサングラスは、日本で組み立てられ規格に沿う形で日本製となっていますが、部品によって企画した会社、開発した会社、その工業とそれぞれ国が違います。私たちの身近な製品は様々な国が関わって生産されており、私たちの生活はまさに Globalization の中にあります。その中で、中国との貿易対策でもあった TPP の交渉が、先日のアメリカ新大統領の離脱署名で発効が難しくなりました。また、一方で RECEP では中国が「一帯一路」構想という経済的な思惑の下にリーダーとなり、資金を集めるためにアジアインフラ銀行の設立などが進めてられています。こういった動きは日本の貿易にとって厳しい状況ですが、各国の動向を見守るしかありません。

また中国には長い歴史の中で大きな転換期がいくつもあり現在に至っています。香港、台湾との関係、 最近の日本をビジネスモデルとした中国人アイドルの活躍についてもお話をしていただきました。 AKB48を「日本大型女子偶像組合」と中国では表記されると知り、クラスがわっと沸きました。中国 における漢字表現のおもしろさもいくつか例を挙げてご紹介いただきました。また、物事の統計の数 字については、それはどういう機関が算出したものなのか、その数字の裏にある意図を読んでくださ いとビジネスマンならではの視点も教えていただきました。恵まれた者として、物事を浅はかに見な いことを常に心がけたい、様々な価値観の違いや、文化の違いを冷静に受け止めて、それを前向きに 捉えられている姿勢が印象的でした。



いくつか書籍もご紹介いただき、ジャーナリストでもあった George Orwell の「Animal Farm」「1984」 は自由社会に生きるものとして読んで欲しいとおっしゃいます。











## 外交に関する世論調査 内閣府平成28年3月14日更新

中国に親しみを感じる、 どちらかというと親しみを感じる 14.8 %

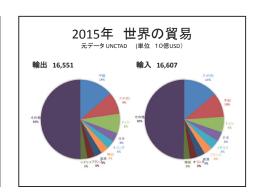
中国に親しみを感じない、 どちらかというと親しみを感じない 83.2 %

### 日中共同世論調査 言論NPO 2016年9月13日

相手国に良い印象を持っている、 どちらかというと良い印象を持っている 中国世論 14.8% 日本世論 8%

相手国に良くない印象を持っている、 どちらかというと良くない印象を持っている 日本世論 91.6% 中国世論 76.7%

# 日本の貿易 2015年 輸出 75米6100億円 輸入 78兆4100億円

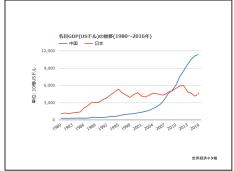
















# Globalization

政治、経済、文化などが、国境や地域を 越えて拡大すること。

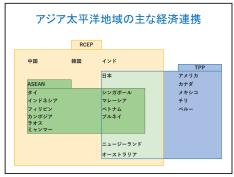
- \*世界的分業で、より効率的な生産が行われ、 物価が低下し、社会が豊かになる。
- \*安い輸入品の増加で競争が激しくなり、 競争に敗れた国内産業は衰退する。
- \* 厳しい競争のなかで産業育成をするため、 労働基準が緩められ、賃金が低く抑えられる。

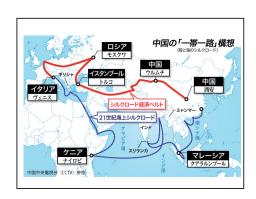
# HSコード(統計品目番号)

あらゆる物品に固有分類番号をつけて、 貿易上、それが何であるか 世界各国で共通して理解できるよう 取り決めた番号

> レンズ 9002 眼鏡枠 9003 サングラス 9004

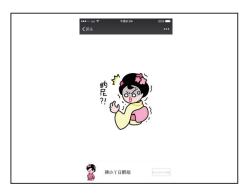












# 可苦可乐 (可苦可楽)

可口可乐

卡拉OK

# **AKB48** 日本大型女子偶像组合

akb48是2005年诞生的女生偶像组合。 她们分成几个小组,每天在秋叶原的专属剧场 举行公演。 所以她们还有一个美称, 可以见面的偶像。



















爱

酱

豆瓣儿酱 (豆板酱)

蛋 黄酱

番茄酱

草莓酱

闹

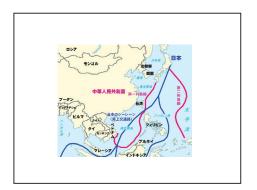
# 吵闹

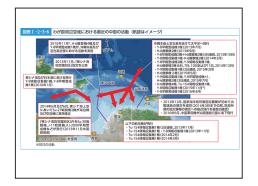
# 闹钟

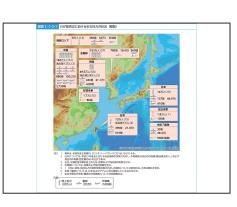


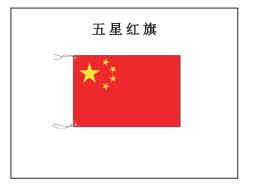












# 3-3-2-10●2017/01/31 持続可能な社会に向けて 京田辺市経済環境部環境部長 竹村 卓司 氏

今日は、私たち同志社国際中学・高等学校も所在している京田辺市から経済環境部の竹村環境部長に お越しいただき、京田辺市がどのように環境問題と向き合い、持続可能な地域づくりに取り組んでい るのかを中心にお話を伺いました。

「私が皆さんの年齢のころには、温暖化の話題はほとんどありませんでしたから、今皆さんがどのよ うに感じているのかも大変興味があります。」と竹村さんはご挨拶されました。

世界の目標では、温室効果ガスの排出を今世紀中に0、またはマイナスにすることです。それだけ過 剰な温室効果ガスが排出されてきました。そこで、自分達の生活はどう変化してきたのか、今の生活 が当たり前かを各自が考えながら、京田辺市の取り組みを伺いました。行政の環境に対する取り組み は、以前の高度成長期には公害対策で、衛生環境を整え生活環境を向上させるということでした。し かしその後社会は大量消費、大量生産、大量廃棄へと変わり、1人ひとりが環境問題の被害者とも加害 者ともなり得るようになったことで、1人ひとりの保全行動が不可欠となりました。 つまり行政だけで は環境問題の解決は困難で、ライフスタイルの変化、持続可能な社会構造への転換は、市民参画、事 業者との連携が最も大切だそうです。官民が同じ方向を向いてようやく動き出すのです。そこで京田 辺市が掲げる7つの対策である、「省エネに配慮した暮らしの推進」、「省エネに配慮した事業活動の推 進」、「再生可能エネルギーの利用推進」、「環境にやさしい交通対策の推進」、「循環型社会づくりの推 進」、「緑化対策の推進」、「人づくり・雰囲気づくりの推進」を軸に、特に力を入れている市民団体と の数々のパートナーシップ活動をご紹介いただきました。知ってもらうことでエコへの意識が変わる ことが大切だと考えられています。

考えるのは世界レベルで、行動は自分たちのできることを、それが行政、公務員のすることですとお っしゃいます。これは私たちにも共通することです。また、Save(節約)、Select(選択)ということ以上 に発想の転換が大切で、つまり車を使わないという我慢よりも、お気に入りの自転車を持ち、それに 乗りたいという気持ちに切り替えるといったような Shift が環境にも配慮した持続可能な社会へと繋 がるのではと話されました。ライフスタイルについても、何が本当の豊かさなのか、発想の転換が必 要だということを再認識します。まさに私たちは世界レベルをしっかり学び、確実に進む環境悪化に 対して自分たちのできることを考え実践していかなければいけない時代に生きています。京田辺市の パートナーシップ活動の中にも私たちがすぐにできることのヒントがたくさん隠されていました。ぜ ひ京田辺市役所を訪れて、またウェブサイトで、市が発信する情報を知ってみたいと思います。







平成 29 年(2017年)1月 20日 京田辺市経済環境部環境課 "竹村 卓司

# ~持続可能な社会に向けて~

# 【地球温暖化について】

- ・温暖化の影響と予測
- ・私たちの暮らしと環境
- ・暮らしや社会はどう変わってきたか?

# 【京田辺市における取り組み】

- ・環境行政
- ・パートナーシップ活動

# 【私たちができること】

- ・心の豊かさと賢い選択
- ・意識して行動している(行動したい)ことは?

# 3-4-1 フィールド・ワーク GUS-BASIC (高校 1 年生)

# 3-4-1-1 行程表

Ш	삔
20	- KH
9 H 2C	都
#	低
2016年	赛
S	K
	J
	R
	3
	7
	3)

勿 7 温

勿

旅行日: 2016年11月13日(日) ~ 11月14日(月) 旅行先: **岡山県真庭市** 人 員: 生徒 20 名(男子 名、女子 名) 先生 1

極

校 小 鄉 100 遞 H 社 恒 

 教育旅行センター

 支 店 長:桐野 晋一総合旅行業務取扱管理者:中村 悦治

 担 当 者:大谷 将人

  $_{\perp}$ 河河

宿泊・備考	[湯原温泉] 森のホテル ロシュフォール 電話:0867-62-3939	<b>5</b> 3	京都市下京区五条通新町東入る東結屋町186 ヤサカ五条ビル9階 -361-0991 FAX:075-361-7866
程	=== 京都南IC ==== 湯原IC === 湯原温泉(治) 18:15 事前ミーティング	131) ガイド合流 === 研修 【SGH バイオマス研修T担当者)  担当者)  育成の状況)  電底の状況   集積施設見学    駅	〒600-8107 京都市下京区五 TEL:075-361-0991
行	集合:京都駅/(条口//ス・プール (15:00) 京都駅 ==== 15:15 8 9食後 事前ミ・	湯原温泉 === 「木の駅」勝山ふれあい会館(真庭市三田 131)ガイド合流 === 研修 【SGH バイオマス研8:30 9:00 ・真庭市におけるバイオマスタウン構想の概要説明(真庭市役所担当者) ・林業現場(手入れされた森 富原の森 100年生の美林:森林育成の状況) ・勝山街並み保存地区見学 (昼食) ・真庭市役所本庁舎(バイオマスポイラー導入庁舎・地域資源活用庁舎・太陽光発電・電気自動車・CLT 活用バス停など) ・バイオマス集積基地(バイオマスボイラー導入庁舎・地域資源活用庁舎・太陽光発電・電気自動車・CLT 活用バス停など) ・バイオマス集積基地(バイオマスボイラー導入庁舎・地域資源活用庁舎・太陽光発電・電気自動車・CLT 活用バス停など) ・バイオマス発電㈱(発電所概要説明・バイオマス発電設備見学) 真庭 === 久世に ==== 京都南に === 京都駅	——→ 貸切//ス======
四點	(8)	(B)	-
月日	<u></u>	41 / 11	新華線
<b>⋉</b>	~	V	記入例)

90

# 3-4-1-2●2016/11/13-14 バイオマスツア一真庭

GUS BASIC クラスより 13 名の生徒が、豊かな森林資源を生かし、バイオマス事業を軸に持続可能な 社会構築を目指している岡山県真庭市を訪問しました。このツアーでは、地域資源の有効活用によっ て化石燃料に代わる様々なエネルギーを実用化している現場を見学することができました。

## 【内容】

真庭市役所: 真庭市におけるバイオマスタウン構想の概要説明

林業現場:森林育成の状況:100年生の美林 宮原の森

勝山:街並み保存地区見学

真庭市役所本庁舎:バイオマスボイラー導入庁舎・地域資源活用庁舎・太陽光発電・電気自動車店 CLT

活用バス停など

バイオマス集積基地:バイオマス原料の安定供給を目的とした集積施設見学

バイオマス発電(株):発電所概要説明・バイオマス発電設備見学

本校の生徒が訪問したことが、地元の山陽新聞1月6日(金)版でも紹介されました。

記事より:昨年11月中旬。京都府の高校1年生13人がエネルギー問題を学ぶためツアーに参加した。 樹齢 100 年を超えるヒノキ林や未利用木材を燃料に使う真庭バイオマス発電所を視察。地域内で木林 資源を無駄なく活用する"真庭モデル"を1日かけて学習した。

「先進地の現場や関係者の話に直接触れ、勉強になった」と長浜千波さん(16)。引率の山本真司教諭 (61) も「受け入れ態勢がしっかりし、真庭を PR しようとする意気込みも伝わってきた」と話す。









# 3-4-2 フィールド・ワーク GUS-BASIC (高校 1 年生)

# 3-4-2-1 行程表

2017年01月06日

3  $_{\perp}$ 哲 黑

 プッソーズ株式会社 京都教育旅行支店 支店長: 桐野 晋一 総合旅行業務取扱管理者: 中村 悦治 担当 者: 大谷 塔人 7

广防型带	しいてもおん

1月18日(水)

16名

二

旅行田:2017年1月17日(火)~ 旅行先: **東京都内** 人 員: 生徒 15名 先生 1名

颒

SGH

同志社国際高等学校

日	日日	田體	行	宿泊・備売
_	1/17	(所)	京都駅集合 9:00	【東京都内】
			のそみ 4 号 京都駅	品川ブリンスホテル 06-6252-2288
			<u>你務省外交史料館 </u> 神谷町駅++++震ヶ関駅  <u>外 務 省 </u> 虎ノ門駅++++新橋駅㎡㎡㎡㎡間1川駅…ホテル 14:10 14:55 15:12 15:14 15:30 16:30 17:02 17:04 17:11 17:20	会議室にてレクチャー 19:30~21:00
			夕食後 「(仮題)グローバル・リーダーの条件、進路決定など」(卒業生 関川知里氏 JAXA 職員、伊地知亮氏 UNOCHA(国連人道問題調整事務所)、ピースポートコーディネイター) 19:30—21:00	
N	7 / 8	(3K)	東京メトロ JR ホテル・・・品川駅㎡㎡で広尾駅・・・   ドイツ大使館 ・・・広尾駅・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
			のそみ43号 ・・・ <mark>UNICEF ハウス</mark> ・・・・B川駅 12:00 13:00 14:30 15:17	17.25
記入例)		     新幹線   J R m²m³m³m³m³m³m³m³   徒歩・・・・・・・	 	町東入る東錺屋町 186 ヤサカ五条ビル 9 階: 075-361-7866

# 3-4-2-2●2017/01/17-18 東京フィールドワーク 大使館・国際機関訪問

GUS の学び「環境先進国に学ぶ」の事前学習の一環として、GUS BASIC クラスより 15 名の生徒が 東京フィールドワークに参加しました。ドイツ連邦共和国とオーストリア共和国の各大使館等を公式 訪問、私たちの学習意図を説明し、それぞれの環境問題に関する概説を伺いました。卒業生である JAXA(宇宙航空研究開発機構)に勤務する関川知里氏、UNIOCHA(国連人道問題調整事務所)に勤務 する伊地知亮氏との交流でも大変有意義な交流となりました。

# 【内容】

17日 (火) 東京へ移動

オーストリア共和国大使館訪問 外務省外交資料館見学 外務省公式訪問 夕食後、JAXA、UNOCHA に勤務する卒業生と交流 「グローバル・リーダーの条件、進路決定など」 ホテル滞在

18日(水)ドイツ大使館公式訪問 UNICEF ハウス訪問 京都へ

訪問の様子が紹介されています。 ドイツ大使館広報官のブログ

http://young-germany.jp/?p=16005

外務省 HP

http://www.mofa.go.jp/mofaj/p\_pd/dpr/page25\_000654.html







# 3-4-3-1 行程表

# 研修旅程 2016年12月6日(火)~12月17日(土)

欧	月日(曜)	地 名	現地時刻	交通機関	行 程 (宿泊地)	備考
		関 西 空 港 発	11:45	AY078	ヘルシンキ経由 フランクフルト	
1	12月6日	ヘルシンキ着 ヘルシンキ発	15:10 16:55	AY825		ドルトムント泊 Dortmund
	(JK)	フランクフルト着	18:35	専用車	(約3時間)	HOLIDAY INN EXPRESS Moskauerstr.1
		ドルトムント着	22:40	(JTB)	ドルトムント Dortmund	
2	12月7日 (水)	ドルトムント ザ ー ベ ッ ク Saebeck	09:00 12:00 15:00	Bus Tram	レクチャードイツのエネルギー政策 Bio Energiepark ワークショップ (軍用地から再エネパークへ再開発)	昼食 El Greco Schuerufstr.300 夕食 HOEVELS Their-Galerie Dortmund ドルトムント泊
			09:00		レクチャー 工業地帯と団地の衰退	
3	12月8日 (木)	ドルトムント	12:00	U-Bahn	クラーレンベルク団地再生プロジェクト 製鉄所、アルミ工場跡 再開発プロジェクト	昼食 Grill Restrant Platia Rodenbergstr.60 Dortmund 夕食 Taj Mahal Kampstr.82 ドルトムント泊
		18 9 1 2 3 / 1	08:00		レクチャー 建物の省エネ化	
4	12月9日	ドルトムント	09:30 12:30	DB など	省工ネ住宅体験学習 日独比較	昼食 ケータリング 夕食 Restraurant La Paz
4	(金)	ブッパータール Wuppertal	15:00		手工業組合による職人育成体験	Hansstr.30 Dortmund ドルトムント泊
		ドルトムント			レクチャー ドイツのギルド制度	
5	12月10日	ケルン Köln	09:00 11:00 13:00	専用車 (JTB)	カーフリー住宅地についての学習	昼食 アウトバーン SA 夕食 調整中 フライブルク泊
		フライブルク	14:00		フライブルク市中研修 フライブルク Freiburg i.B	Freiburg i.B INTERCITY Hotel
			09:00		Münster 聖日礼拝	
6	12月11日(日)	フライブルク	終日	Tamなど	昼食後 持続可能な森林視察 フライブルク私有林	昼食 調整中夕食 Waldsee 森のレストランフライブルク泊
		フライブルク	09:00		ヴォーバン地区視察 Vauban	昼食 Süden ヴォーバン地区
7	12月12日 (月)	ヴァルトキルへ	終日	Res-Bus	Dreisam Stadion 見学 Waldkindergarten 見学	夕食 Paradise ヴァルトキルへ フライブルク泊
	, ,	Waldkirch			Jäger & Brommer ワークショップ	
8	<b>12</b> 月 <b>13</b> 日 (火)	フライブルク ブ レ ゲ ン ツ	08:00	Res-Bus	エコステーション ワークショップ (エコラボ ゼミ) Friedrichshafen	昼食 ボーデン湖周辺 夕食 ブレゲンツ泊 Bregenzerwald
					自由散策 ブレゲンツ Bregenzerwald ブレゲンツ	
<u> </u>		ゴルビンツ	00.00			Hohes Light Hotel
	12月14日	ブレゲンツクルムバッハ	08:00	Res-Bus	公共、民間木造省エネ建築見学 共同組合方式 チーズ工房見学	-3. 13. m/4
9	(水)	Krumbach ヒッティザウ			共向組合方式 ケース工房見子 ワークショップ	ブレゲンツ泊
		Hittisau ブレゲンツ		<b>声</b> 田 士	·	
				専用車 (JTB)	午前中 ブレゲンツ散策 Friedrichshafen	フランクフルト泊
10	12月15日 (木)	Friedrichshafen Frankfurt a.M	14:35	LH375	Frankfurt a.M / Düsseldorf	
	V17	フランクフルト	16 : 30 17 : 00	0 6		Hliday Inn Airport North
$\vdash$		フランクフルト	08:30	S-bus S-bus		
11	12月16日	Frankfurt a.M	11 : 35	AY822		
	(金)	ヘルシンキ	15 : 10 17:25	AY077		
12	12月17日(土)	関西空港着	10:00		関西空港 解散	

# 3-4-3-2●2016/12/06-11 環境先進国ドイツ・オーストリア

GUS I クラスより 18 人の生徒が、環境先進国であるドイツ、オーストリアの都市、施設を訪れるフィールドワークに参加し全員元気に帰国しました。連日のワークショップや施設見学などを通して、ドイツ・オーストリアにおけるエネルギー政策、地域再生、森林との共生、環境に配慮する住居や街づくり、そして豊かさについてなど、日本における現状と比較しながら学び考える大変有意義なフィールドワークとなりました。

# 1 日目 12 月 7 日 (水)

レクチャー: ドイツエネルギー政策、経済力の国外流出を防ぐには

ドイツにおけるエネルギー政策と日本の現状を比較しながら講義を受講。エネルギー供給や政治、 資本の根本的に対する考え方を見直す。

視察: Bio Energiepark (軍用地から再エネパークへの再開発)

太陽光、風力、バイオガス、地域熱供給を大規模に行う施設。市民からのゴミを利用するバイオガス発電や、同様に地域の農家と連携してバイオガス原料を調達するもの、また、市民参加型といった多様なモデルでプロジェクトが実現されている。

宿泊: ドルトムント (Dortmund)

### 2 日目 12 月 8 日 (木)

レクチャー: 工業地帯や団地の衰退

成長のない豊かさ産業と社会構造の変化は時に衰退をもたらすこともある。縮小化が進む社会での成長のない豊かさとは何かを考える。

移動: 地域の公共交通機関を使って市内移動(地下鉄利用=U-Bahn)

視察: クラーレンベルク団地再生プロジェクト

高度成長期後に衰退を始め、社会問題の吹き溜まりとなった団地を、いかに低コストで住民を参加させながら復活させるかという課題をもったプロジェクトを視察。

視察: 製鉄所、アルミ工場跡再開発プロジェクト

製鉄所とアルミ工場をビジネスパークと高級住宅地へと再開発。ポジティブとネガティブの両面でプロジェクトの結果を解説。

宿泊: ドルトムント (Dortmund)

# 3 日目 12 月 9 日 (金)

移動: ヴッパータール (Wuppertal) へ (ドイツ鉄道=DB+バス)

レクチャー: 建物の省エネ化による一石数鳥の効果、日独住宅政策・業界の違い

家にも燃費がある。これまでとは異なった視点で家を見てみる。建物省エネ化の仕組みを物理的 に解剖していく。

視察: 省エネ住宅(住宅展示場)

快適な住環境を保ちながらも、住宅で発電されるエネルギーのほうが消費量よりも多くなる住宅、

プラスエネルギー ハウスを視察。

移動: ドルトムント (Dortmund) へ (ドイツ鉄道とバス)

視察: 手工業組合による職人育成

会社に育てられる日本と違い、長年熟成されたシステムで 10 倍近くの時間をかけて職人を育成するドイツの職人教育機関を訪問。

宿泊: ドルトムント (Dortmund)

# 4 日目 12 月 10 日 (土)

視察: ケルン (Köln) カーフリー (car-free) 住宅地

鉄道車庫跡地をカーフリー団地へと再開発した事例視察。大都市近郊ならではのエコ生活を実感する。

宿泊: フライブルグ(Freiburg im Breisgau)

# 5 日目 12 月 11 日 (日)

ミュンスター (Münster) のカトリック教会でミサに参加

視察: フライブルク(Freiburg im Breisgau)市有林の森林

持続可能で多機能な森林マネージメント (森林散策 2時間、説明1時間)

移動: ホテルヘ (路面電車=LRT)

視察: 路面電車 (LRT)とパークアンドライドの実情、旧フランス軍駐留地だった市南部のヴォバーン (Vauban) 地区

車を制限し、自分達で自分達の住みたい環境に配慮した集合住宅建築、街づくりに取り組むコミュニティーを見学。

宿泊: フライブルグ (Freiburg im Breisgau)

## 6 日目 12 月 12 日 (月)

移動: ブライバッハ (Bleibach) 村へ (路面電車=LRT)

視察: フライブルク (Freiburg im Breisgau) のエコ住宅地ヴォーバン (Vauban) 地区

レクチャー: 市民参加型都市計画に関わった建築家によるレクチャー

移動: ヴァルトキルヒ (Waldkirch) 市へ (LRT+路面電車と近郊電車)

視察: ヴァルトキルヒ (Waldkirch) 市のオルガン工房 Jäger & Brommer 社

展示ルーム、教会パイプオルガン(同志社大学クラーク館に設置)、手回しオルガンなどを見学。 ワークショップ: 木工ワークショップで木材資源の有効利用を体験。

宿泊: フライブルグ (Freiburg im Breisgau)

# 7 日目 12 月 13 日 (火)

Rother 社 (www.busunternehmen-rother.de) へ

ワークショップ: フライブルグ エコステーション (BUND)

「海洋ゴミ」「エコラボ」Ökostation Freiburg 常駐スタッフによるギムナジウム生徒対象の体

## 験学習。

市内見学: フリードリヒスハーフェン (Friedrichshafen)

宿泊: ブレゲンツ (Bregenz)

# 8 日 目 12 月 14 日 (水)

終日 ブレゲンツの森 (Bregenzerwald) 地域

見学: クラムバッハ (Krumbach) 村の多目的木造建築、農家牛小屋を住居改修例、ヒッチザウ (Hittisau) 村の女性博物館の木造建築

見学: Egg 村のチーズ・乳製化粧品工房 Metzler

原料を全て無駄にせず産業を生み出す。

ワークショップ: 森林木材クラスター、木造と省エネ

宿泊: ブレゲンツ (Bregenz)

# 9日目 12月15日(木)

散策: リンダウ (Lindau)

移動: 帰路フランクフルト (Frankfurt am Main)へ (飛行機)

# 協力団体:

Bund für Umwelt und Naturschutz Deutschland e.V. (BUND)https://www.bund.net (ドイツ環 境自然保護連盟) seit 1975-6 FoE(Friends of the Earth)

Ökostation Freiburg seit 1986 http://www.oekostation.de (エコステーション・フライブル ク)













# 3-5 ● 2016/12/11 その他の取り組み GUS-I (高校 2 年生) Go Global Japan Expo 2016

12月11日(日)鳥取大学鳥取キャンパスで、Go Global Japan Expo 2016「世界に向かって Let's Try!」が開催されました。GUSIクラスより2名の生徒が、SGH体験発表を行いました。

SGH 体験発表では、西日本の5つのSGH 指定校の生徒が、それぞれの学校の取り組みや学んだ ことについてプレゼンテーションを行いました。本校生徒は、同志社国際がどのような学校なの かを紹介したあと、GUS Basic や GUS I で学んだことや授業の感想、今後の抱負などについて、 個性豊かに発表しました。



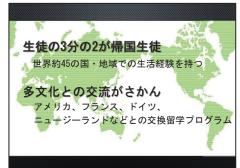


# SUPER GLOBAL HIGH SCHOOL 同志社国際高等学校

高2 丹羽彩佳 高2 宮岡由実

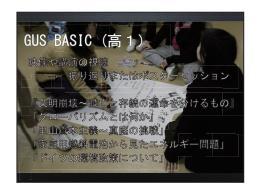
























# 3-6 2017/02/18 その他の取り組み 2016 年度 SGH 活動報告会開催のご報告

2月18日(土)、同志社大学今出川キャンパス良心館にて、2016年度 SGH 活動報告会を開催しました。本 校の SGH の学びも 2 年目を終了しようとしています。ひとつの区切りとなるこの日の基調講演では、「グ ローバリゼーションという現象について - 八つのコンセプト - 」と題して、同志社大学国際教育インステ ィテュートの Gregory Poole 先生にお話を伺いました。 グローバル化についてのクイズにも答えながら理解 を深め、生徒からの質問にも答えていただきました。国際化という言葉がなくなるときが本当の国際化、グ ローバル化ができた時だというお言葉が印象的でした。

また報告では、本校 SGH 研究開発実行委員長の山本教諭より一年の活動を通しての振り返り、高校 2 年生 の生徒達による、ドイツ・オーストリア フィールドワーク参加の報告、そして Go Global Japan Expo 2016 でのプレゼンテーションが行われました。生徒達はこれまでの SGH の学びを通して、またフィールドワー クでは肌で感じたことを踏まえて、実際に行動に移す、そして提言をするというインプットからアウトプッ トへのステップに進む準備をしています。これまで、講演や講義でご指導いただきました講師の先生方、フ ィールドワークでたくさんの学びの場を提供し共有していただいた関係者の皆様、本当にありがとうござま した。



司会:戸田光宣教頭



主催者挨拶:川井国孝校長



基調講演:同志社大学 ILA Gregory Poole 教授



授業の概要説明: 山本真司教諭



生徒:「ドイツ・オーストリア FW 概要」



「都市計画と住宅」



「森林との共存」



「エネルギー政策」



「問題解決への道」



生徒:「Go Global Japan Expo 2016 プレゼンテーション」











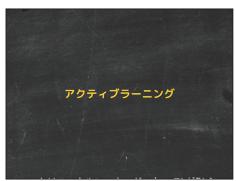










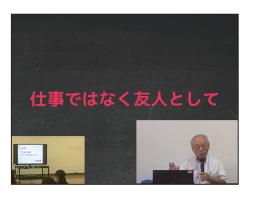














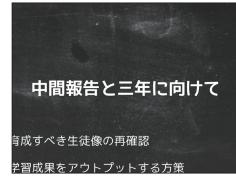


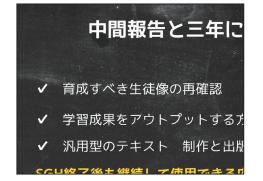


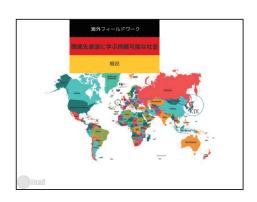




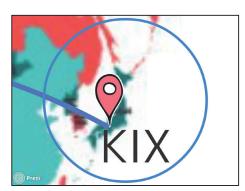


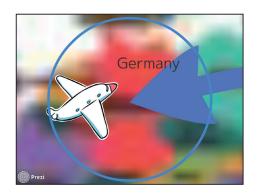


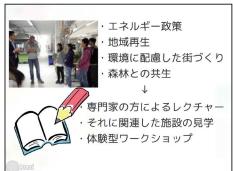


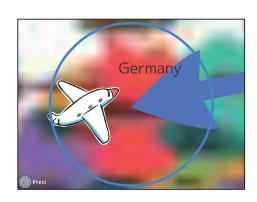






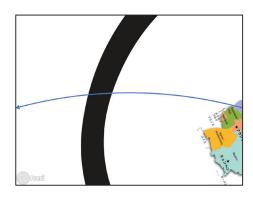












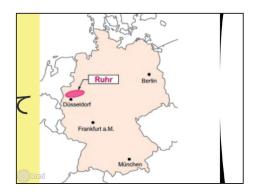


日本で大学卒業後、渡独。ドルトムント工科大学ディプロム (資格) 過程卒業後、ドイツ国内の省エネ建築研究機関での勤務を通して独立。現在は、日独省庁間の提携プロジェクトコーディネーターや、専門家や学生に向けたセミナー講師など、幅広い形で活躍されています。

Prezi



































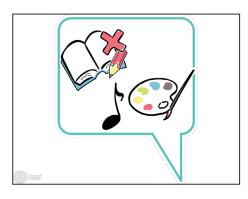






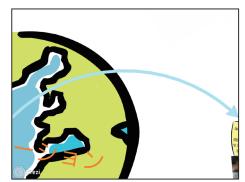






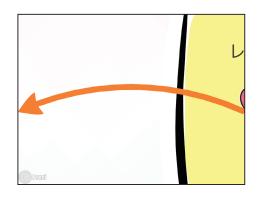






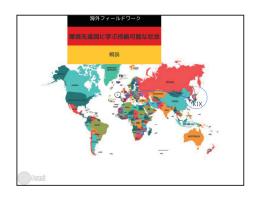






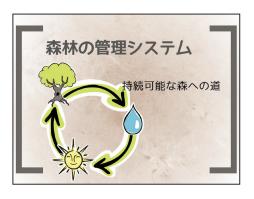






























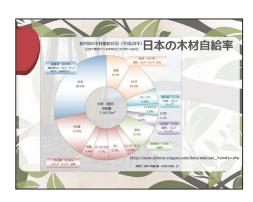


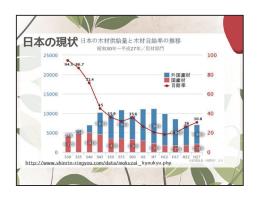






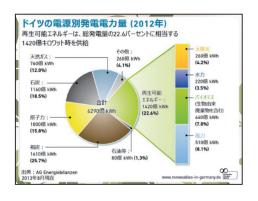






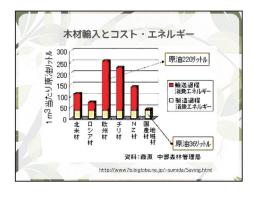


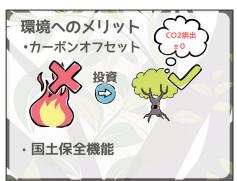








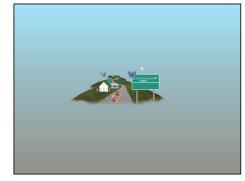
















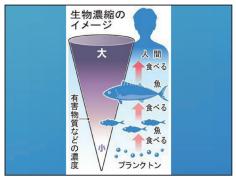






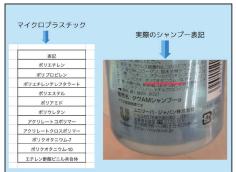










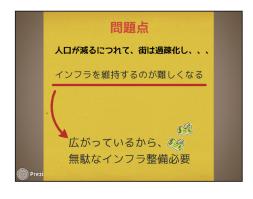












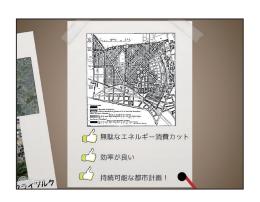


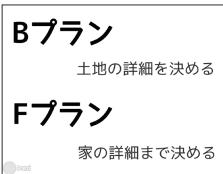


















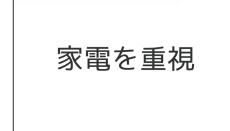












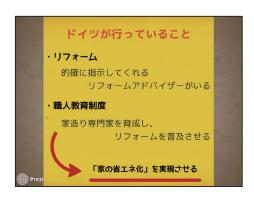




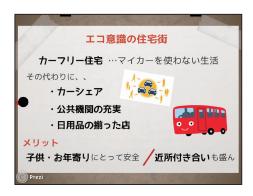






























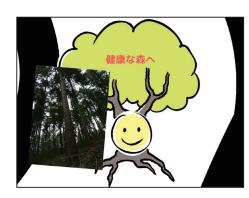
























#### 4 資料

#### 4 - 1新聞記事、広報誌掲載記事

柔斤

新聞定価 月宮め朝夕刊4,037円(新版館 3・738円)・朝刊3,093円(赤族園格 2・864円)・1部売り130円(消費税込み)

ている。

(小原一穂)

第3種郵便物認可

引率の山本真司教諭(61)も の話に直接触れ、勉強にな う意気込みも伝わってき し、真庭をPRしようとい った」と長浜干波さん(16)。 「受け入れ態勢がしっかり 先進地の現場や関係者 多の2929人を記録した。

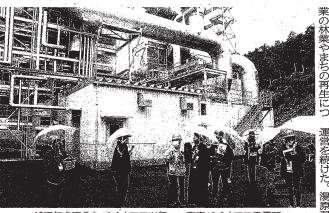
モデル』を1日かけて学習 を無駄なく活用する『真庭 を視察。地域内で森林資源 マス発電所(真庭市目木) 材を燃料に使う真庭バイオ 超えるヒノキ林や未利用木 参加した。 樹齢100年を 高校1年生13人がエネルギ - 問題を学ぶためツアーに 昨年11月中旬。京都府の で、全国から視察が相次いで を再利用する取り組みが活発 6年末。 当時から木くずなど ツアーが始まったのは200 いた。同年に市が国の「バイ

地域のイメージアップも目指 オマスタウン」に認定され、 発電所が稼働した15年度は最 本大震災直後は落ち込んだ 千人以上が参加。11年の東日 して連盟や市が導入を進め 人が訪れ、07年度以降は毎年 初年度は4カ月間で423 国内最大級のバイオマス

てきた。一方で多様化するニーズへの対応や新たな魅 学ぶ真庭観光連盟(同市勝山)の「バイオマスツアー 電事業などが注目され、ツアー客は同10月に累計2万 真庭」がスタートし、昨年12月で丸10年を迎えた。発 人を突破し、エリアの知名度アップにも大きく貢献し 木質バイオマス利用の先進地・真庭市の取り組みを

力づくりが課題となり、官民が連携して見直しを進め 地域 真庭で全国初のバイオマス 一丸で支援

#### 新たな魅力 n 課題



10周年を迎えたバイオマスツアー。真庭バイオマス発電所などが注目され、利用客は累計2万人を突破した=昨年11月中旬、真庭市目木

などから増加する個人や ネルギーへの関心の高まり ている。特に近年、自然エ らなければ中止になるため 加。ツアーは最低20人集ま ったが、15年度は21%に増 ー客のうち個人・小グルー 2、3人の小グループの受 ブの割合は12年度に13%だ け入れ強化は急務だ。 ーに対する要望は多様化し 観光連盟によると、ツア ただ10年が経過し、ツア 知名度を高めることにもつ 特色となり、事業の価値や ていきたい。それが新たな 変わったのかツアーで見せ ツアーを行う計画だ。 でに方針をまとめ、テスト 容に見直しており、3月ま 取り組み成果をPRする内 事業紹介が中心の現行から 向性を探る検討会を設置。 イオマス事業で地域がどう 宮田守之会長(69)は「バ

4人で、累計は2万402 16年度は11月末現在125 事業のPRを通じ、基幹産 人に上る。 好調な理由はバイオマス

の担当者が現場で案内役を ス事業を分かりやすく紹介 務めるなど、臨場感のある するコースやガイドマニュ 進委員会を設け、 運営を続けた。湯原温泉で アルを策定。開始後も企業 バイオマ 極的にアピールしている。 の宿泊、蒜山観光なども積

用日」を設けているが、

行

急きょ3回に増やし

ているという。 盟の真柴幸子事務局次長 れる人が増えた」と観光連 この地に愛着を感じてく 内に就職、移住する人も出 (38)。 ツアー参加を機に市 「バイオマスを入り口に 楽期の10月には希望が殺

係者らとツアーの新たな方 島根県江津市などでもツァ 11月に企業や行政、観光関 自色も必要となっている。 ーが行われ、集客のため独 活発化し、山形県最上町や こうした中、連盟は昨年 バイオマス事業が全国

要望は多様化

電所の見学を組み込めるようになった。問い合わせは真庭 験学習はヒノキの森や木材製品市場の見学のほか、枝打ち 用する真庭市役所、チップを加工する集積基地を巡る。 円)か1泊2日(1万5千円)を選んで参加する。視察コ などを行う。 2015年6月から両コースにバイオマス発 ースは木くずを固めたペレットや木材チップを冷暖房に利 観光連盟 (086741100) 柱の2コースがある。それぞれ日帰り(8千 視察と体験学習が 体

関係者や行政だけでなく、

視察先の企業も加わって推

援してきたことも大きい。

ツアー化に際しては観光

なげようと、地域一丸で支

バイオマスツアー真庭

115



### Begeisterung für deutsche Handwerksausbildung

Wilfried Jürgenliemke, HWK-Werkstattleiter für Sanitär-, Heizungs- und Klimatechnik (5.v.r. hinten), bekam Anfang Dezember Besuch von 20 Privatschülern der Doshisha International Senior Highschool aus dem japanischen Kyoto. Die jungen Leute, die im Rahmen einer zweiwöchigen Studienreise unterwegs waren, interessierte besonders, wie sich eine dreijährige Handwerksausbildung in Deutschland gestaltet. Diese sei in Japan nämlich gänzlich anders und auch kürzer, erklärte Koji Nagai (l.), der die Gruppe begleitete. Zu Beginn des Besuchs im HWK-Bildungszentrum Ardeystraße gab es einen kurzen Exkurs von HWK-Ausbildungsberater Volker Rückert (Mitte, hinten) zu den Tätigkeitsfeldern der HWK Dortmund und dem Dualen Ausbildungssystem. Dies stieß bei den Schülern sofort auf große Begeisterung. Der anschließende Einblick in die Praxis bot zusätzlich jede Menge Gelegenheit zum Austausch und zum Fragen stellen.

G&A SGH 紹介 160425



-グローバルハイスクールに指定されたということ

持続可能な社会を担うグローバル人材育成プログラム ~環境先進国に学び世界に提言~

SGH 研究開発実行委員会 委員長 山本真司

「グローバル・アンダースタンディング・スキルズ GUS-Basic」という科目を総合的 な科目として2015年5月から高校1年生全員を対象に1単位増やす形で設置いたしま した。また、今年度は選択科目「GUS·I」を高校2年生に、来年度は「GUS·Ⅱ」を高校 3年生の科目に設置いたします。アクティブラーニングの多角的な手法を駆使した授業展 開を計画し、実施しています。この件については、機会があるごとに、川井校長がご説明 しておりますし、学校便りや Over the Rainbow などの印刷、さらに学校ホームページにバ ナーを設けて広報しておりますが、この度、本紙に掲載下さる機会を得ましたので、あら ましをお伝えいたします。

文部科学省は「急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と 深い教養に加え, コミュニケーション能力, 問題解決力等の国際的素養を身に付け, 将来, 国際的に活躍できるグローバルリーダーを高等学校段階から育成する」目的で「国際化を

進める国内の大学 (SGU) のほか、企業、国際機関等と連携 して、グローバルな社会課題を発見・解決し、様々な国際舞 台で活躍できる人材の育成に取り組む高等学校等を『スーパ ーグローバルハイスクール (SGH)』に指定し、質の高いカ リキュラムの開発・実践やその体制整備を進める」事業を展 開することにいたしました。i



2014年に全国から国公立と私学246校がアプライし、 来校したドイツの高校生と 56校が指定されました。昨年度は190校が構想を提出し、本校を含む56校が新たに 加えられました。今年度は114校がチャレンジしましたが、11校の指定に留まってい ます。私立学校の指定は3年間で123校中38校です。その一校に選ばれたことはわた したちの教育モデルが「求められるグローバルリーダー育成」に相応しいと認められたと いうことになります。これは本校が開校以来実施してきた教育実践の一部ですが、わが国 の後期中等教育分野では括目すべき内容が有機的、効果的に普遍的に活用できることが公 に認められることを意味します。

では、グローバルリーダーとはどのような人材を指しているのでしょうか。それは、将 来のグローバルリーダーとは、「(1)世界の人々との交流を通じた経験から学ぼうとする 意欲 (2) 社会のために貢献しようとする志 (3) 失敗を乗り越え、試行錯誤しなが ら挑戦し続ける気持ち (4)様々なことに好奇心、探究心を有し、未知の領域に対して も挑戦する姿勢」を持ち続ける人材を指しているということです。



THINK GLOBALLY ACT LOCALLY ~地球規 模で考え地域で活動する~ これは私が関わりを持って いる「アジア協会アジア友の会 (JAFS) 創立 1979 年の NGO」のモットーです。ii 主に、アジアに"命の水"を 贈るコンセプトの下で広範な活動を展開されています。フ ィリピンのアンティーク県にある水道パイプライン完成

記念碑とバングラディッシュの井戸には「同志社国際高等学校 ポスターセッション 寄贈」というプレートが嵌っています。これはある時期に献金活動を推進した結果です。 また、宗教科で設置してきた「国際理解講座」ではこの団体から講師をお招きして豊かな 授業を実現してきました。この高校3年生選択授業が今回のSGH構想の基礎のひとつとな っています。GUS という講座名も出講下さった外資系企業勤務の講師の発言から着想した ものなのです。私はこの団体を通してネパールのシンドゥ・パルチョーク郡(チョウタラ村) に大学生や社会人の方々と民泊しながら植林ボランティアを体験してきました。ここから 「水の問題」に強い関心を抱き、全般的な環境問題へと視野を拡げてまいりました。

グローバル・イシューを対象とするリーダー養成カリキュラムの導入テーマはこのよう にして固まってきたのです。環境保全について先進国モデルに学ぶことは「入口」にすぎ

ません。具体的にはドイツモデルとオーストリア モデルですが、環境首都と呼ばれるフライブルク にも再生可能エネルギーによる地域活性の奇跡 のモデルと言われるギュッシングにも未解決な 問題は残っています。その現実を学び、観ること でひとりひとりがクリティカルシンキングを発 揮して広範囲な視点を持つ持続可能な社会iiiを担 うリーダーに育って欲しいと願いつつ研究開発 に取り組んでいく所存です。



アクティブラーニング

iii http://www.mext.go.jp/unesco/ ESD =Education for Sustainable Development 解説



ドイツ大使館訪問

i <a href="http://www.sghc.jp/">http://www.sghc.jp/</a> 文部科学省HP SGH 専用ホームページをご参照ください。

ii <u>http://jafs.or.jp/</u> 公益社団法人 アジア協会アジア友の会

学校便り 2017 年 二学期

【 SGH スーパーグローバルハイスクール 】 研究開発実行委員長 山本真司

二年目に入った SGH、今年最初のフィールド・ワーク、GUS-Basic 生徒対象の「バイオマ スツアー真庭」を11月13日夕刻から14日に家庭研修日を利用して実施しました。真庭市



真庭市役所 バイオマス発電施設

が実践しているによるエコツアーに 参加し、豊かな森林資源を生かし、 バイオマス事業を軸に持続可能な社 会構築を目指している現場を見学し ました。



富原地区の百年美林



学校便り 2017年度 三学期

#### 【 SGH フィールド・ワーク 】

スーパーグローバルハイスクールに指定されて初めての海 外研修を高 2GUS- I 選択生徒 18 名とドイツ・オーストリアで 実施しました。全期間を通じて、レクチャー、見学、体験と濃密 なスケジュールをこなしました。その中でも、アドヴェント・ミサを フライブルクのカトリック聖堂で守ることがキリスト教学校である 同志社の面目躍如というところでしょうか。また、手工業組合が 伝統的なマイスター制度(徒弟制度)を背景に地道な技術伝 承を続けていることを知り、日本の職業キャリアパスのあり方を 考えさせられました。私たちの訪問は全ドイツ手工業組合機関





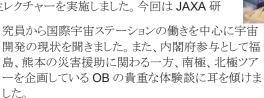
誌に掲載されました。

フライブルクではドイツが誇る BUND が運営する Öko-Station で現地のギムナジウム生徒向けに実施して いる体験、実験型の学習に触れることができました。狭量 な世界観からではなく、ひとつひとつの学習や体験を通し

て新しい課題を自ら発見し、取り組んでいく方法論 を包括的に学ぶスキルを身に着けていきたいと願 っています。

高 1GUS-Basic では 1月に東京フィールドワー

クを実施しました。ドイツ大使館を表敬訪問し、大使公邸や庭園を散策させていだき、 大使館ご用達ドイツパン専門店製のパンに舌鼓を打ちました。今回は外務省を訪問し、 その役割を知り、本校を卒業した外務職員の生の声を聴くことができました。夕食後の 時間を使って、グローバルに働く卒業生レクチャーを実施しました。今回は JAXA 研



国境が意味をなさない「グローバリズム」を体現して いる卒業生の語る世界を味わう豊かなひとときでした。 本校が持つ世界に広がるリソース・パーソンとの連携 を用いさせていただくことができれば、さらに充実した



プログラムを開発できるのではないでしょうか。



OB のレクチャー グローバルに働く



JAXA 種子島発射場

#### 4-2 運営指導委員会記録

#### 【第2回 SGH 運営指導委員会】

- (1) 日 時 7月15日(金)
- (2) 場 所 同志社国際高等学校 啓真館 3 階 大会議室
- (3) 出席者 運営指導委員:

戸倉良一委員(京都新聞社 論説委員) 原田紀久子委員(特定非営利活動法人 アントプレナーシップ開発センター 代表) 林 敢太(京田辺市市役所 市民部長)

担当教員:戸田、山本、坂下、今井、帖佐、佐藤、宅間

#### (4) 議事

①学校側より SGH 取組みを報告

報告1:2015年度取組み報告

・報告 2:2016 年度 GUS Basic の取組み報告 ・報告 3:2016 年度 GUS-I の取組み報告

#### ②運営指導委員からの指導助言

- ・具体的な提言先がまだ不透明で、具体的な目標がカリキュラムに定められていないため、 具体的に議論がし辛いところがある。
- ・取組みの成果を数値化して生徒達の意識が具体的にどう変わったのか示して欲しい。
- ・国際の良いところは、生徒自身の問題意識を高めるところからの導入なので、そこをうまく 吸い上げて成果を出して欲しい。
- ・予算がなくなっても、カリキュラムの改革等をしてこのプログラムを残していくことが 望ましいので、その点でも地域を巻き込んで一緒に取り組むといった必要性を感じる。
- ・グローバルリーダーの育成であれば、地域レベルでも自分たちで考え実際に行動し そして第3者を巻き込んでの訓練が不可欠で、カリキュラムに具体的な形で取り入れて いってはどうか。
- ・京都の身近な環境問題に取り組んでいる団体、人から実際に学べる事が大きいと思うので 実際に足を運ぶ、参加する、または講師として招き、意見を交わして提言を練り上げていけば 参考になる。
- ・提言は、既に日頃からの問題意識の高さと行動を起していることが説得力に繋がるので、 学校も一緒に取り組める形で、日頃の環境への取組みから生徒達の意識を高めるようにして はどうか。
- ・研修に行く生徒の選考について難しさを感じる。

貴重なご意見、ご助言をいただきました。

### 4-3 調査 (Fragebogen) と自己評価 (Self-Evaluation)

#### 4-3-1 GUS-B 自己評価ルーブリック基準表

GUS-B 自己評価ルーブリック基準表

#### A 課題学習 (理解)

- 3 基本的な知識を習得したうえで、さらに自分で調べ、考え、工夫を加えることができる。
- 2 基本的な知識を習得している。
- 1 基本的な知識を習得できていない。
- B 課題学習(伝達)
- 3 基本的な知識を活用して、さらに独自の課題解決や発表ができる。
- 2 基本的な知識をもとに、クラス内発表などで力を発揮できる。
- 1 身につけた知識を発揮できない。
- C 課題学習(態度)
- 3 リーダーシップを発揮し、全体への問題提起や解決の方向性を見出すことができる。
- 2 意欲をもって、積極的に学習に取り組み、クラスに良い影響を与えることができる。
- 1 学習への取り組みが消極的であり、クラスへの影響を意識することができない。
- D プレゼンテーション(知識)
- 3 発表すべき知識を十分に実証し、想定しない質問にも答えることができる。
- 2 発表すべき事項は説明できるが、想定していない質問には答えることができない。
- 1 発表すべき内容の全てを理解していないが、初歩的な質問には答えることができる。
- E プレゼンテーション (図表)
- 3 資料を視覚的に理解しやすく概念や数値に関する事項を図表化することができる。
- 2 資料を視覚的に理解しやすく数値に関する事項を図表化することができる。
- 1 図表を作成する技術はあるが、発表の内容と関連付けることができない。
- F プレゼンテーション (目線)
- 3 聞き手とアイコンタクトを保ち、手元の資料をほとんど見ないで発表することができる。
- 2 聞き手とアイコンタクトをとっているが、頻繁に手元の資料を見なければならない。
- 1 時々アイコンタクトをとっているが、ほとんど資料を読んでいる。

 $\overline{\phantom{a}}$ 

GUS-B 自己評価ルーブリック基準表

- G プレゼンテーション (声・意志)
- 3 明瞭な声で、相手に伝える意思をはっきりと保つことができる。
- 2 明瞭な声だが、相手に伝える意思が弱い。
- 1 声が聞きにくく、相手に伝わりにくい。
- H 総合的な自己評価(決定プロセス)
- 3 自分で調べたい事項を主体的に決定できる。
- 2 自分で調べたい事項をいくつか挙げることができる。
- 1 自分で調べたい事項を決定する場合、協力者が必要になる。
- I 総合的な自己評価(情報取得プロセス)
- 3 適切な情報源を選択し、それらを有機的かつ効果的に利用することができる。
- 2 情報源を選択することはできるが、適切かどうかを判断することができず、関連付けることが難しい。
- 1 情報源を発見し、活用する場合、協力者が必要になる。
- J 総合的な自己評価(情報分析)
- 3 必要な情報を効果的に判断し、課題解決に必要な自己の基準を設定することができる。
- 2 必要な情報を判断する場合に、一定の自己の基準が設定することができない場合がある。
- 1 必要な情報を自己基準だけでは判断できない。常に助言者を必要とする。
- K 総合的な自己評価(情報の管理と加工)
- 3 情報を必要に応じて整理し、保存することができる。また、自己の知識と関連付けて活用できる。
- 2 いくつかの情報を整理できるが、正確な保存をし、必要に応じて活用することはできない。
- 1 情報を収集することはできるが、自己の必要に応じて加工、活用することができない。
- L 総合的な自己評価(まとめ)
- 3 まとめた情報などをもとに発表、レポート作成、共同作業を円滑にすることができる。
- 2 まとめた情報などをもとに自己の成果を発表できるが、共同作業に活用することは難しい。
- 1 まとめた情報を発表するためには協力者や助言者を必要とする。

 $\sim$ 

GUS-B 自己評価ルーブリック基準表

	A	В	С	D	Е	F	G	Н	Ι	J	K	L	コメント
グローバルイシュー													
持続可能な社会													
持続可能な開発目標													
環境政策													
経済環境学の考え方													
ムヒカ大統領													
再生可能エネルギー													
京都の森林資源													
真庭フィールドワーク													
東京フィールドワーク													
カーボンニュートラル													
バイオマス													
グリューネプンクト													
デポジット													
地域熱供給													

 $\bigcirc$ 

GUS-B 自己評価ルーブリック基準表

\* 以下の質問に当てはまる欄に√を入れてください。

	用語を知	用語を説	授業で体	授業で体	知らない
	っている	明できる	験した	験しない	
アクティブラーニング					
クリティカルシンキング					
KJ 法(ポストイット)					
ロジカルツリー					
21 世紀型スキル					
再生可能エネルギー					
学習者中心型学習					
問題解決型学習					
プロジェクト型学習					
探究学習					
協働学習					

 組	番	氏名	 	 

4

#### 4-3-2 GUS-B+GUS-I 自己評価ルーブリック基準表

GUS-B+GUS-I 自己評価ルーブリック基準表

- 1 課題学習 (理解)
- 3 基本的な知識を習得したうえで、さらに自分で調べ、考え、工夫を加えることができる。
- 2 基本的な知識を習得している。
- 1 基本的な知識を習得できていない。
- 2 課題学習(伝達)
- 3 基本的な知識を活用して、さらに独自の課題解決や発表ができる。
- 2 基本的な知識をもとに、クラス内発表などで力を発揮できる。
- 1 身につけた知識を発揮できない。
- 3 課題学習(態度)
- 3 リーダーシップを発揮し、全体への問題提起や解決の方向性を見出すことができる。
- 2 意欲をもって、積極的に学習に取り組み、クラスに良い影響を与えることができる。
- 1 学習への取り組みが消極的であり、クラスへの影響を意識することができない。
- 4 プレゼンテーション (知識)
- 3 発表すべき知識を十分に実証し、想定しない質問にも答えることができる。
- 2 発表すべき事項は説明できるが、想定していない質問には答えることができない。
- 1 発表すべき内容の全てを理解していないが、初歩的な質問には答えることができる。
- 5 プレゼンテーション (図表)
- 3 資料を視覚的に理解しやすく概念や数値に関する事項を図表化することができる。
- 2 資料を視覚的に理解しやすく数値に関する事項を図表化することができる。
- 1 図表を作成する技術はあるが、発表の内容と関連付けることができない。

#### 6プレゼンテーション(目線)

- 3 聞き手とアイコンタクトを保ち、手元の資料をほとんど見ないで発表することができる。
- 2 聞き手とアイコンタクトをとっているが、頻繁に手元の資料を見なければならない。
- 1 時々アイコンタクトをとっているが、ほとんど資料を読んでいる。

7プレゼンテーション (声・意志)

\_

GUS-B+GUS-I 自己評価ルーブリック基準表

- 明瞭な声で、相手に伝える意思をはっきりと保つことができる。 3
- 2 明瞭な声だが、相手に伝える意思が弱い。
- 声が聞きにくく、相手に伝わりにくい。 1
- 8 総合的な自己評価(決定プロセス)
- 自分で調べたい事項を主体的に決定できる。 3
- 自分で調べたい事項をいくつか挙げることができる。 2
- 1 自分で調べたい事項を決定する場合、協力者が必要になる。
- 総合的な自己評価(情報取得プロセス)
- 適切な情報源を選択し、それらを有機的かつ効果的に利用することができる。
- 2 情報源を選択することはできるが、適切かどうかを判断することができず、関連付けることが難しい。
- 1 情報源を発見し、活用する場合、協力者が必要になる。
- 10 総合的な自己評価(情報分析)
- 3 必要な情報を効果的に判断し、課題解決に必要な自己の基準を設定することができる。
- 2 必要な情報を判断する場合に、一定の自己の基準が設定することができない場合がある。
- 必要な情報を自己基準だけでは判断できない。常に助言者を必要とする。 1
- 11 総合的な自己評価(情報の管理と加工)
- 情報を必要に応じて整理し、保存することができる。また、自己の知識と関連付けて活用できる。 3
- いくつかの情報を整理できるが、正確な保存をし、必要に応じて活用することはできない。 2
- 情報を収集することはできるが、自己の必要に応じて加工、活用することができない。 1
- 12 総合的な自己評価(まとめ)
- まとめた情報などをもとに発表、レポート作成、共同作業を円滑にすることができる。 3
- 2 まとめた情報などをもとに自己の成果を発表できるが、共同作業に活用することは難しい。
- まとめた情報を発表するためには協力者や助言者を必要とする。 1

GUS-B+GUS-I 自己評価ルーブリック基準表

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	コメント
文明崩壊													
グローバル市民													
真庭の実践 講演													
環境問題総論													
バイオマスツアー													
環境経済学の考え方													
京都の森林資源													
エネファーム 講演													
プレゼンテーション基礎													
フライブルク調べと発表													
ギュッシング調べと発表													
東京フィールドワーク													
TEDxSapporo xKyoto													
+6°C DVD													
Rio <sup>+</sup> 20 Mujica 大統領													
コミュニケ G7-TOYAMA													
水 Blue-Gold、仮想水													
銃・病原菌・鉄 DVD													
欧州の盟主ドイツの急変													
国際企業コンサルタント													
OECD OG 講演													
ジャーナリストの目講演													
外交官家族の経験 講演													

 $\bigcirc$ 

GUS-B+GUS-I 自己評価ルーブリック基準表

AIESEC 活動プレゼン							
海外で学ぶこと OG 講演							
温暖化防止対策 京田辺							
グローバル商品国際結婚							
ドイツ・オーストリア FW							
総合評価							

	用語を知って	用語を説明	授業で体験	授業で体験	用語を知らない
	いる	できる	した	しない	
アクティブラーニング					
クリティカルシンキング					
KJ法(ポストイット)					
マイクロラボ					
21 世紀型スキル					
国際バカロレア					
学習者中心型学習					
問題解決型学習					
プロジェクト型学習					
探究学習					
協働学習					
アクション・リサーチ					
ポスターセッション					
ギャラリーウオーク					

組	番	氏名			

GUS-I SGH アンケート 1

1 2016年(高校入学)時点で取得していた語学資格を教えてください。

名称	級 グレード スコアーなど	特記事項
英語検定		
TOEFL		
TOEIC		
ドイツ語		
フランス語		
スペイン語		
中国語		
韓国語		
その他( )		

2 2017年 (今年度) 新たに取得した語学資格を教えて下さい。

名称	級 グレード スコアーなど	特記事項
英語検定		
TOEFL		
TOEIC		
ドイツ語		
フランス語		
スペイン語		
中国語		
韓国語		
その他 ( )		

GUS-I SGHアンケート 1

3 2016年度 海外への渡航について教えてください。

形態	渡航先(国名・都市名)
個人旅行	
留学・研修 1ヶ月以内	
留学・研修 3ヶ月以内	
その他	
海外へは行かなかった	

渡航した結果を教えて下さい(必須)		

4 GUS-Basic、GUS-Iの学びを通して異文化への関心が変化したかどうか教えてください。

	渡航先(国名・都市名)
個人旅行に行きたい	
短期留学をしたい	
1年以上留学をしたい	
海外の大学へ進学したい	
海外で働きたい	
変化はなかった	

此の質問について理由	日など自由に書いて下さ	い(必須)	

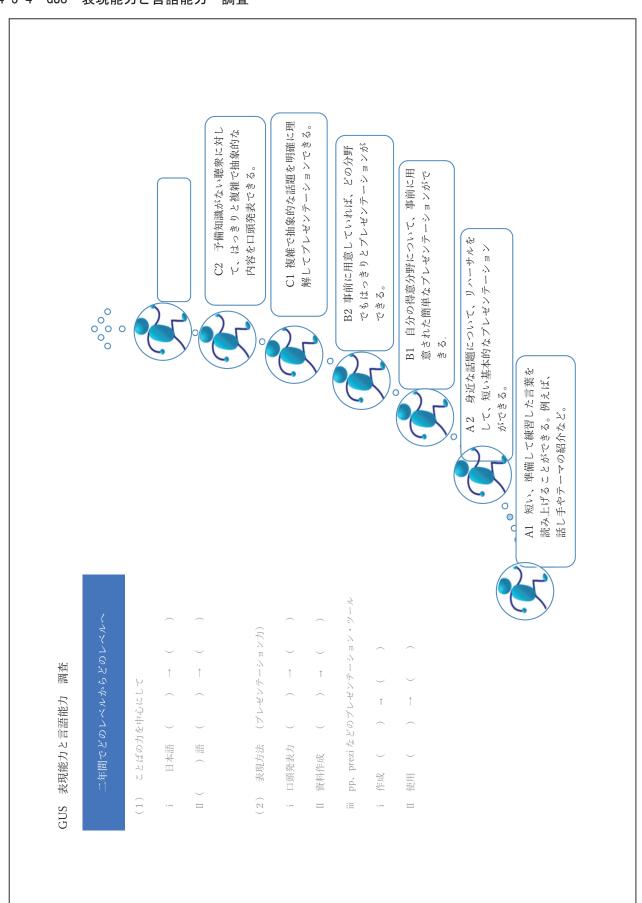
GUS-I SGHアンケート 1

5 GUS-Basic、GUS-Iの学びを通して次の項目に答えてください。(該当グレードにチェック)  $5 = 強く思う \quad 4 =$ そう思う 3 =変わらない 2 =そう思わない 1 =全く思わない

		5	4	3	2	1
1	学習を通して、国内のニュースに関心が高まった。					
2	学習を通して、国際的なニュースに関心が高まった。					
3	日本についてより多くの事項を知りたくなった。					
4	世界についてより多くの事柄を知りたくなった。					
5	外国語の勉強に対する関心が高まった。					
6	教科、科目とニュースや情報と関連付けて考えるようになった。					
7	進路(大学など)や職業選択の可能性が広がった。					
8	校外での活動に興味を持つようになった。(参加するようになった)					
9	学習内容 (知識や疑問) が友人や家族との話題になったことがある。					
1 0	学習内容をアウトプット(発表や投稿)したくなったことがある。					
1 1	SGH 科目(GUS-Basic、GUS-I)をきっかけに新しいことを始めた。					
1 2	SGH 科目が 1 年次に必修なのは良いことだと思う。					
1 3	他の SGH 指定校との共同作業や交流をしたいと思う。					
1 4	進学先に SGU(スーパーグローバルユニバーシティ)を意識している。					
1 5	本校が SGH に指定されて良かったと思う。					

6	GUS-Basic、	GUS- I について自由に意見を書いて下さい(必須)
氏名	7	
141	4	

#### 4-3-4 GUS 表現能力と言語能力 調査



#### 4-4 学校 HP SGH 情報のバイリンガル化

#### The "Super Global High School"

The Super Global High School, or SGH, is an initiative of Japan's Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT) that aims to develop, train, and mentor today's high school students into tomorrow's global leaders.

Doshisha International Junior/Senior High School was designated as an SGH Associate School by MEXT in 2014, and then as an SGH School in 2015. Each designated school in Japan receives funding and other support from the central government, while at the same time implementing an approach that conforms to its own distinctive characteristics.

The Doshisha approach

# Doshisha Research & Development Program Global Human Resources Development Program for a Sustainable Tomorrow:

Learning from environmentally advanced countries to bring new proposals to the rest of the world



Research best practices utilized by environmentally advanced countries in order to achieve greater sustainability



Enhance students' ability to conduct research and discussions in English



Develop global leaders capable of communicating and taking action in the world with an awareness of the global-scale environmental challenges we face today

Unitize Doshisha's core educational concepts of;
collaborative learning between returnee students and those educated in Japanpeace and human rights education



#### Students develop the capabilities to:

- Apply actual best practices of environmentally advanced nations to their own local environment, enabling them to form concrete sustainability-focused proposals for action that are firmly rooted in a deep understanding of our planet's unique characteristics.
- Write proposals in both Japanese and English. Documents in Japanese are submitted to both the Prefecture and City of Kyoto, and those in English to the United Nations Environment Programme (UNEP) and the Organisation for Economic Co-operation and Development (OECD).
- Develop and submit their own individual proposals to various domestic and international organizations concerning global-scale environmental challenges.

#### Curriculum overview

## Research best practices utilized by environmentally advanced countries to achieve greater sustainability

First-year students

#### Global Understanding Skills (Basic) (mandatory course)

## Purpose: To acquire a baseline knowledge of how to achieve a sustainable society by examining actual best practices from environmentally advanced countries

Returnee students as well as those educated in Japan share their experience of living abroad and Japan with one another, allowing them to contextualize their individual experiences within a global perspective. This helps students expand their horizons, knowledge, and outlook; and more effectively tackle the global-scale issues facing society today.

Students explore a wide variety of themes and acquire valuable knowledge from professors of Doshisha University and Doshisha Women's College of Liberal Arts, who serve as instructors.

Students study best practices from Austria, Germany, and other environmentally advanced countries.

Students conduct field work in the city of Maniwa, Okayama Prefecture, applying what they have learned from best practices, while simultaneously gaining valuable hands-on training.

Second-year students

#### **Global Understanding Skills I**

## Purpose: To learn how to more effectively utilize and circulate environmental resources through hands-on experience abroad, and then share one's findings both inside and outside the school.

Students conduct field work in Australia and Germany

Students share their research topics with other students from affiliated schools in the United States, England, Germany, France, Taiwan, and Korea; participating in discussions and exchanges of ideas while developing a multifaceted viewpoint.

Write up field work reports in both English and Japanese for release within the school, as well as publication online.

Students conduct research and also engage in discussions and Q&A sessions with relevant organizations and governing bodies in preparation for their third year, when they will draft actual policy proposals.

Third-year students

#### **Global Understanding Skills II**

# Purpose: To produce policy proposals for achieving a more sustainable society and submit them to international organizations and local communities, as well as to produce a collection of student-written research papers.

Students develop policy proposals utilizing the baseline knowledge they have acquired, the logical and critical thinking skills they have developed, and fruits of their research they have produced during the course of the past two years. The students then submit their proposals to international organizations and local communities.

Students participate in environmental education by giving presentations at elementary schools in Doshisha, with the aim of encouraging children to be more aware of their world and develop environmentally-friendly habits in their daily lives well before adulthood.

Students write research papers, which are then compiled and published within the school, and then present their findings to the entire student body.

#### Enhance students' ability to conduct research and discussions in English

Second-year students

#### Research, Debate, and Presentation

Through a debate-based format, students learn how to present their ideas, organize their own points based on those presented by their opponents, and construct effective logical arguments. In addition, students also learn how to conduct research on the topic in question, thereby increasing the quality of the debate itself.

Third-year students

#### **Advanced Academic English**

Students develop the advanced English skills required to study at the university level in a native English-speaking environment, including the ability to read dissertations and other academic papers written in English, as well as to express one's ideas in a format appropriate for submission to an international organization or other body.

Students also engage in discussions and exchanges of ideas with native English-speaking students living abroad via a web-based social media platform designed for educational purposes.

All students

#### **International Exchange Program**

Students have the opportunity to participate in ongoing summer-only study abroad programs at Harvard University, Phillips Academy Andover, Smith College, and other institutions renowned for their first-rate educational and language study programs. In addition to interacting with other high school students from around the world, thereby being exposed to a diverse range of opinions and different ways of thinking, students can also improve their ability to actively participate in discussions as well as give presentations in English. Please note that student eligibility (school year) may differ depending on the specific program.

Students can also choose to participate in a variety of other international programs, which we have created utilizing the vast overseas network that have been built up since the founding of Doshisha International Junior/Senior High School. These programs enable students to further hone their communication skills and improve their command of English while also fostering a truly global perspective.

#### **Language Education**

Language learning classes are structured by level of proficiency (as opposed to mixed-ability classes) and always have a small number of students per class. This is so that each and every student can achieve tangible improvement with respect to his or her current ability. In addition to teaching students practical language skills, curriculums are also designed to educate them on the cultural and social context needed to fully apply their skills in the international community.

### スーパーグローバルハイスクールとは Super Global High School

SGH は、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する文部科学省の事業です。 本校は 2014 年に文部科学省より SGH( スーパーグローバルハイスクール ) アソシエイトの指定を受け、2015 年に、SGH の指定を受けました。各指定校は、国からの支援を受けて、それぞれに特色のある取り組みを進めて います。

#### 文部科学省

SGH 専用ホームページ

SGHアソシエイトとしての取り組み

本校の取り組み

#### 本校の研究開発構想名

持続可能な社会を担うグローバル人材育成プログラム ~環境先進国に学び世界に提言~



持続可能な社会の実現に向けて 先進的事例の調査・研究



英語によるディスカッション・ リサーチスキルの強化



地球規模で進む環境問題に対する問題意識を持ち、 世界に向けて発信・行動できるグローバル・リーダーを育てます

本校の教育の特徴である「帰国生徒と国内一般生徒との共習」「平和教育・人権教育」を生かして、 地球規模で進む環境問題 について考え、世界に発信、行動できる人材の育成をめざします。





- ・世界の先進的な事例を身近な地域に置き換え、地域の特性に根差した 持続可能な社会をめざす取り組みの提言を策定する。
- ・日本語と英語で作成した提言を、日本語版は京都府と京都市に、英語版は 国連環境計画(UNEP)と経済協力開発機構(OECD)に提出する。
- ・地球規模の課題について、国際機関を含めた諸機関に独自の提言ができる 人材を育成する。

帰国生徒と国内一般生徒との共習 平和教育・人権教育

具体的な取り組み・実践内容

#### 持続可能な社会の実現に向けて先進的事例の調査・研究

#### 1年生

#### 「Global Understanding Skills (Basic)」(必修科目)

#### 目的:持続可能な社会について先進的実例を学習、基礎的知識の習得

帰国生徒・国内一般生徒の生活経験を共有し、個別体験を世界的視野の中に位置づけ、グローバルな社会課題につながる幅広い視野、知識、態度を養います。

同志社大学・同志社女子大学の教員を講師に招き、グローバル社会や環境問題など、テーマに基づく基礎的な知識を学習します。

環境先進国であるオーストリア、ドイツの事例を学びます。

岡山県真庭市でフィールドワークを行い、先進事例の実地研修を行います。

#### 2年生

#### [Global Understanding Skills I]

#### 目的:資源の有効活用や循環運用を海外実地研修で学習、校内外への発信

環境先進国であるオーストリアやドイツでフィールドワークを行い、資源の有効活用や循環運用を学びます。

アメリカ・イギリス・ドイツ・フランス・台湾・大韓民国の海外提携校の高校生と、課題を共有し、多面的な視野で意見交換やディスカッションを行います。

フィールドワークの報告冊子、ホームページ(日本語版・英語版)を作成し、校内外に広く発信します。

政策提言の準備として、関係諸機関のリサーチや関係諸機関との質疑を行います。

#### 3年生

#### 「Global Understanding Skills II」

#### 目的:持続可能な社会の実現に向けた政策を国際機関や地域社会に提言、課題論文集の作成

2年間で養われた基礎知識と問題解決への理論的アプローチ、リサーチの内容に基づいて、持続可能な社会の実現に向けた政策を国際機関や地域社会に提言します。

小学生のうちから環境について考えたり、環境を意識した生活習慣を身に付けたりできるよう、法人内の小学校の児童に環境教育を行います。

課題論文集を作成し、成果を全校生徒に向けて発表します。

#### 英語によるディスカッション・リサーチスキルの強化

#### 2年生

#### [Research, Debate, and Presentation]

ディベート形式の練習によって、プレゼンテーションカ、相手の主張を踏まえて論点を整理するカ、自分の主張 の論法を構築する力を身につけます。さらに議論の質を高めるためのリサーチスキルを学びます。

#### 3年生

#### 「Advanced Academic English」

学術論文を読んだり国際機関に提出するのにふさわしい形式で提言の内容を表現したりできる、大学での学びに 通用する高度な英語を運用する能力を養います。

英語を第一言語として学んでいる海外の学生と、教育目的の交流サイトを利用して意見交換や議論を行います。

#### 全学年

#### 国際交流プログラム

Smith College、Phillips Academy Andover、Harvard Universityなど教育・語学レベルの高いサマープログ ラムの派遣を継続して行います。世界から集まる高校生などと交流を図り、多様な考えを吸収するとともに、英 語によるディスカッション・プレゼンテーションの実 践力を高めます(プログラムによって対象学年などがあり ます)。

開校以来つくりあげてきた海外のネットワークを生かした多様な国際プログラムへ参加し、コミュニケーション 力や語学力を磨くとともに グローバルな視点を養います。

#### 語学教育

現在のスキル以上の語学力を身に付けられるよう、習熟度別・少人数制クラスを継続し、国際社会で実践できる グローバルスタディとしての 語学教育を行います。



## 2016年度(平成28年度)第2年次 スーパーグローバルハイスクール 研究開発報告書

2017年3月24日発行

発行 同志社国際高等学校編集 SGH研究開発実行委員会印刷 有限会社木村桂文社